科目名	基礎化学
科目責任者	大場　浩
単位数他	１単位（15時間）理学選択・作業選択・言語選択　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	物質がどんな元素からどのような結合で構成されているか、物質の量や濃度計算、さらにどのような変化を示すか（化学反応）についての基礎的な内容が主である。日常環境内の化学的な事象にも言及する。
到達目標	1. 物質の構成元素とそれらの化学結合が理解できる。 2. 物質の量や濃度変化を化学反応に基づいて理解できる。 3. 酸、塩基と中和、酸化還元反応の基本が理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大場　浩 第１章　物質の構成、状態、分類および用途 第 1回：物質構成要素（元素・原子・分子・イオン）と物質の三態 第 2回：元素の周期律表と原子構造 第 3回：化学結合と物質の分類・用途 第２章　物質量、濃度および化学反応 第 4回：物質量と濃度計算（１）（原子量・分子量・％・モル・モル濃度など） （中間試験：第１章の範囲　３０分） 第 5回：物質量と濃度計算（２）（反応式の理解と反応生成物量の計算） 第 6回：酸と塩基、電離度、中和反応と塩、中和の計算問題 第 7回：酸化還元反応（１）酸化剤と還元剤 第 8回：酸化還元反応（２）金属の酸化還元反応、電池
アクティブラーニング	特に物質量や濃度計算は、授業中、タイプの異なる演習問題出題し、個々の学生の板書を通して理解をはかる。

授業内のICT活用	なし
評価方法	中間試験（４０％）、定期試験（６０％）で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の提出のリアクションペーパーでの質問に答えるほか、課題の演習問題、中間試験の解答・解説や定期試験の解答例を提示する。
指定図書	なし。毎回に講義資料をパワーポイントで解説
参考図書	講義で紹介
事前・事後学修	講義でのポイントや演習問題を中心に事後学修を４０分程度してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは、リアクションペーパーを介して受け付けています。
実務経験に関する記述	なし

科目名	基礎物理学
科目責任者	津森　伸一
単位数他	１単位（15時間）　理学選択・作業選択・言語選択　　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため，人の運動やリハビリテーションに用いる道具・器械の働きを深く理解するためには物理学の知識が不可欠である．本科目はリハビリテーション領域の前提知識となる力学分野の基本を習得することを目的とする．なお，高等学校「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生にも配慮する．
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる． 2. 法則の数式的意味を理解し，物理現象を数式として表現できる． 3. 物理法則や数式の持つ意味を言葉で分かり易く説明できる．
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　津森 伸一 第1回　ガイダンス，物理量とその表し方，物理学で使うグラフと関数 第2回　いろいろな運動 第3回　さまざまな力(1)（重力，張力，垂直抗力など） 第4回　さまざまな力(2)（摩擦力，弾性力など） 第5回　力のつり合いと運動の法則(1)（慣性の法則，運動方程式など） 第6回　力のつり合いと運動の法則(2)（作用・反作用の法則など） 第7回　物体の重心と回転運動 第8回　運動量，仕事とエネルギー
アクティブラーニング	ビデオ閲覧と学習管理システムを用いた確認用の小テストを事前課題とする反転授業を実施する．授業においてはグループによる問題演習を行う．

授業内のICT活用	パソコンを使用するので，毎時間持参すること．
評価方法	小テスト30%，リアクションペーパ10%，定期試験60%として評価する．
課題に対するフィードバック	学習管理システムを用いた小テストを行い，解答後即座に正解・解説と採点結果を返す．また，授業毎のリアクションペーパを学習管理システムにより提出してもらい，質問や意見については個別に返信する．
指定図書	望月久，棚橋信雄 編著『PT・OT ゼロからの物理学』，羊土社
参考図書	・高等学校「物理基礎」「物理」教科書 ・演習用の問題プリントを適宜配布する
事前・事後学修	事前学修として，指定されたビデオ教材を閲覧し小テストを行うこと．事後学修として，授業中に指定する演習問題を解き理解を深めること．目安時間40分．
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517研究室 時間：木曜日　9時～12時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．
実務経験に関する記述	なし

科目名	統計学・疫学概論
科目責任者	西川　浩昭
単位数他	２単位（30時間）　理学選択・作業選択　１セメスター　言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	〈隆朋也 担当分〉　医療分野で必要となるデータ処理方法としての統計学の基礎的事項について、問題を科学的に解決するための論理および手法を学びます。主に1つの変数について分析する手法を扱います。 〈西川浩昭 担当分〉　集団における健康問題の現状を明らかにし、因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論を学習する。具体的には疫学の歴史的背景、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学習する。
到達目標	〈隆朋也 担当分〉 １．データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 ２．データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 ３．母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 〈西川浩昭 担当分〉 １．疫学の概念について理解する。 ２．疫学的因果関係について理解する。 ３．疫学的研究法について理解する。 ４．疫学指標を算出できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞隆朋也、西川浩昭 〈隆朋也 担当分〉 第１回：ガイダンス、母集団と標本 第２回：分布を描く、分布の代表値 第３回：分布の散布度 第４回：正規分布 第５回：母集団での平均値の推定 第６回：割合に関する分布 第７回：検定 第８回：2グループの母平均値の差の検定 〈西川浩昭 担当分〉 第９回　ガイダンス・疫学の概念と歴史、疫学の専門用語 第10回　疫学指標 第11回　疫学研究法①　記述疫学、横断研究、地域相関研究 第12回　疫学研究法②　コホート研究 第13回　疫学研究法③　症例対照研究 第14回　疫学的因果論、関連の指標 第15回　スクリーニング検査

アクティブラーニング	WebClassを用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内のICT活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	〈隆朋也 担当分〉　筆記試験100% 〈西川浩昭 担当分〉　原則は筆記試験 100% （ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。）
課題に対するフィードバック	口頭や配布資料、WebClassへの提示などによって行う。
指定図書	〈隆朋也 担当分〉　高木廣文著　「ナースのための統計学 第２版」医学書院 〈西川浩昭 担当分〉日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂
参考図書	〈西川浩昭 担当分〉 中村好一 基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版 医学書院 2017 柳川 洋　疫学マニュアル 改訂7版　南山堂 丸井英二　疫学/保健統計 第3版　メヂカルフレンド社
事前・事後学修	〈隆朋也 担当分〉　事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15分）。事後学修として、教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（25分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。授業で使用するスライドデータや関連資料を随時WebClassに掲載します。事前・事後学修に活用してください。 〈西川浩昭 担当分〉衛生学・公衆衛生学の最低レベルの知識が必要になります。これについては各自で学習してください。 各回の授業に対する事前学修としては、指定図書等の予習。時間の目安は約30分程度です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	社会福祉原論
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30時間）　理学選択・作業選択　２セメスター　言語必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2教養基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。
到達目標	１．社会福祉の基礎概念を説明できる。 ２．社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 ３．医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞野田由佳里 第 1回：現代社会における社会福祉：基礎概念 事前課題１：社会福祉の意味・社会福祉法第3条・第4条を調べる 第 2回：福祉サービス：社会福祉の仕組み 事前課題２：「日常生活」の意味を調べる 第 3回：社会福祉と「日常生活」の意味を考える 事前課題３：生活の営みを考える 第 4回：「日常生活を営む」ことの支援の意味を考える 事前課題４：憲法第25条を調べる 第 5回：憲法第25条「最低限度の生活」と社会福祉の歩み：社会保障・公的扶助 事前課題５：ホームレスの定義を調べる 第 6回：日本の住宅問題を社会福祉から考える 事前課題６：日常生活と社会生活の違いを調べる 第 7回：「日常生活」と「社会福祉」を障害者福祉の歩みから考える 事前課題７：ケアマネジャーの役割を調べる 第 8回：個別支援とケアマネジメントの登場：社会福祉の援助と方法 事前課題８：病院の歴史を調べる 第 9回：医療と社会福祉 事前課題９：「地域包括ケアシステム」の意味を調べる 第10回：医療機関の役割の変化と地域包括ケアシステム 事前課題１０：協働の意味を調べる 第11回：医療と介護・福祉の協働 事前課題１１：利用者支援の仕組みを調べる 第12回：利用者支援 事前課題１２：社会福祉士・介護福祉士の意味を調べる 第13回：社会福祉職の役割と実際 事前課題１３：社会福祉の課題を調べる 第14回：少子高齢社会・人口減少社会と社会福祉の今後：社会福祉の課題

	第15回：まとめ
アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
授業内のICT活用	・ICTを活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 ・毎回の授業でWebclassを活用します。
評価方法	事前課題・事後課題レポート15回を含むミニレポート3回（90%）・発言係（10%）
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やMoodleなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書	川上昌子「社会福祉原論読本」学文社 山辺朗子「ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開」ミネルヴァ書房
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを15分以上読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、40分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 （yukari-n@seirei.ac.jp）
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎演習
科目責任者	新宮　尚人
単位数他	１単位(30時間)　理学必修・作業必修・言語必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP1教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	リハビリテーション専門職者を目指す学生として、基本的な心構えと態度（スチューデントスキル）と、大学での学びを円滑に進めるための学習の基礎技能（スタディスキル）を学修する。授業を通して４年間の学びの基盤を作ることを目的とする。
到達目標	1.リハビリテーション専門職者を目指す大学生としてのマナーや社会規範を身につけ実践できる。 2.国際的視野に立ち、リハビリテーション専門職者に求められるコミュニケーションスキル、情報スキルの基礎を身につけ実践できる 3.課題の発見と解決力を養う方法について知り、４年間の学びの基礎を理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：オリエンテーション、建学の精神と本学での学び　新宮尚人 第2回：大学で学ぶということ、リハ専門職者としての必要な資質　新宮尚人 第3回：リハビリテーション専門職の国際支援・援助活動　鈴木達也ほか 第4回：情報倫理　津森伸一 第5回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル①　飯田妙子 第6回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル②　飯田妙子

	第7回：グループワーク　前半のまとめ　新宮尚人 第8回-15回：学科に分かれて実施　根地嶋誠、矢部広樹、鈴木達也、大原重洋
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修を行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために演習を取り入れます。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	1－7回の内容でレポート提出50%、8－15回の内容でレポート提出50%
課題に対するフィードバック	レポートもしくはグループ発表に対してコメントをします。
指定図書	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ-くろしお出版，東京．2015
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安としますが、事前学習は時間外でのグループの打ち合わせや準備なども含みます。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、大学生活で活用することで定着をはかるように努力してください。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30時間）　理学選択・作業選択・言語選択　　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2教養基礎
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理解や技術を体系的に修得している。
科目概要	発達心理学の概論ではありません。生涯発達を見通しつつ、その初期段階としての乳幼児期と児童期を教科書やDVDを使って丁寧に見ながら、発達とその援助を心理学的に理解する授業です。受動的に授業を受講するだけでなく、学んだことを主体的にまとめ、関連した事柄を調べ、最終的に各年齢についての自分の学びを1冊のファイルにして提出する必要があります。
到達目標	1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人やモノとの相互的かかわりの中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性を理解し、それと保育・教育との関連性が説明できる。
授業計画	＜授業計画・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・評価基準・「発達」とは何か 第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育 第 3 回：0歳児前半の発達 第 4 回：0歳児後半の発達 第 5 回：1～2歳児の発達 第 6 回：2～3歳児の発達 第 7 回：ポートフォリオ中間発表会 第 8 回：3～4歳児の発達 第 9 回：4～5歳児の発達 第10回：5～6歳児の発達 第11回：学童期以降の発達と生涯発達 第12回：発達障害と発達支援 第13回：「発達」と「環境」：子ども観と教育観・社会文化的アプローチ 第14回：心理学理論のまとめ ①ピアジェ・ヴィゴツキー 第15回：心理学理論のまとめ ②エリクソン・ロゴフ

アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
授業内のICT活用	各自のポートフォリオの製作の際には、PCやインターネットの使用を推奨します。
評価方法	ポートフォリオ100％ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0歳～6歳　子どもの発達と保育の本』（学研） その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	田中昌人『子どもの発達と診断１～５』（大月書店）、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育：遊びと育児』（エイデル研究所）、田中昌人・田中杉恵監修　DVD『発達診断の実際　全８巻』（大月書店）
事前・事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む（10分） 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。（60分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「子育て支援ひろばの発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保健医療福祉倫理学
科目責任者	冨澤　涼子
単位数他	１単位（15時間数）理学選択・作業選択・言語選択　2セメスター（2020年度入学生）
DP番号と科目領域	DP1教養基礎（2020年度入学生）
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	近年医学の進歩に伴い，生命誕生や途絶に医学が介入しはじめたことにより，単に医学だけでは解決できない多くの問題が浮き彫りになっている。この講義では，そのような諸問題を解決するための学問としての生命倫理学（バイオエシックス）の基礎を学ぶとともに，実際の医療やリハビリテーションの現場で生じる倫理的な問題に焦点を当て，グループディスカッション形式での演習を多く取り入れていく。
到達目標	１．医療における倫理問題に気づくようになる。 ２．倫理的推論を行い，分析できる手法を身につける。 ３．専門家としての倫理的資質を養い，態度を身につける。 ４．共感をもって患者の視点に気づき，そして理解する。
授業計画	＜担当教員名＞冨澤涼子、泉良太、伊藤信寿 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第　１回：倫理とは何か　冨澤涼子、泉良太 倫理とは何か、身近な例をもとに考える。 第　２回：　生命倫理学の重要概念　冨澤涼子、泉良太 生命倫理において重要な概念となるインフォームド・コンセント、パターナリズム、自己決定重視と共同体主義について説明する。 第　３回：　生命倫理学の重要概念　冨澤涼子、泉良太 生命倫理において重要な概念となる功利主義と義務論、秘密保持について説明する。 第４回：医療における倫理的ジレンマ　冨澤涼子、特別講師 障害を持つ当事者から障害を持ちながら生活する気持ちや生活変化に関する話を聞き、障害者の人権について考える機会とする。 第５回：生命倫理の諸問題４：優生思想　冨澤涼子、伊藤信寿 第６回：生命倫理の諸問題５：クローン人間　冨澤涼子、伊藤信寿 第７回：生命倫理の諸問題７：遺伝子診断・治療　冨澤涼子、伊藤信寿 第８回：生命倫理の諸問題９：安楽死・尊厳死　冨澤涼子、伊藤信寿 第４～８回は、それぞれのテーマを基に、グループディスカッションを行い、各グループで検討した内容を発表しあいことで、クライエントの視点、倫理的観点、倫理的態度を深める。 ※講義内容は、講義の進行等により、上記と異なる可能性もあります。
アクティブラーニング	講義はグループディスカッションを中心に行う予定ですので、主体的・積極的にディスカッションに参加をし、考えの多様性や倫理的観点を学ぶようにしてください。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。
評価方法	筆記試験60%、レポート40%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーにより、各回の授業への関心、学修習熟度、疑問点などを確認します。必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスを行います。
指定図書	吉川ひろみ著『生命倫理ワークブック』（三輪書店）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修20分以上、事後学修20分以上 指定図書は配付資料の次回講義に関連する箇所を事前に熟読すること、講義後は、講義内でテーマとなった生命・医療倫理の諸問題のディスカッション内容を振り返り、倫理的問題点の整理を行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	入門リハビリテーション英語　(PT)
科目責任者	パターソン・ドナルド　(Donald Patterson)
単位数他	１単位（30 時間）　理学必修　３セメスター・４セメスター
DP番号と科目領域	DP7教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。 代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を150 語以上（発音も含めて）覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 土江綾、他 第1 回：Becoming a therapist 第2 回：The workplace 第3 回：Sports 第4 回：The elderly 第5 回：Working with children 第6 回：Computer workstations 第7 回： Questionnaires 第8 回：まとめ、中間テスト 第9 回： Measurements 第10 回：Joints 第11 回：Posture 第12 回：グループワーク①（（リハビリに関連する疾患・障害について） 第13 回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について） 第14 回：発表会 第15 回：まとめ、期末テスト
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。

評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、発表 20%、中間テスト20%、最終テスト30%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間／期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano （作者）(Perceptia Press出版社) (ISBN 9784939130632)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。 学修時間の目安：事前学修30 分～1時間、事後学修30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	入門リハビリテーション英語　(OT)
科目責任者	パターソン・ドナルド　(Donald Patterson)
単位数他	１単位（30 時間）　作業必修　3 セメスター
DP番号と科目領域	DP7教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。 代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を150 語以上（発音も含めて）覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。 4. 英語でプレゼンテーションを行うことができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 土江綾、他 第1 回：Becoming a therapist 第2 回：The workplace 第3 回：Sports 第4 回：The elderly 第5 回：Working with children 第6 回：Computer workstations 第7 回： Questionnaires 第8 回：まとめ、中間テスト 第9 回： Measurements 第10 回：Joints 第11 回：Posture 第12 回：グループワーク①（（リハビリに関連する疾患・障害について） 第13 回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について） 第14 回：発表会 第15 回：まとめ、期末テスト
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。

評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、発表 20%、中間テスト20%、最終テスト30%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間／期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano （作者）(Perceptia Press出版社) (ISBN 9784939130632)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。 学修時間の目安：事前学修30 分～1時間、事後学修30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	入門リハビリテーション英語　(ST)
科目責任者	パターソン・ドナルド　(Donald Patterson)
単位数他	１単位（30 時間）　言語必修 ３　セメスター
DP番号と科目領域	DP7教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。 代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. リハビリテーションに関する英語の語彙を150 語以上（発音も含めて）覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 高瀬奈美、他 第1 回：Becoming a therapist 第2 回：The workplace 第3 回：The elderly 第4 回：Working with children 第5 回：Questionnaires 第6 回：Measurements 第7 回：Posture 第8 回：まとめ、中間テスト 第9 回：Activities of daily living 第10 回：Language 第11 回：Language 第12 回：グループワーク①（（リハビリに関連する疾患・障害について） 第13 回：グループワーク②（リハビリに関連する疾患・障害について） 第14 回：発表会 第15 回：まとめ、期末テスト
アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
授業内のICT活用	ICT機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。

評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、発表 20%、中間テスト20%、最終テスト30%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間／期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Therapy Care: An English Course for Therapists』by Jim Smiley, Michiyo Masui, & Tomoaki Asano （作者）(Perceptia Press出版社) (ISBN 9784939130632)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。 学修時間の目安：事前学修30 分～1時間、事後学修30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	キャリアデザイン
科目責任者	冨澤涼子
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修・言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP7教養基礎
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することが態度と志向性を身につけなければならない。本講義は、卒業後の就職と人生設計に向け、またリハビリテーション専門職者としてどのように社会活躍し、人生を創造していくかを考えます。リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を再確認するとともに、キャリアデザインの重要性を理解し、「社会人基礎力」を身につけ、リハビリテーション専門職者としての具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描く志向性を身につけることを目標とします。
到達目標	1）リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を確認する 2）自己分析，就職先分析により具体的な人生設計を考えられるようになる 3）キャリアサロンの開催により、学生の職業意識を高めるとともに具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描けるようになる.
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞冨澤涼子、矢部広樹、柴本勇 第1回：社会人としてのマナーを身につける 日常生活にて、挨拶や身だしなみ、礼儀作法を意識した生活を心がける。 外部講師：ハローワーク職員、冨澤涼子 第2回：コミュニケーションスキル 就職試験における面接技能を中心にコミュニケーションスキルをチェックする。事前に面接練習をして授業に参加する。 外部講師：ハローワーク職員、冨澤涼子 第3回：文書技能を高める エントリーシートの書き方を中心に文章作成の技能を高める。授業前に各自のエントリーシートを作成して授業に参加する 矢部広樹 第4回：メンタルヘルス 健康的な生活には、性格やストレス特性を理解し、対応方法を学ぶことが必要である。授業では、メンタルヘルスの基礎知識を学ぶ。 冨澤涼子 第5回：自己分析 「自己分析」を行い，自分の性格特性を客観的に評価し，就職活動に結びつける。 柴本勇 第6～8回：キャリアサロン

	「キャリアサロン」を開催する．卒業生を含めた小グループを構成し，グループの中で卒業生による「キャリアデザイン」のレクチュアーや「ソーシャルスキルトレーニング」としてのグループワークを行う．最後に，「キャリアサロン」で得た経験を今後の学生生活や就職活動にどのように生かすのかを文章にしてまとめる． 外部講師：ゲストスピーカー（卒業生）・全員 受講生へ ・自分のキャリアを考えることは、自分の一生をどう生きるかということを考えることでもあります。より良い人生を生きていくためにはどうすればよいか？またリハビリテーション専門職者としてのキャリアをどのように磨けば良いか？を考え、その実現のための手がかりを得てください。 ・授業の最後に満足度調査を行います．今回の「キャリアサロン」は，学生の皆さんに就職活動・人生設計を真剣に考える契機となることを願い企画した授業です．今後の「キャリアサロン」のあり方を検討する材料としたいのでご協力ください．
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	なし
評価方法	・リフレクションペーパーによる授業への取り組み30%、レポート提出と評価：70%（レポートを期限内に提出されない場合は、単位修得は認められませんので注意してください） ・ルーブリックは用いない
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを確認し、フィードバックします。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・事後学修	・履修前に各自のキャリアデザインを考えておいてください。授業中にそれぞれのデザインについてディスカッションします。 ・毎回の授業では、上記の授業内容に沿って復習と予習を行ってください。目安時間40分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3518研究室（冨澤涼子）、3512研究室（矢部広樹）、3408研究室（柴本勇）です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士，作業療法士，言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	解剖学
科目責任者	顧　寿智
単位数他	２単位（30時間）　　理学必修・作業必修・言語必修　　1セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では入門解剖学として、下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	人体の構成について述べることができる。 心臓血管系の構造と機能について述べることができる。 内臓系の基本的な構造と機能について述べることができる。 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞顧　寿智 第 1回：オリエンテーション、総論（人体の構成、細胞、組織） 第 2回：心臓血管系（血液、心臓の構造、） 第 3回：心臓血管系（心臓の血管、刺激伝道系、血管の構造） 第 4回：心臓血管系（循環路、リンパ系） 第 5回：呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺） 第 6回：消化器系（消化管の管壁、腹膜、口腔、咽頭） 第 7回：消化器系（食道、胃、小腸、大腸） 第 8回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）、中間テスト 第 9回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道） 第10回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器） 第11回：浜松医科大学での解剖学実習見学 第12回：実習見学まとめ

	第13回：運動器系（骨と骨格筋の構造、主な骨と骨格筋の名称、位置、作用） 第14回：内臓系、運動器系 第15回：まとめ
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内のICT活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ(Visible Body など) ・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	期末試験（７０％）、レポート（１０点）、中間テスト（１０％）、小テスト（１０％）を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ　人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　解剖学』野村嶬編、医学書院 相磯貞和訳『ネッター　解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（１コマ当たり約４０分以上）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」の受講を勧める。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404研究室 時間等：毎週火曜日　12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器解剖学
科目責任者	顧　寿智
単位数他	２単位（30時間）　　理学必修・作業必修　　1セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	医療職の中で理学療法士、作業療法士は最も運動器系の専門的な知識を要求される。組織学、解剖学用語をはじめとして、骨格、関節、靭帯、筋系などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。英語の専門用語の修得も大切である。チャレンジしてみてください。
到達目標	運動器系の基本的なマクロ構造を述べることができる。 全身骨の名称と構造を述べることができる。 体肢の関節と靭帯の名称と構造を述べることができる。 筋の名称と構造を述べることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞顧　寿智 Ａグループ　Ｂグループ 第 1回：　オリエンテーション、骨の組織学 第 2回：骨格系（頭蓋、）　骨格系（脊柱、胸郭） 第 3回：骨格系（脊柱、胸郭）　骨格系（頭蓋） 第 4回：骨格系（上肢の骨）　骨格系（下肢の骨） 第 5回：骨格系（下肢の骨）　骨格系（上肢の骨） 第 6回：関節靭帯（上肢の連結）　関節靭帯（下肢の連結） 第 7回：関節靭帯（下肢の連結）　関節靭帯（上肢の連結） 第 8回：　まとめ、中間テスト 第 9回：　筋の組織学 第 10回：　筋系（上肢の筋）　筋系（体幹の筋）　、 第 11回：　浜松医科大学での解剖学実習見学 第 12回：筋系（上肢の筋）　筋系（下肢の筋） 第 13回：筋系（下肢の筋）　筋系（上肢の筋） 第 14回：筋系（体幹の筋）　筋系（上肢の筋） 第15回：　まとめ 受講のための事前準備：赤青鉛筆

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内のICT活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ(Visible Body など) ・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	期末試験（６０％）、レポート（２０点）、中間テスト（１０％）、小テスト（１０％）を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　解剖学』野村嶬編、医学書院
参考図書	相磯貞和訳『ネッター　解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂 『トートラ　人体解剖生理学』佐伯由香等編訳
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（１コマ当たり約４０分以上）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」の受講を勧める。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404研究室 時間等：毎週火曜日　12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経解剖学
科目責任者	顧　寿智
単位数他	２単位（30時間）　　理学必修・作業必修　　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	神経解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	神経系の構成と主な機能を述べることができる。 感覚器系の構造と機能を述べることができる。 内分泌器系の構造と機能を述べることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞顧　寿智 第 1回：神経系の概観、神経組織 第 2回：髄膜と脳室系、神経系の発生 第 3回：脊髄、脳幹 第 4回：脳幹、小脳、 第 5回：大脳、伝導路 第 6回：解剖実験、 第 7回：脊髄神経 第 8回：脊髄神経 第 9回：まとめ、中間テスト 第 10回：脳神経 第 11回：脳神経、自律神経系 第 12回：感覚器系（皮膚、視覚、聴覚と平衡感覚） 第 13回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島） 第 14回：神経系・感覚器系、内分泌器系 第15回：まとめ
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。

授業内のICT活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ(Visible Body など）・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	期末試験（７０％）、中間テスト（２０％）、小間テスト（１０％）を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　解剖学』野村嶬編、医学書院
参考図書	相磯貞和訳『ネッター　解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂 『トートラ　人体解剖生理学』佐伯由香等編訳
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（１コマ当たり約４０分以上）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」の受講を勧める。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404研究室 時間等：毎週火曜日　12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人体機能学(動物性機能)
科目責任者	大林　雅春
単位数他	２単位（30時間）　理学必修・作業必修・言語必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。本科目では、「生理学」のうち『動物性機能』を担当し，特に脳，神経・筋肉，感覚と刺激の受容，運動の調節に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	1. 脳の機能について説明できる。 2. 神経・筋の機能について説明できる。 3. 感覚の受容について説明できる。 4. 運動の調節について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大林 雅春 第1回　オリエンテーション、神経系の基礎－1　（教科書第1，12章） 第2回　神経系の基礎－2　（教科書第12章） 第3回　自律神経系－1　（教科書第13章） 第4回　自律神経系－2　（教科書第13章） 第5回　脳－1　（教科書第14章） 第6回　脳－2　（教科書第14章） 第7回　脳－3　（教科書第14章） 第8回　感覚－1　（総論）　（教科書第15章） 第9回　感覚－2　（各論）　（教科書第15章） 第10回 感覚－3　（各論）　（教科書第15章） 第11回 筋収縮　（教科書第11章） 第12回 運動の調節－1　（教科書第8，16章） 第13回 運動の調節－2　（教科書第8，16章） 第14回 骨の生理学　（教科書第17章） 第15回 まとめ ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。
アクティブラーニング	Moodleに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。 知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
授業内のICT活用	授業中に配る講義資料に、講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。PCやタブレット、スマートフォンなど準備すること。

評価方法	課題提出10%、定期試験 90%、計100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第７版　南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜Moodleに掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として以下のURLの活用を勧めます。 生命科学教育シェアリンググループ（生理学問題集） http://physiology1.org/ その他、関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人体機能学(植物性機能)
科目責任者	大林　雅春
単位数他	１単位（30時間）　理学必修・作業必修・言語必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。本科目では、「生理学」のうち『植物性機能』を担当し，特に血液□体液，循環，呼吸，消化吸収，腎・泌尿器，代謝・体温調節、内分泌に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	1. 体液の組成、血液成分とその機能が説明できる。 2. 心臓を中心とする循環器系の概要および動脈系・静脈系の特徴、循環調節が説明できる。 3. 肺の構造と機能を理解し、肺容量分画、呼吸リズムの制御メカニズムを説明できる。 4. 消化器の構造と消化と吸収機能ならびに消化管の運動と調節を説明できる。 5. 腎臓において尿の形成がどのようにして行なわれ、排泄されるのかを説明できる。 6. エネルギー代謝ならびに体温調節の機序が説明できる。 7. 内分泌腺とホルモンの産生・作用機序を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大林 雅春 第 1 回 ：血液と体液－1　(教科書第2章) 第 2 回 ：血液と体液－2　(教科書第2章) 第 3 回 ：循環－1　(教科書第3章) 第 4 回 ：循環－2　(教科書第3章) 第 5 回 ：呼吸－1　(教科書第4章) 第 6 回 ：呼吸－2　(教科書第4章) 第 7 回 ：消化と吸収－1　(教科書第5章) 第 8 回 ：消化と吸収－2　(教科書第5章) 第 9 回 ：代謝と体温　(教科書第7･8章) 第10回：代謝と体温　(教科書第7･8章) 第11回：尿の生成と排泄－1　(教科書第6章) 第12回：尿の生成と排泄－2　(教科書第6章) 第13回：内分泌－1　(教科書第9章) 第14回：内分泌－2　(教科書第9章) 第15回：まとめ ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。

アクティブラーニング	Moodleに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。 知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
授業内のICT活用	授業中に配る講義資料に、講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。PCやタブレット、スマートフォンなど準備すること。
評価方法	課題提出10%、定期試験 90%、計100％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第7版　南江堂
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜Moodleに掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として以下のURLの活用を勧めます。 生命科学教育シェアリンググループ（生理学問題集） http://physiology1.org/ その他、関連する便利なサイトを授業中に随時連絡する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動学Ⅰ
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	１単位（30時間）　　理学必修・作業必修　　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	運動学の基礎的知識を習得する。人体の運動器の構造と機能，さらに身体運動の機構について学び，病変によるその障害を分析・治療するための基礎を身につけることを目的とする。授業は，講義および演習形式により進める。
到達目標	1. 運動を理解する際に必要な力学について説明できる。 2. 運動を構成する要素について説明できる。 3. 筋の収縮様態について説明できる。 4. 代表的な筋の起始・停止および作用を記述提示できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回：コースオリエンテーション，運動学総論（根地嶋） 運動学の理解に必要な用語の理解 第 2 回：運動学の基本原理　（根地嶋） 運動学の学修する共通事項の理解 第 3 回：下肢の運動-下肢帯と股関節の運動（根地嶋） 骨盤と股関節に関する構造と運動の理解，小テスト 第 4 回：下肢の運動-膝関節の運動　（根地嶋） 膝関節の構造と運動の理解，小テスト 第 5 回：下肢の運動-膝関節の運動 2　（根地嶋） 膝関節の構造と運動の理解 第 6 回：下肢の運動-足関節と足部の運動　（根地嶋） 足関節と足部の構造と運動の理解，小テスト 第 7 回：体幹の運動-頚・胸・腰椎の運動　（根地嶋） 脊柱と胸郭の構造と運動の理解，小テスト 第 8 回：下肢体幹のまとめ　（根地嶋） これまでの理解の確認 第 9 回：上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動　（根地嶋） 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解，小テスト 第 10 回：上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 2　（根地嶋） 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解 第 11 回：運動器を構成する組織　（根地嶋） 骨，関節，靭帯，腱，筋などの構造と運動の理解，小テスト 第 12 回：関節運動と筋，これまでのまとめ　（根地嶋） 関節と筋に関する理解，知識の確認 第 13 回：上肢の運動-肘関節と前腕の運動　（泉） 肘関節と前腕の構造と運動の理解，小テスト 第 14 回：上肢の運動-手関節と手の運動　（泉）

	手関節と手の構造と運動の理解 第 15 回：まとめ　　（根地嶋） これまでのまとめ，理解の確認
アクティブラーニング	Webclassの活用（動画視聴，学修ポイント問題集による事前事後学修）
授業内のICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用
評価方法	小テスト（30%）・期末試験（70%）
課題に対するフィードバック	小テストの解説，リアクションペーパーの回答
指定図書	中村隆一，斉藤宏，長崎浩：基礎運動学（医歯薬出版） 弓岡光徳ら（訳）：エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂） ＊以下，OT 学科のみ購入 中島雅美，中島喜代彦（編）：PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第 2 版（医歯薬出版） 中島雅美（編）：PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第 2 版（医歯薬出版）
参考図書	なし
事前・事後学修	各回のテーマ（膝や足など）の解剖学，つまり骨や筋の構造，webclassにある問題集を事前に20分程度学修しておくこと。毎回の授業の振り返りを20分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動学Ⅱ
科目責任者	田中　真希
単位数他	１単位（30時間）　理学必修・作業必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	運動学Ⅰで学んだ知識を基に，運動学の基礎的知識を習得する。ヒトの姿勢や歩行の定義と評価の基礎，姿勢の神経制御，運動の学習過程，さらに姿勢と運動の分析について学修する。授業は講義と演習形式により進める。
到達目標	1．標準的なヒトの姿勢・歩行を運動学的および運動力学的な視点で説明できる 2．姿勢制御，運動学習の理論についてその概略を説明できる 3．姿勢，動作の観察・分析の基本的な考え方と方法を説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション　田中真希・津森伸一 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学 第 2回：生体の構造と機能①　田中真希 骨格筋の収縮・反射運動 第 3回：生体の構造と機能②　矢倉千昭 運動制御 第 4回：生体の構造と機能③　矢部広樹 運動生理 第 5回：姿勢①　田中真希・津森伸一 姿勢の定義，姿勢に関する物理学（重心・重心線） 第 6回：姿勢②　田中真希 姿勢の安定要因，姿勢の分類 第 7回：姿勢③　田中真希 姿勢制御機構，バランス評価 第 8回：姿勢④　田中真希 姿勢観察，異常姿勢・姿勢分析の基礎 第 9回：歩行①　田中真希・津森伸一 歩行の定義，歩行に関する物理学（生体力学） 第10回：歩行②　田中真希 歩行観察，歩行周期 第11回：歩行③　田中真希 運動学的分析，運動力学的分析 第12回：歩行④　田中真希 筋電図分析，生理学的分析 第13回：歩行⑤　田中真希 歩行観察，異常歩行・歩行分析の基礎 第14回：運動学習①　中島ともみ

	学習と記憶，運動技能，学習の諸理論 第15回：運動学習②　中島ともみ 運動学習の諸理論，練習と訓練
アクティブラーニング	WebClassを用いた動画および資料の提示，小テストを実施する。 授業はグループワークの形式を取り入れ，事前学習で学んだことを授業内でPCを用いてディスカッションまたはプレゼンテーションをする。 グループは初回授業時に提示します。
授業内のICT活用	姿勢観察・分析および歩行観察・分析に画像や動画を使用する。 グループワークディスカッション・プレゼンテーションにPCなどを使用する。
評価方法	定期試験50%，小テスト20%，グループワークディスカッション・プレゼンテーション20%，リアクションペーパー10%　計100点 ディスカッション・プレゼンテーションはルーブリックを用いて評価し，その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対するフィードバック	各回の出席・リアクションペーパーはWebClass を用いて提出するものとし，質問や意見については内容に応じて返信する。 各回の進行度や理解度に応じて小テストをWebClassで行い，解答後に正解・解説と採点結果を適宜フィードバックする。
指定図書	中村隆一他著：基礎運動学　第6版補訂（医歯薬出版）　※運動学Ⅰ指定図書 望月久，棚橋信雄 編著：PT・OT ゼロからの物理学（羊土社）　※基礎物理指定図書
参考図書	中島雅美，中島喜代彦（編）：PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 第3版（医歯薬出版） 中島雅美（編）：PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版（医歯薬出版） 小柳磨毅他編：PT・OTのための運動学テキスト　基礎・実習・臨床　（金原出版株式会社） 臨床歩行分析研究会監修：姿勢・動作・歩行分析　第1版　（羊土社） 月城慶一他（訳）：観察による歩行分析　（医学書院） その他は授業内で随時紹介する。
事前・事後学修	原則40分程度を目安に学修する。 事前学修として，動画および資料の閲覧や教科書の該当ページを読み，キーワードをまとめる。 事後学修として，授業で学んだ内容の演習問題を解き，理解度を確認し，疑問点をまとめて復習する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動学演習
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	１単位（30時間）　　理学必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門基礎
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	この授業では，運動学講義で得た知識を実習形式さらに深めることを目的とする。また運動学実習では，解剖学，生理学および物理学の知識を運動学と関連付けていくことが重要である。筋の起始停止，筋の走行，関節の動きなどを実習形式から学習する。基本動作を運動学的な知見で理解する。授業は，講義および実技形式により進める。
到達目標	1. それぞれの関節運動や筋の動きについて，自分の言葉で説明できる。 2. 骨格筋の触診ができる。 3. 歩行や全身運動によって起こる呼吸循環の反応について自分の考えをまとめることができる。 4. 正常歩行や異常歩行の違いなどを自分の考えをまとめることができる。 5. 骨格や筋肉の名前など英語で伝えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション・触察，視診，形態計測　根地嶋 第 2回：上肢の骨格筋と運動-1：手関節と手の骨格筋と関節運動　田中 第 3回：上肢の骨格筋と運動-2：肘関節と前腕の骨格筋と関節運動　田中 第 4回：上肢の骨格筋と運動-3：　肩複合体の骨格筋と関節運動　根地嶋 小テスト 第 5回：下肢の骨格筋と運動-1：足関節と足の骨格筋と関節運動　根地嶋 第 6回：下肢の骨格筋と運動-2：膝関節の骨格筋と関節運動　根地嶋 第 7回：下肢の骨格筋と運動-3：股関節の骨格筋と関節運動　根地嶋 小テスト 第 8回：下肢の骨格筋と運動-4：下肢帯の骨格筋と関節運動　根地嶋 第 9回：　上下肢の骨格筋と運動のまとめ・中間テスト　根地嶋 第10回：体幹の骨格筋と運動-1：頚・胸・腰椎の骨格筋と関節運動　根地嶋 第11回：体幹の骨格筋と運動-2：呼吸と胸郭運動　田中 小テスト 第12回：基本姿勢と動作-1：臥位・寝返り・起き上がり　矢倉

	第13回：基本姿勢と動作-2：座位・立ち上がり・立位　矢倉 第14回：基本姿勢と動作-3：起居動作のまとめ　矢倉 第15回：まとめ，小テスト　根地嶋
アクティブラーニング	・グループワーク
授業内のICT活用	・ipadアプリの活用
評価方法	自己学修ノート（30%）・小テストとリアクションペーパー（40%）・中間テスト（30%） （ノートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する）
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	青木隆明（監）:「運動療法のための機能解剖学的触診技術」上肢(メジカルビュー社) 青木隆明（監）:「運動療法のための機能解剖学的触診技術」下肢・体幹(メジカルビュー社)
参考図書	小柳磨毅・他（編）：PT・OTのための運動学テキスト（金原出版）
事前・事後学修	各回のテーマについて，解剖学，生理学および運動学の復習を，これまでの資料および教科書にて20分程度行うこと。授業で取り組んだ演習のまとめを20分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人間発達学
科目責任者	伊藤　信寿
単位数他	１単位（30時間）理学・作業必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間発達学では、リハビリテーションの臨床実践に向けて、保健医療福祉の専門職者に求められる人の心身機能や身体構造、活動に関する人間発達の基本的な知識・理論を体系的に学習する。
到達目標	(1)発達とは、発達要因（遺伝と環境）、発達の基本原則、臨界期、発達段階（ライフステージ）について説明できる (2)発達段階（ライフステージ）における発達特徴と課題を説明できる (3)運動発達の過程とその原理（神経成熟理論）を説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：総論　伊藤信寿 第 2回：反射と反応について　伊藤信寿 第 3回：反射と反応について　伊藤信寿 第 4回：反射と反応についてまとめ　伊藤信寿 第 5回：運動の発達について　伊藤信寿 第 6回：運動の発達について　伊藤信寿 第 7回：運動の発達について　伊藤信寿 第 8回：運動の発達について（まとめ）　伊藤信寿 第 9回：知覚・認知機能の発達について　伊藤信寿 第10回：知覚・認知機能の発達について　伊藤信寿 第11回：知覚・認知機能の発達について（まとめ）　伊藤信寿 第12回：新生児から青年期までの発達　伊藤信寿 第13回：老年期の発達　吉本好延 第14回：言語機能の発達と障害　大原重洋 第15回：まとめ　伊藤信寿
アクティブラーニング	Think-Pair-Shareやグループワークを行っていく。
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。

評価方法	筆記試験（50%），単元テスト（50%）
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし，質問や意見については授業中に回答する。 授業前半に単元テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	リハビリテーションのための人間発達学（第2版）大城昌平（編著）メデカィルプレス
参考図書	イラストでわかる人間発達学　上杉雅之（監修）　医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	事前学修：各授業回に該当するテキストの章を読む（20分） 事後学修：授業の配布資料と単元テストを復習する（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	病理学概論Ⅰ
科目責任者	大林　雅春
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修・言語必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学とは、基礎医学と臨床医学にまたがる学問で、病気の仕組み（原因、成り立ち、経過、転帰）を学習する。医療に携わる者にとって基本かつ必須の学問である。病理学は実際の医療の現場では、病理診断・解剖という形で病気の診断・治療・予防に貢献している。この講義では、病理学総論（病因論、細胞の傷害と修復、代謝障害、先天異常･老化、循環障害、免疫･炎症･感染症、腫瘍等）の知識を習得する。
到達目標	1. 各種疾患の病因と病態に関する基礎的知識を理解し説明できる。 2. 病気のメカニズムを組織・細胞の形態学的な変化として理解し説明できる。 3. 人体に備わる病態からの修復機構とともに生体防御機構について理解し説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大林 雅春 第 1回：ガイダンス、病理学とは？　病因論　テキスト総論第1章、 第2章、 第 2回：退行性病変・進行性病変、代謝障害、テキスト総論第3章、 第4章 第 3回：循環障害　テキスト総論第5章 第 4回：老化、先天異常・奇形　テキスト総論第9.章、第10章 第 5回：免疫、炎症・感染症　テキスト総論第6章、 第7章 第 6回：免疫、炎症・感染症　テキスト総論第6章、 第7章 第 7回：腫瘍　テキスト総論第8章 第 8回：腫瘍　テキスト総論第8章 ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。
アクティブラーニング	Moodleに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。 知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。
授業内のICT活用	授業中に配る講義資料に、講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。PCやタブレット、スマートフォンなど準備すること。

評価方法	課題提出10%、定期試験 90%、計100％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	〈標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野〉『病理学』医学書院（第４版） 編集：横井　豊治／村雲芳樹
参考図書	『シンプル病理学』　南江堂（第7版）　編集：笹野 公伸、岡田 保典、安井 弥 『なるほどなっとく！ 病理学 病態形成の基本的なしくみ』　南山堂　小林正伸（著） 『病態生理学（第5版）（ナーシング・グラフィカ―疾病の成り立ち(1)）』メディカ出版　編集：山内豊明 『標準病理学』　医学書院（第4版）編集：坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 『はじめの一歩のイラスト病理学』 羊土社（第2版）編集：深山 正久
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜Moodleに掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	病理学概論Ⅱ
科目責任者	大林　雅春
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	病理学概論Ⅰ「病理学総論）で学んだ基本的な病変が、臓器別（循環器、呼吸器、消化器、内分泌系、泌尿器系、造血器、生殖器、皮膚、感覚器、脳･神経系、運動器）にどのように発現するのかについて、各臓器の組織や細胞の形態学的変化の観点から学んでいく。主に炎症性･腫瘍性病変にスポットを当てて学習する。
到達目標	1. 各種臓器の循環障害を理解し説明できる。 2. 各種臓器の代謝異常を理解し説明できる。 3. 各種臓器の炎症性疾患を理解し説明できる。 4. 各種臓器の腫瘍性疾患を理解し説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大林 雅春 第 1回：呼吸器、消化器、テキスト各論第2章、第3章 第 2回：内分泌系、泌尿器系、テキスト第6章、 第7章 第 3回：造血系、生殖器、テキスト各論第6章、 第8章 第 4回：皮膚、感覚器　テキスト各論第9章 第 5回：循環器　テキスト各論第1章 第 6回：脳･神経系　テキスト各論第4章 第 7回：運動器　テキスト各論第5章 第 8回：まとめ ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。
アクティブラーニング	Moodleに掲載する演習問題は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて各自印刷して予習の参考にすること。国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。 知識の定着を進めるため、グループ単位でのディスカッションや発表（レポート形式 or プレゼンテーション）などグループ学修形式の授業も取り入れる。

授業内のICT活用	授業中に配る講義資料に、講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。PCやタブレット、スマートフォンなど準備すること。
評価方法	課題提出10%、定期試験 90%、計100％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや課題などの質問やコメントに関しては、重要な質問やポイント等に対して授業中に回答する。その他は個別に対応する。
指定図書	〈標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野〉『病理学』医学書院（第４版） 編集：横井　豊治／村雲芳樹
参考図書	『シンプル病理学』　南江堂（第7版）　編集：笹野 公伸、岡田 保典、安井 弥 『なるほどなっとく！ 病理学 病態形成の基本的なしくみ』　南山堂　小林正伸（著） 『病態生理学（第5版）（ナーシング・グラフィカ―疾病の成り立ち(1)）』メディカ出版　編集：山内豊明 『標準病理学』　医学書院（第4版）編集：坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 『はじめの一歩のイラスト病理学』 羊土社（第2版）編集：深山 正久
事前・事後学修	講義範囲が非常に広いため、教科書・参考図書を良く読み、出来るだけ予習をして講義に臨むこと。 予習においては、あらかじめ次回授業で習うポイントを前もって明示するので、その内容を重点的に予習するように。具体的にはテキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にして授業にのぞむこと。 復習においては、毎回の授業で講義資料等を配布するので、学習した内容を整理しておく事が望ましい。さらに国家試験既出問題に関連した演習問題を適宜Moodleに掲載するので、定期試験勉強に役立てること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床心理学
科目責任者	福永　博文
単位数他	１単位（30時間）　理学必修・作業必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1.精神的健康を回復、維持して生きる力を身につけるための知識や技術を学修する。 2.障害のある人の心理や支援に関する心理臨床的治療の知識や技術について学修する。
到達目標	1.生きる力が伸びる性格形成、適応機制、不適応、査定、児童虐待、ひきこもりなどを理解する。 2.生きる力の回復、維持のための行動療法、認知行動療法、応用行動分析学などを理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 福永博文 第 1 回： 生きる力と臨床心理学 — 臨床心理学の目的と方法 — 第 2 回： 生きる力が伸びる性格形成 — 性格の意味と理論、性格形成 — 第 3 回： 生きるための欲求と適応 — 欲求の意味・発達、欲求不満、適応(防衛)機制— 事例検討 第 4 回： 生きるための不適応の改善 — 不適応の意味と原因・改善 — 第 5 回： 心理臨床的アセスメント① — 観察、面接、心理検査など信頼関係を築く理論と実践 — ロールプレイ 第 6 回： 心理臨床的アセスメント② — 心理検査による事例の検討 — 事例検討 第 7 回： 生きる力を支える心理臨床的治療 — 不登校のりかいと家族の心理・支援 — 事例検討 第 8 回： 生きる力を支える心理臨床的治療 — ひきもこりの理解と家族の心理的・支援 — 事例検討 第 9 回： 発達障害のある人の心理の理解と支援 — 障害のある人の心理変化とその家族への支援 — 事例検討 第10回： 社会的不適応状態にある人への心理臨床的治療① — 行動療法、認知行動療法の理論と実践 — 事例検討 第11回： 社会的不適応状態にある人への心理臨床的治療② — 応用行動分析学の理論と実践 — 事例検討 第12回： 患者の心理臨床 — ライフステージに沿った入院患者の心理と支援 — 第13回： 児童虐待と心理臨床① — 親は、なぜ我が子を虐待するのか、家族構造と病理 — 事例検討 第14回：児童虐待と心理臨床② —子どもに与える心理的影響、子どもと家族への支援 — 事例検討 第15回： DVと心理臨床／全体のまとめ — 加害者の心理・タイプ、被害者の心理、支援 — 事例検討

アクティブラーニング	主として身体的・心理的問題により、適応上の困難をきたしているクライエントの理解と支援のために必要な知識と技術は、具体的な事例検討やロールプレイングの検討により臨床場面で活かせる確かな実践力を身につける。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験60%、中間試験40%　　計100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示、事例検討の解答例の提示
指定図書	『生きる力を育てる臨床心理学』小林 芳郎編著　保育出版社
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	教科書と事前に配布した補足資料を25分程度読んで、理解を深めておく。同時に15分程度の復讐をする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「スクールカウンセラー」「専門行動療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床医学・医療学概論
科目責任者	俵祐一
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修・言語必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	普通科高校を卒業し、初めて医療に関する専門教育を受けることになる新入学1年生に、医療全般についての概要を学んでほしい。最新の知識や高度な技術を習得するだけでは良い医療者にはなれない。病人の気持ちを理解できる医療者になれるよう倫理的問題等についても広く学修する。
到達目標	1. 与えられたテーマについて参考文献などを通じて調査する。 2. 取得した知識を2-3分の与えられた時間にまとめあげる。 3. 医療について概論的な知識を 他人に分かり易く説明できるようにする。 4. 医療従事者としての心構えに関する自分の考えを述べられるようにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：この講義で何を学ぶか，医学と医療　俵祐一 第 2 回：医学とは，医学史　片桐伯真 第 3 回：医学の体系　伊藤信寿 第 4 回：病気の原因　片桐伯真 第 5 回：病気の診断（画像診断含む）　片桐伯真 第 6 回：病気の治療（薬学含む）とリハビリテーション　矢倉千昭 第 7 回：病気の予防　中島ともみ 第 8 回：医療システム（救急救命医学含む）　柴本　勇
アクティブラーニング	配布資料や授業ノート，課題を見直し，授業で出てきたkey wordで解らない点があれば調べてください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので，自己学修を心掛けましょう。 授業内で，グループディスカッションをします。積極的に発言しましょう。
授業内のICT活用	・webclassを利用して，各自で授業の振り返りをします。

評価方法	筆記試験50%，課題提出物50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問について、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『医学概論』日野原重明、医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：シラバスで次回の授業内容を確認し，教科書を読んでおくこと（20分）． 事後学修：授業内容を振り返り，出された課題を行うこと（20分）．
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3505研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（makoto-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．
実務経験に関する記述	本科目は「医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	内科系医療学
科目責任者	俵　祐一
単位数他	２単位（30時間）　理学必修・作業必修・言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な内科系疾患に関する代表的な病態と診断方法（画像診断含む）や基準・治療方法（臨床薬学含む）について基本となる知識を身につける。具体的には呼吸器系疾患、膠原病と類縁疾患、内分泌代謝疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝臓、胆道、膵臓の基礎と臨床、感染症などを学習する。
到達目標	リハビリテーションを行っている患者さんで問題になる頻度の高い各疾患の病態や診断方法、治療について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞俵祐一，矢部広樹，横村光司，志智大介，岡俊明，北川哲司，長澤正通，松島秀樹 ＜俵　祐一＞ 1.　内科系医療学とリハビリテーション ＜横村 光司＞ 1.呼吸器感染症（上気道炎・気管および気管支炎・肺炎・胸膜炎・膿胸、抗酸菌感染症），急性呼吸不全，慢性呼吸不全について 2.気管支喘息とCOPD，間質性肺炎、肺癌について ＜矢部 広樹＞ 1.代表的な代謝疾患（特に糖尿病）について 2.内分泌代謝系の基礎，代表的な内分泌疾患（特に甲状腺疾患）について ＜志智 大介＞ 1.感染症学と臨床（感染症成立の病態生理について，日常診療で遭遇しやすい代表的な感染症や病原菌について） 病院職員の知っておくべき感染制御について（病院で働く職員として知っておくべき病院感染とその対処） 2.膠原病や関節リウマチとその類縁疾患，自己免疫系疾患成立の病態生理，膠原病や関節リウマチなど免疫疾患の各論 関節リウマチ患者へのケア ＜岡 俊明＞ 1.循環器系の解剖、生理，循環器疾患の症状と検査 2.血圧の異常、心不全の病態，虚血性心疾患（狭心症・急性心筋梗塞） ＜北川 哲司＞ 1.消化管疾患の症候とその病態生理，消化管疾患の検査法 2.口腔・食道・胃の疾患、小腸、大腸の疾患 ＜長澤 正通＞

	1.肝臓疾患の総論、肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総論 ＜松島 秀樹＞ 1.腎臓の構造と働き、腎疾患の症候や検査・診断・治療の進め方、頻度が高い腎疾患、慢性腎臓病（CKD）の概念 2.腎機能障害（急性腎不全、慢性腎不全）、血液浄化療法（血液透析、腹膜透析）、長期透析の合併症 ＜俵 祐一＞ 1. 人体の加齢現象、及びサルコペニア・フレイルの概念と病態について、サルコペニアの治療について まとめ
アクティブラーニング	事前学修を促し、重要な部分は授業中に学生に質問しながら行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験60%およびWebclassの内容40%で評価を行う。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学』医学書院
参考図書	『なるほどなっとく！　内科学』南山堂
事前・事後学修	・各授業回に該当するテキストの章を読んで、授業に参加してください。 ・講義内容、配布資料、テキストなどを参考とし、事後学修してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	整形外科系医療学
科目責任者	長野　純二
単位数他	２単位（30時間）　理学必修・作業必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法と作業療法の主な対象となる四肢や脊柱など運動器の構造・機能解剖について学ぶ。理学療法では、高齢者のロコモティブシンドローム、運動器不安定症について学ぶ。作業療法では、手の機能解剖について詳しく学ぶ。
到達目標	1. 四肢と脊柱の骨・関節、筋・腱、神経・血管などの解剖名を完全に覚える。 2. 各関節の運動名とその正常可動域、各運動に関与する筋・それを支配する神経名を完全に覚える。 3. 運動器の診察の仕方、所見の表現・記載法を学ぶ。 4. 運動器の機能を障害する疾患、外傷について理解する。 各疾患・外傷に対する保存療法と手術法の術前・術後療法及び障害予防について詳しく学ぶことで運動器リハビリテーションは医療・介護を通して生涯にわたり必要であることを学ぶ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 複数の教官が、それぞれの専門領域を担当する。したがって、総論と各論が並列で授業されることがある。内容はかなり専門的になる。 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 1.　整形外科基礎科学、整形外科診断総論、骨折等の病態など　井上善也 2.　高齢期1：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症　井上善也 3.　高齢期2：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症　井上善也 4. 脊柱脊髄1：脊髄損傷，椎間板ヘルニア，脊柱管狭窄症など　佐々木寛二 5. 脊柱脊髄2：脊髄損傷，椎間板ヘルニア，脊柱管狭窄症など　佐々木寛二 6. 四肢の循環障害、阻血壊死性疾患、代謝性疾患、など　佐々木寛二 7. 肩関節の疾患と外傷：肩関節周囲炎、腱板断裂　桐村憲吾 8. 骨関節感染症、リウマチ　長野純二 9. 肘・手関節の疾患と外傷1：骨折、腱断裂、手根管症候群など　大井宏之 10. 肘・手関節の疾患と外傷2：骨折、腱断裂、手根管症候群など　大井宏之 11. 手の疾患と外傷：手の外科（マイクロサージャリー）　大井宏之 12. 股関節の疾患と外傷：変形性股関節症、頸部骨折、骨頭壊死など　小林良充 13. 膝・足関節の疾患と外傷：変形性膝関節症、離断性骨軟骨炎など　小林良充 14. 先天性骨系統疾患，先天性異常症候群　高橋勇二 15. アスレティックリハビリテーション　高橋勇二 ※授業は、上記の順序で進んでいくとは、限らない。

アクティブラーニング	ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習を予定している。
授業内のICT活用	スライド（動画を含む）、プリントを配布し、授業内容の充実をはかる。
評価方法	定期試験50%、授業態度30%、レポート20%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答を提示予定
指定図書	『標準整形外科学』医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	必ず予習を行う。授業の後は今後の仕事に役立てるために知識の整理をする。
オープンエデュケーションの活用	特に予定はなし。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経内科系医療学
科目責任者	大橋寿彦
単位数他	２単位数（30時間）　理学必修・作業必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションの実践に必要な身体障害に関する基本的な医学的理解を深めるために、身体障害の原因となる神経系の疾患について病態生理、診断や治療の知識を身に付ける。
到達目標	１．神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる ２．神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する ３．神経系の疾患の診断検査技術について理解する ４．疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 1.　ガイダンス、頭痛　大橋 2.　中枢神経系の解剖･機能　大橋 3.　しびれ　内山 4.　めまい　佐藤 5.　脳血管障害　大橋 6.　運動神経疾患　大橋 7.　パーキンソン症候群　内山 8.　脊髄小脳変性症、自律神経障害　内山 9.　認知症　大橋 10.　感染症　内山 11.　脱髄疾患　佐藤 12.　電気生理　大橋 13.　末梢神経障害　佐藤 14.　筋疾患、内科との関連疾患　内山 15.　画像　佐藤
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験100％
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	なし
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学』医学書院
事前・事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学系医療学Ⅰ
科目責任者	新宮　尚人
単位数他	１単位(15時間)　理学必修・作業必修・言語必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神機能障害の基礎的な知識を学び、リハビリテーションとの関係について理解を深める。特にリハビリテーション場面において遭遇する可能性の高い精神疾患のメカニズムや治療方法に重点を置く。
到達目標	1.精神機能障害とリハビリテーションとの関係について説明できる 2.代表的な精神疾患の特性と治療について説明できる 3.精神障害に対するリハビリテーションの目的と役割について説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：オリエンテーション、リハビリテーションと精神医学　新宮尚人 第2回：導入・精神医学とは　山岡功一 第3回：統合失調症　藤田さより 第4回：老年精神医学　三浦一也 第5回：精神障害の治療Ⅰ・薬物療法などの身体的治療　三浦一也 第6回：精神障害の治療Ⅱ・精神療法とリハビリテーション　三浦一也 第7回：通院・訪問医療など　ゲストスピーカー　鴨藤祐輔 第8回：グループワーク、発表、授業のまとめ　新宮尚人 ※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修や問題基盤型学習（Problem Based Learning：PBL)を行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	筆記試験60%、グループワーク発表10%、レポート30%
課題に対するフィードバック	希望者には、筆記試験の終了後に個別解説とレポートのフィードバックを行います。改めて時間調整をします。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学』医学書院
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所に目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「医師、作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児科系医療学Ⅰ
科目責任者	木部哲也
単位数他	１単位（15時間）理学必修・作業必修・言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。小児の特徴である、発育・発達の概念、予防医学やいわゆるcommon diseaseについて学ぶ。
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 よくある小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　小児科総論　木部 第2回　小児の成長と発達　木部 第3回　先天異常と遺伝病　松下 第4回　新生児・未熟児医療　白井 第5回　小児の集中治療など　南野 第6回　小児神経疾患①「脳性麻痺，てんかんなど」　木部 第7回　小児神経疾患②「神経筋疾患」　木部 第8回　重症心身障害児医療について　木部
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験80%、授業態度20%
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第5版
参考図書	なし
事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常々意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児科系医療学Ⅱ
科目責任者	木部哲也
単位数他	１単位（15時間）理学必修・作業必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。小児の特徴である、発育・発達の概念、予防医学やいわゆるcommon diseaseについて学ぶ。
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 よくある小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　小児期の感染症と予防接種　木部 第2回　発達栄養学　松下 第3回　小児の循環器疾患　白井 第4回　小児の呼吸器疾患　南野 第5回　発達障害について　白井 第6回　小児の後天性神経疾患　木部 第7回　思春期医学　木部 第8回　まとめ　木部
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験80%、授業態度20%
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第5版
参考図書	なし
事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常々意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション栄養学
科目責任者	柴本　勇
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修・言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	リハビリテーションの効果を最大限発揮するためには、栄養状態がよいことが望まれる。近年では、サルコペニア・フレイルなど栄養と関連したリハビリテーションに影響する病態も報告されている。今後、保健・医療・福祉分野で活躍するリハビリテーション職者に必要な栄養学的知識を得る。Nutrition Support Team(NST)の活動も学ぶ
到達目標	1.　栄養評価・栄養マネジメントの概要を説明できる 2.　栄養アセスメントができる 3.　リハビリテーション職種として栄養介入を模擬的にできる 4.　NSTの概要を説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは　柴本　勇 第 2回：栄養補給とエネルギー代謝　田中真希 第 3回：必要栄養素と栄養量　田中真希 第 4回：栄養アセスメントとその実際　柴本　勇 第 5回：栄養療法とは　柴本　勇 第 6回：病態別栄養療法の実際　ゲストスピーカー 第 7回：疾患別栄養療法の実際　ゲストスピーカー 第 8回：栄養療法のチームアプローチ　田中真希
アクティブラーニング	Webclassを用いて行います
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験：70%、小テスト20%　事前事後学修10%
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、毎回ディスかションを行います。
指定図書	「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」（医歯薬出版）

参考図書	アボット栄養アセスメントキット（医科学出版社）
事前・事後学修	事前・事後学修はWebclassを用いて行います。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回講義時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士，言語聴覚士，管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川　浩昭
単位数他	１単位（15時間）　理学選択・作業選択・言語選択　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	公衆衛生学は健康を保持、増進、予防するための実践的科学である。社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための公衆衛生学の現状を理解する。具体的には、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	１．人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 ２．わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 ３．社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　西川浩昭 第１回　公衆衛生の概念 第２回　疾病予防、健康増進、公衆衛生活動 第３回　健康指標 第４回　感染症とその対策 第５回　食品衛生 第６回　生活習慣 第７回　学校保健・産業保健 第８回　環境保健
アクティブラーニング	講義に問題演習を取り入れた授業を行います。課題を設定し、情報収集および解決方策を探求します。
授業内のICT活用	資料の提示

評価方法	定期試験(筆記) 100%　再試験は実施しません。
課題に対するフィードバック	演習課題の解答例を提示し、解説します。
指定図書	鈴木庄亮 監修　シンプル衛生公衆衛生学 2020　南江堂 国民衛生の動向 2020/2021　厚生労働統計協会(2020年8月末発行予定)
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：内容は指定図書等の予習。時間の目安は約60分です。 事後学修：前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は約60分です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	西川浩昭（1620研究室） E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	摂食嚥下障害学概論
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	２単位（30時間）　理学選択・作業選択　３セメスター　言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	食べ物を認知し、口に取り込んでから胃へと運ばれるまでの摂食･嚥下のメカニズムを理解する。神経疾患、器質的原因、発達障害、加齢変化で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、ライフステージでの摂食嚥下の変化や対処法について学ぶ。STが行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに行う精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。嚥下障害の訓練に関わる栄養管理、経管栄養法、吸引の理論を学ぶ。
到達目標	1. 食べ物を口腔に取り込んでから飲み込むまでのメカニズムが説明できる。 2. 摂食嚥下障害の原因、病態、症状が説明できる。 3. 情報収集や理学的所見、スクリーニング検査の目的や意義、方法を具体的に説明することができる。 4.嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査の目的や意義が説明できるとともに、評価用紙に記録することができる。 5. 摂食嚥下障害の評価から、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。 6. 症例報告書の書き方が理解できる。 7. 栄養管理、経管栄養法、吸引について説明できる。
授業計画	＜担当教員名＞佐藤豊展、柴本勇、佐久間佐織、ゲストスピーカー（金谷節子） ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：　摂食嚥下障害の歴史、解剖　佐藤　豊展 第２回：　生理学的基盤　★レポート　佐藤　豊展 第３回：　神経制御・嚥下関連筋群　佐藤　豊展 第４回：　摂食嚥下機構の年齢変化　★小テスト（第1-3回）　佐藤　豊展 第５回：　摂食嚥下障害の病態と症状・合併症　佐藤　豊展 第６回：　摂食嚥下障害の原因と分類①神経原性・器質性　佐藤　豊展 第７回：　摂食嚥下障害の原因と分類②医原性・栄養障害・小児期　柴本　勇 第８回：　摂食嚥下障害の評価①情報収集、音声・構音検査　★小テスト（第4-7回）　佐藤　豊展 第９回：　〃　②スクリーニング　演習　佐藤　豊展 第10回：　〃　③摂食場面の評価　演習　★レポート　佐藤　豊展 第11回：　〃　④嚥下内視鏡検査　★レポート　佐藤　豊展 第12回：　〃　⑤嚥下造影検査　★レポート　佐藤　豊展 第13回：　問題点の抽出・訓練プログラムの立案方法、症例報告書の書き方　佐藤　豊展 第14回：　摂食嚥下障害と栄養管理　ゲストスピーカー 第15回：　経管栄養法、吸引　佐久間　佐織・佐藤豊展
アクティブラーニング	グループ学修形式を取り入れて行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います。

評価方法	定期試験　40%、小テスト20%、レポート40% レポートは、ルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学（医歯薬出版） 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル　第4版（医歯薬出版）
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション　第3版（医歯薬出版） 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害　第3版（医歯薬出版） 若林秀隆・藤本篤士編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害（医歯薬出版）
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は各40分と考えています。 1）事前・事後学習 ①第1回：教科書P2-15、映像 ②第2回：教科書P25-34 ③第3回：教科書P35-42 ④第4回：教科書P44-51 ⑤第5回：教科書P54-56、P84-87 ⑥第6回：教科書P57-72 ⑦第7回：教科書P81-83 ⑧第8-10回：教科書P90-100 ※日本摂食嚥下リハビリテーション学会　摂食嚥下障害の評価 https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/assessment2019-announce.pdf ⑨第11回：教科書P101-111 ※日本摂食嚥下リハビリテーション学会　嚥下内視鏡検査の手順 https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/endoscope-revision2012.pdf ⑩第12回：教科書P101-111 ※日本摂食嚥下リハビリテーション学会　嚥下造影の検査法 https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/VF18-2-p166-186.pdf ⑪第13回：教科書239-253 ⑫第14回 ※日本摂食嚥下リハビリテーション学会　嚥下調整食分類 https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/classification2013-manual.pdf ⑬第15回：教科書209-213、227-228 ※日本摂食嚥下リハビリテーション学会　間歇的口腔食道経管栄養法の標準的手順 https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/OE-procedure.pdf 2）事後学習 適宜、Webclassで提示する。 3）レポート ①第2回：「頸部伸展位で嚥下するとなぜ飲みにくいのか」　第3回締切 ②第10回：「スクリーニング、摂食場面の評価」　第11回締切 ③第11回：「嚥下内視鏡検査」　第12回締切 ④第12回：「嚥下造影検査」　第13回締切
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3511研究室、月曜15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、看護師、管理栄養士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	大場　浩
単位数他	２単位（30時間）理学選択・作業選択・言語選択　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	薬に関する基礎知識について講述したのち、具体的な疾患についてその代表的な薬と作用機序および有害作用について講述する。新薬情報にも言及する。
到達目標	薬の基礎知識、薬の主な作用機序、有害作用が理解できる 主な精神疾患、神経疾患を理解し、その治療薬と作用機序および有害作用が理解できる 生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症、狭心症、高尿酸血症など）の病態を理解し、治療薬と作用機序および有害作用が理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大場　浩 第１回：薬を理解するための基礎知識（薬の概念、特質、薬の分類など） 第２回：生体内での薬の動きと作用機序 第３回：薬の作用に影響する因子と副作用および有害作用 第４回：感染症治療薬およびその有害作用（抗生物質、抗ウイルス薬） 第５回：炎症とその発生機序および治療薬と有害作用（アレルギー、喘息、関節リウマチ） 第６回:神経疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（パーキンソン病、てんかん） 第７回：精神疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（統合失調症、うつ病、認知症） 第８回：循環器系疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（1）（高血圧、心不全） 第９回：循環器系疾患の治療薬とその作用機序および有害作用（2）（狭心症、不整脈） 第10回：痛み発生機序と鎮痛薬の作用機序および有害作用 第11回：代謝疾患治療薬とその作用機序および有害作用（糖尿病） 第12回：代謝疾患治療薬とその作用機序および有害作用（脂質異常症、痛風、骨粗鬆症） 第13回：消化器疾患治療薬とその作用機序および有害作用（消化性潰瘍、肝炎） 第14回：抗がん薬とその作用機序および有害作用 第15回：眠りの機序と催眠薬およびその有害作用

アクティブラーニング	学生は、毎回の講義で理解した事柄を具体的にリアクションペーパーに記載して提出する。教師はその内容を吟味し、評価点の対象にしている。
授業内のICT活用	学生への理解をはかるため、インターネットの画像や動画を取り入れて説明している（例えば不整脈時の心臓の動画、免疫チェックポイント阻害薬の動画など）
評価方法	リアクションペーパー評価（15%）具体的な設問形式のレポート（85%）で評価する。
課題に対するフィードバック	講義内容の質問、意見、感想は、リアクションペーパーを利用してフィードバックする
指定図書	編集：内山　靖・藤井浩美・立石雅子「リハベーシック　薬理学・臨床薬理学」 医歯薬出版（株）
参考図書	講義で随時紹介する。
事前・事後学修	教科書やインターネットなどで病気の概要や薬物の作用機序を知っておくと、講義が理解しやすい。
オープンエデュケーションの活用	提出レポートは、講義資料の他、インターネットや医学のあゆみ（医学雑誌）を十分活用してまとめることを勧めている。
オフィスアワー	e-mail　o-hiroshi@sand.ocn.ne.jp　へ
実務経験に関する記述	薬剤師として、OTC薬局に7年勤務

科目名	ケアマネジメント
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30時間）　作業選択　３セメスター　言語選択　５セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門基礎
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	私たちは、様々な社会資源に支えられて（社会資源を活用して）生活を送っているが、病気や障害、社会的不利により、生活上の困難が生じたり、それまで自ら活用してきた様々な社会資源の活用が困難な状況になってしまう場合もある。そのような場合に、それまで自らが活用してきた様々な社会資源に加え、新たに必要となる（活用すべき）社会資源をも含めて、複雑なサービス（サポート）のコーディネーション（マネジメント）を計画的かつ継続的に行うことにより、我々の生活を支えてくれる方法・過程がケアマネジメントである。
到達目標	①　ケアマネジメントの基本的理解ができる。ソーシャルワークとの関係性についても学ぶ。 ②　介護保険制度の概要と、介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割が分かる。 ③　対人援助の基本原則が理解できる。ケアマネジメントと福祉・医療・介護等の関係性に興味を持つ事ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　落合　克能 第 1回：オリエンテーション・ケアマネジメント・社会保障制度の概略 第 2回：社会保障制度の概要①　（財源、費用、年金保険制度） 第 3回：社会保障制度の概要②　（医療保険制度） 第 4回：介護保険制度概要 第 5回：高齢者のケアマネジメントと介護保険制度 第 6回：ケアマネジメントの機能と基本的理解 第 7回：インテークの実際 第 8回：アセスメントの実際①　情報収集の実際 第 9回：アセスメントの実際②　アセスメントの視点と方法 第10回：アセスメントの実際③　ニーズの把握とプランニングに向けた目標設定 第11回：プランニングの実際①　計画書作成の方法 第12回：プランニングの実際②　サービス計画案の説明と同意

	第13回：モニタリング、エバリユーション、再アセスメント、プラン修正の実際 第14回：ケアマネジメントにおける多職種連携 第15回：まとめ
アクティブラーニング	グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を中心に実施します。課題提出などは、WEBCLASSを活用します。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業への取組姿勢30%、中間レポート20%、期末レポート50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事前事後学習課題等については授業時にフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	・『社会福祉士国家試験のためのレビューブック2020』メディックメディア ・白澤政和（2019）『ケアマネジメント論　わかりやすい基礎理論と幅広い事例からまなぶ』ミネルヴァ書房 ・授業中に随時配布
事前・事後学修	【事前学習】病気後遺症や障がいにより生活上の困難が発生した場合に、どのような対応や課題ができるかについて、また、どのような制度やサービスが利用できるかについて、毎回の講義前に自己学修を25分程度行う。 【事後学習】毎回の講義後、講義内容を整理し、自分の言葉で語る事ができるよう15分程度の事後学修を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。（katsutaka-o@seirei.ac.jp）
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉士としてのソーシャルワーク実践、実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	カウンセリング
科目責任者	福永　博文
単位数他	１単位（30時間）　理学選択・作業選択・言語選択　４セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1.人が、精神的健康を回復、維持して生きる力を身につけるための知識・技術を学修する。 2.障害がある人の心理の理解及び支援に関する心理臨床的治療の知識や技術を学修する。 3.クライエントの状態に応じてカウンセリングの技法を組み合わせる方法について学習する。
到達目標	1. カウンセリングに関する多様な理論と技法について理解する。 2. リハビリテーションの効果を促進するためのカウンセリングの有効性について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 福永博文 第 1回： カウンセリングの意味、相談とカウンセリング、「カウンセリング関係」の形成 第 2回： カウンセリングと心理療法との関係―印象形成、他者認知の歪み 第 3回： カウンセリングに必要な条件と基本的態度① 人間関係の質、積極的傾聴・受容・共感的理解―事例検討 第 4回： カウンセリングに必要な条件と基本的態度② ―感情の反射、感情の明確化、守秘義務―事例検討 第 5回： カウンセリングを展開するための方法と内容 ―カウンセリング過程における心理的問題、転移現象―事例検討 第 6回： カウンセリングの理論と技法―来談者中心カウンセリング① ―傾聴、感情の受容、共感的言葉と態度―ロールプレイ 第 7回： カウンセリングの理論と技法―来談者中心カウンセリング② ―場面構成、カウンセリンツの過程と問題点― 第 8回： カウンセリングの理論と技法―指示的カウンセリング① ―他の技法との関係、示唆・助言などの導入―事例検討 第 9回： カウンセリングの理論と技法―指示的カウンセリング② ―適応上の留意点と効果的に実施するための法則― 第10回： カウンセリングの理論と技法―折衷的カウンセリング ―解釈と受容、共感的態度の適正な活用― 第11回： カウンセリングの理論と技法―行動カウンセリング① ―行動理論に基づく方法の理解と実践―事例検討 第12回： カウンセリングの理論と技法―行動カウンセリング② ―具体的な実践例― 第13回： 障害のある人を持つ家族の心理を理解したカウンセリング ―家族の心理的変化を理解した支援―(事例検討) 第14回：訪問カウンセリングの理論と技法 ―スクールカウンセラーによる訪問カウンセリング― 第15回： クライエントの状態によるカウンセリング技法の構造的理解と適用 ―多様なカウンセリング技法のバッテリーとしての活用―事例検討

アクティブラーニング	社会生活に適応上の困難をきたしているクライエントの理解と支援に必要なカウンセリング技法を、具体的な事例検討やロールプレイングをとおして、臨床場面で活かせる確かな実践力を身につける。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験レポート60%、中間レポート40%　計100%
課題に対するフィードバック	定期試験のレポートは解答例を提示する。中間レポートは、解説して提示する。
指定図書	毎回、プリントを用意し、事前に配布する。
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	事前に配布した資料を25分程度読んで理解を深めておく。 同時に当日の授業内容について15分程度の復習をし、さらに理解を深める。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「スクールカウンセラー」「専門行動療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音楽療法
科目責任者	山田　美代子
単位数他	１単位（30時間）　作業選択・言語選択　１セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	様々な領域における音楽療法の理論や技法を学ぶ。ビデオなど視聴覚教材を通じて、また実践現場を見学し、体験的に理解を深める。関心領域での音楽セッションをグループで計画し、発表をする。模擬的であってもその過程（計画～発表）で学んだことをディスカッションし、音楽療法を総括する。
到達目標	1. 音楽療法の基本的な理論や技法を知る。 2. 対象者のニーズに合わせた具体的な音楽療法またその技術の実際を体験的に習得する。 3. 歌うという音楽活動を科学的な側面から理解する。 4. 医療音楽療法からコミュニティ音楽療法への関係とその実際を体験的に理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　山田美代子 第 1回：音楽療法とは　歴史・定義 第 2回：音楽療法の実践　セッションの実際 第 3回：コミュニテイ音楽療法 第 4回：リハビリテーション領域における音楽療法 第 5回：精神科領域の音楽療法 第 6回：高齢者の音楽療法 第 7回：実践現場「The合唱団」を体験　① 第 8回：実践現場「The合唱団」を体験 ② 第 9回：発達障害児の音楽療法 第10回：生活の中での音・音楽療法 第11回：音楽認知における脳機能画像（光トポグラフィ装置）に関する研究 第12回：音楽療法の計画から模擬セッション　① 第13回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング② 第14回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング③ 第15回：発表とまとめ
アクティブラーニング	第7・8回は、実習。第12～15回は、関心領域におけるセッションの計画から実践までをグループでPBLによる取り組みを発表する。

授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度30%、課題提出物10%、レポート10%、定期試験50%
課題に対するフィードバック	第７・８回終了後、レポートを作成し提出する。通常授業リアクションペーパーへの回答は次の授業の最初に回答する。内容によっては個別にコメントし返却する。
指定図書	特になし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	対象領域や対象者によって用いる音楽は様々である為、事前学習として関連音楽について調べ、授業終了後に聞いたり歌ったりする等、関心の幅を広げる取り組みをする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	質問のある場合には、授業終了時前に申し出てほしい。終了後の場合、教務事務センターを介して受け付けをする。
実務経験に関する記述	本科目は「音楽療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	新宮　尚人
単位数他	１単位(15時間)　理学必修・作業必修・言語必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションには、社会構造の変化や価値観の変遷と共にその時代に応じた考え方がある。この科目では、リハビリテーションの理念と歴史、保健医療福祉の専門職者に求められる基本的な知識や考え方について学修する。特に自身の専門領域に留まらず、関係領域の専門性についても知ることで、自身の職種の特性と役割を深く理解する。
到達目標	1. リハビリテーションの理念と歴史について説明できる 2. リハビリテーション・モデルとその適用例について説明できる。 3. 自身の専門領域の核となる特性と役割を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：オリエンテーション、リハビリテーションとは（理念と歴史）　新宮尚人 第2回：リハビリテーションモデルと障害の理解　新宮尚人 第3回：リハビリテーションとチーム医療（理学療法の役割と連携について）　有薗信一 第4回：リハビリテーションとチーム医療（作業療法の役割と連携について）　伊藤信寿 第5回：リハビリテーションとチーム医療（言語聴覚療法の役割と連携について）　谷　哲夫 第6回：リハビリテーションとチーム医療（看護師の役割と連携について）　豊島由樹子 第7回：リハビリテーションとチーム医療（（社会福祉士・精神保健福祉士の役割と連携について）　大場 義貴 第8回：発表・授業のまとめ　新宮尚人
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修を行います。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	筆記試験60%、発表10%、レポート30%
課題に対するフィードバック	希望者には、筆記試験の終了後に個別解説とレポートのフィードバックを行います。 発表に対してコメントをします。
指定図書	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安としますが、事前学習では授業テーマの内容や各職種の概要について下調べをしておいてください。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、今後の学修に活用することで定着をはかるように努力してください。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「看護師」「社会福祉士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション医療・医学Ⅰ
科目責任者	片桐伯真
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修・言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	医療・福祉現場でのリハビリテーションに対するNeedsは、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。 臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書のみの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。 一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。
到達目標	1.臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2.リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3.病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 回　内容　担当者名 第１回　リハビリテーション総論・概論　藤島一郎 第２回　脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ　高橋博達 第３回　脳損傷のリハ：総論・リスク管理　片桐伯真 第４回　脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群　片桐伯真 第５回　神経疾患のリハビリテーション　高橋博達 第６回　脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ　片桐伯真 第７回　摂食嚥下障害のリハビリテーション　片桐伯真 第８回　地域リハ・社会的・職業的リハ　片桐伯真
アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきたkey wordで解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
授業内のICT活用	なし

評価方法	基本的には定期試験100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第4版、千野直一編、金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション医療・医学Ⅱ
科目責任者	片桐伯真
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	医療・福祉現場でのリハビリテーションに対するNeedsは、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。 臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書のみの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。 一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。
到達目標	1.臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める. 2.リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する. 3.病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する.
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 回　内容　担当者名 第１回　脊髄損傷のリハビリテーション　片桐伯真 第２回　運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断等）　町田清子 第３回　内部障害のリハビリテーション　小川美歌 第４回　リハビリテーションにおける運動学習　藤島一郎 第５回　関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション　藤島一郎 第６回　小児疾患のリハビリテーション　片桐伯真 第７回　がんのリハビリテーション　片桐伯真 第８回　障害者スポーツ・講義のまとめ　片桐伯真

アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきたkey wordで解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
授業内のICT活用	なし
評価方法	基本的には定期試験100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第4版、千野直一編、金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	リハビリテーション職種間連携の基礎
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（15時間）　理学必修・作業必修・言語必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	この科目では、これから皆さんが目指す職種について理解を深めるとともに、他職種を知り、その職種の役割を学びます。学科の枠を超えて小グループでディスカッションしながら、リハビリテーションに関わる専門職種間の連携の「意義・あり方」について考えていきます。
到達目標	①リハビリテーションに関連する職種を挙げることができる。 ②関連職種の専門性と関連性について説明できる。 ③保健・医療・福祉における専門職と連携の必要性を説明できる。 ④グループディスカッションを通して自らの考えをまとめ、伝える事が出来る。
授業計画	リハビリテーション専門職種間連携の基礎では、2つのテーマについて、グループでの調査やディスカッションを行います。授業の最後には、発表会を行い、グループで話し合った内容を共有し、さらに理解を深めます。 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 【テーマ１】　自分の目指す専門職と、関連職種 第1･2回　オリエンテーション　中村 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを通して自分の目指す専門職と、関連職種について理解する。 【テーマ２】　各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性 第3回　KJ法について　飯田・中村 第4回　KJ法を用いて、各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性について考える。 金原・中島・中村 第5･6回　グループ発表【ﾃｰﾏ2】の準備　金原・中島・中村 第7･8回　グループ発表【ﾃｰﾏ2】　金原・中島・中村 矢倉、飯田、佐藤(順)

アクティブラーニング	グループ発表に向けて、グループディスカッションを中心に行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	レポート評価：50%　発表：50%　計100%
課題に対するフィードバック	課題レポートの返却、プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。
指定図書	理学：奈良勲(編)「理学療法概論 第7版」(医歯薬出版) 作業：二木 淑子／能登 真一編：作業療法学概論 第 3 版，医学書院，東京，2016. 言語：藤田郁代・笹沼澄子編 「標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論」（医学書院） ＊指定図書は他学科の図書を購入する必要はありません。
参考図書	なし
事前・事後学修	毎回の事前学修(20分)：他学科の学生に概要を説明できるよう、指定図書をしっかり読むこと。毎回の事後学修(20分)：ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを踏まえて、課題レポートに取り組むこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間等：水曜13：00～14：20
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士、理学療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際リハビリテーション援助論
科目責任者	髙橋　大生
単位数他	１単位（30時間）　理学・作業・言語選択　２セメスター（2020年度入学生）
DP番号と科目領域	DP7専門基礎（2020年度入学生）
科目の位置付	DP(7)地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目では、リハビリテーション領域の国際援助について学習し国際的に実践する基盤を身につける。 本科目は、リハビリテーション分野の国際活動、他国のリハビリテーション事情などについて語学・専門知識・専門技能・実践力を課題解決講義や他の受講者とのディスカッションを通じて学習する。本学大学院に留学中の他国リハビリテーション専門職による講義も展開する。
到達目標	1.リハビリテーションの国際情勢ついて説明できる。 2.国際活動におけるリハビリテーション専門職者の活動を説明できる。 3.国際活動を行う上で、基礎的なスキルを説明し実践できる。 4.リハビリテーション専門職として国際援助を模擬的に実践できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 髙橋大生・冨澤涼子・小林マヤ 第 1回：オリエンテーション　髙橋大生 第 2回：グローバルヘルスにおける国際リハビリテーションの意義　冨澤涼子 第 3回：リハビリテーション領域の国際支援　髙橋大生 第 4回：国際活動における理学療法士の専門性と役割　髙橋大生 第 5回：国際活動における作業療法士の専門性と役割　冨澤涼子 第 6回：国際活動における言語聴覚士の専門性と役割　小林マヤ 第 7回：JICA、JOCV、国際NGOの活動　冨澤涼子 第 8回：発達障害（自閉症）と国際的支援　小林マヤ 第 9回：フィリピンのリハビリテーション事情　ゲストスピーカー 第10回：中国のリハビリテーション事情　ゲストスピーカー 第11回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習①）　髙橋大生 第12回：リハビリテーション専門職と国際援助（演習②）　髙橋大生 第13回：CBRと災害時のリハビリテーション援助　髙橋大生 第14回：海外活動の実際　小林マヤ 第15回：まとめ　髙橋大生 ※グローバル教育推進センターの活動を積極的に活用することによって、国際活動を深く理解することができる。

アクティブラーニング	グループディスカッション、国際支援活動等を実践しながら、到達目標を得る学習を行う。
授業内のICT活用	・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。
評価方法	定期試験50%、グループディスカッション30%、学内での国際活動参加20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに記された質問・課題を毎回の講義でフィードバック、指導、ディスカッションする。
指定図書	国際リハビリテーション学（河野　真編　羊土社）
参考図書	なし
事前・事後学修	ディスカッションや演習内容を事前に提示するので、知識を得ると同時に・手技等の確認をおこなう。事前学習は、演習の振り返りを各自で行い担当教員にフィードバックする。事後学修時間の目安は1回の講義あたり原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	自主学修として、以下のURLの講座の受講を勧めます。 東京大学 大学総合教育研究センター https://utokyo-ea.com/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512研究室（髙橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール（daiki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際リハビリテーション研修（PT・OT）
科目責任者	髙橋　大生
単位数他	１単位（30時間）　理学選択・作業選択・言語選択　３～８セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門基礎
科目の位置付	DP（7）保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際リハビリテーション研修は、異なる文化･地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目差す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で通用する柔軟な倫理観を習得する。 お互いの学生にとって可能性を拡大するために、学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修方法を用い、グローバルマインドを育む。
到達目標	・人の尊厳や幸福を尊重するためのリハビリテーション医療の重要性を国際的視点で理解する。 ・研修地のリハビリテーション医療を通して、人を支援する経験をする。 ・研修地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 ・研修地の学生と交流を図りコミュニケーション能力を養う。 ・異なる文化圏の生活を経験し、研修地の歴史・伝統・文化を学ぶ。
授業計画	担当教員名: 髙橋大生、鈴木達也 ＜授業内容・テーマ等＞ １．事前研修 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する ２．研修書類の作成 自己紹介、学習目標を作成する ３．海外研修 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation Field Work ４．研修報告会 研修後に報告書を提出し、報告会を行う ※グローバル教育推進センターの活動を積極的に活用することによって、研修を深く理解・遂行することができる。

アクティブラーニング	・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 ・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 ・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。 ・各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 ・学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。
授業内のICT活用	ICT機器を用いて英語のビデオ教材を視聴し、グループワークの内容をプロジェクターで発表する。
評価方法	事前研修　30%、研修時態度40%　課題レポート30%
課題に対するフィードバック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する。 事前研修1コマあたりの事前・事後学修時間は原則60分とする。
オープンエデュケーションの活用	自主学修として、以下のURLの講座の受講を勧めます。 東京大学 大学総合教育研究センター https://utokyo-ea.com/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間等：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際リハビリテーション研修（ST）
科目責任者	小林マヤ
単位数他	１単位（30時間）　言語選択　２・４セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	国際リハビリテーション研修は、異なる文化･地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目差す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で通用する柔軟な倫理観を習得する。 お互いの学生にとって可能性を拡大するために、学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修方法を用い、学生が国際リハビリテーションを経験する。
到達目標	・人の尊厳や幸福を尊重するためのリハビリテーション医療の重要性を理解する ・リハビリテーション医療を通して、人を支援する経験をする ・研修地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する ・研修地の学生と交流を図りコミュニケーションを行う。 ・異なる文化圏の生活を経験する。
授業計画	担当教員名: 小林マヤ ＜授業内容・テーマ等＞ １．事前研修 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する ２．研修書類の作成 自己紹介、学習目標を作成する ３．海外研修 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation ４．研修報告会 研修後に報告会を行う。また報告書を提出する

アクティブラーニング	・インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 ・参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 ・プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。 ・各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 ・学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。
授業内のICT活用	オンライン・ビデオ・チャット・ツールを使い、海外のリハビリテーション専門職とディスカッションをする。 WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	事前研修　30%、研修時態度40%　課題レポート30%
課題に対するフィードバック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下のURLの講座の受講を進めます。 https://www.futurelearn.com/courses/global-disability Global Health and Disability Leaving no one behind: disability, health and wellbeing in global development London School of Hygiene & Tropical Medicine
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402研究室　水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール（maya-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際コミュニケーション演習
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	１単位（30時間）理学選択・作業選択・言語選択　5セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門基礎
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	各国の言語や文化、医療、福祉について理解を深める。また、日本とは異なる文化を知ることで、国際社会に興味を持つことを目標とする。
到達目標	1. 世界各国のいろいろな地域の言語、文化、医療、福祉について、情報収集の方法を身につける。 2. 集めた情報から知識を統合し、言語、文化、医療、福祉の情勢について日本との相違を分析する。 3. 分析した結果より、自分の意見を確立し、伝達する能力を身につける。 4. 英語を使用して、自分の意見を相手に伝える方法を養う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞鈴木達也、他 第1回オリエンテーション& イントロダクション:世界の言語、文化、医療、福祉について（鈴木） 第2回言語、文化と健康問題について（鈴木） 第3回言語、文化と健康問題について演習（鈴木）） 第4回アメリカ・カナダの文化と医療福祉について（鈴木・ゲストスピーカー） 第5回アメリカ・カナダの文化と医療福祉について演習（鈴木） 第6回ヨーロッパの文化と医療福祉について（鈴木） 第7回ヨーロッパの文化と医療福祉について演習（鈴木） 第8回プレゼンテーション・ポスターフェア（鈴木・ゲストスピーカー） 第9回東南アジアの文化と医療福祉（鈴木・ゲスト） 第10回東南アジアの文化と医療福祉について演習（鈴木・ゲストスピーカー） 第11回中国の文化と医療福祉について（鈴木・ゲストスピーカー） 第12回中国の文化と医療福祉について演習（鈴木） 第13回オーストラリアの文化と医療福祉について（鈴木） 第14回オーストラリアの文化と医療福祉について演習（鈴木） 第15回プレゼンテーション・ポスターフェア（鈴木） ゲストスピーカーは講義初日に伝えます
アクティブラーニング	グループ学修

授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します
評価方法	プレゼンテーション:50%　レポート：50% レポート（50%） 　　・テーマ：課題については授業で実施した内容をもとに提示する プレゼンテーション・ポスターフェア（50%） 　　・計2回のプレゼンテーションをおこなう 　　・ルーブリックを使用して、判定を行う　7回の平均点を最終評価とする
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションへのフィードバックは授業の中、口頭で行う。 レポートへのフィードバックは個人にレポート返却時に書面で行う。
指定図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学　第3版：医学書院 田平隆行、田中寛之：Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学４老年期」作業療法全書，協同医書出版 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 籔脇健司：高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	各回ごとに演習で取り入れるトピックを発表する。 事前学習では、そのトピックについて自分で情報を集め（ポートフォリオ作成）、自分の意見を構築する。 事後学修では、演習の時間に実施した内容を取り入れながら自分の意見を再構築する。 また、疑問に思った内容を再度調べ、ポートフォリオを作成する。 事前・事後学修は原則40分程度行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511研究室 時間等：月、木、金曜日3限目、17時~18時 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際社会福祉論
科目責任者	冨澤　涼子
単位数他	1単位数（15時間）　理学選択・作業選択・言語選択　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際社会福祉・国際リハの概念や理論、グローバリゼーションと社会福祉・リハ問題を学ぶ。後半は参加型の開発型福祉を踏まえ、自らの実践を考察するグループワークを行う。
到達目標	・国際社会福祉・国際リハとは何か、現状と課題について概略を述べることができる。 ・講義で取り上げた地球規模の問題やこれからの日本の社会福祉・リハビリテーションのあり方について意見を述べることができる。 ・国際的な社会福祉・リハビリテーション問題に関心が持てるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：オリエンテーション、SDGsとは　冨澤涼子 国連が定めた持続可能な開発目標（Sustainable Developmental Goals; SDGs）策定の経緯やその社会的意義について説明する。 第2 回：国際医療保健福祉の現状と課題　冨澤涼子 国際社会での医療保健福祉に関するする現状や課題について説明する。 第 3回：精神保健福祉における人権と思想　佐々木正和 第 4回：精神保健福祉における人権に関する具体的事例検証　佐々木正和 日本での精神障がいのある方への人権侵害について諸外国と比較して検証する。 第 5回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの教育・医療支援　鈴木光男 カンボジアの近現代史から現在の状況を知り、その中での日本のNPOやNGOの活動の具体を知る。 第6回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの教育・医療支援　鈴木光男 学校をつくる会JHPの支援活動を中心に、保育・教育現場の支援活動について知り、今後の途上国支援のあり方を検討・協議する。 第7～8回：国際社会福祉・国際リハビリテーションの概念（CBR）　冨澤涼子 国際社会福祉、国際リハビリテーションの概念や理論について説明をし、グループワークにて理解を深める。 ※講義内容は変更の可能性があります。
アクティブラーニング	PBLを行うので、主体的・積極的に参加をし、自ら調べ、考えることで、国際社会福祉の具体例を学び、どのような実践を行っていくとよいか考察を行ってください。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。

評価方法	筆記試験（40%）、グループワークへの参加度（20%）、プレゼンテーション（40%）
課題に対するフィードバック	グループワークや小テストにおいて学修状況を適宜把握し、必要に応じて、学修の進行 を促すアドバイスを行う。
指定図書	なし 講義の中で随時、関係資料を配布する
参考図書	中村優一他編著「グローバリゼーションと国際社会福祉」（中央法規） 高柳彰夫著：SDGsを学ぶ：国際開発・国際協力入門（法律文化社） 大坪滋編：国際開発学入門―開発学の学際的構築（勁草書房）
事前・事後学修	事前学修時間20分以上、事後学修時間20分以上 普段から地球規模の問題や課題に積極的に関心を抱き、問題意識を深めること。 事前：指定図書、関係資料等、授業に関連する箇所を読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い自分の考えをまとめておくこと。
オープンエデュケーションの活用	WHO　https://www.who.int/ 国際リハビリテーション協会 https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/glossary/RI.html
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法概論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法概論では，リハビリテーションにおける理学療法の役割，治療技術，疾病と対象の理解，理学療法のプロセス（検査・評価，治療）と臨床思考，理学療法士の使命と倫理，さらに理学療法士の養成教育と生涯学習について学修する。
到達目標	1.社会人として，理学療法士としての使命感，倫理観を持ち，基本的な臨床態度を習得する。 2.リハビリテーションにおける理学療法に関する基本的な知識を身につけ，説明できる。 3.理学療法士が活躍するフィールドを理解し，自身の将来像を描けるようになる。
授業計画	※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞矢倉千昭 第1回：コースオリエンテーション，学修の準備 第2回：学修の準備 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。 第3回：　グループワークの練習 ・授業の中でグループワークを練習する。 第4回：理学療法の歴史，技術および歴史を理解する　テキスト　第1章 ※第5回から授業前にグループワークで資料を作成し，教員に提出する. 第5回：理学療法の対象と臨床プロセスを理解する。　テキスト　第3章，第5章 第6回：理学療法と障害モデルを理解する。　テキスト　第1章 第7回：理学療法士の使命と倫理を理解する。　テキスト　第3章 第8回：理学療法士に求められる臨床思考を理解する。　テキスト　第4章 第9回：理学療法士が活躍する現場を理解する。　テキスト　第6章 第10回：私たちが学ぶ理学療法教育を理解する。　テキスト　第8章 第11回：理学療法士の法律，職能を理解する。　テキスト　第2章，第7章 第12回：理学療法における研究を理解する。　テキスト　第10章 第13回：理学療法と報酬（保険制度）を理解する。　テキスト　第11章 第14回：理学療法とリスク管理を理解する。　テキスト　第11章 第15回：理学療法(士)の現状を知り，これからの理学療法を考える. これまでの授業のまとめを行う

アクティブラーニング	・シラバスから学修内容を理解し，各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員がWebClassに掲示し，学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。 ・小テストで知識の到達度を確認する。
授業内のICT活用	・WebClassを活用した授業となるため，事前事後学修，授業でパソコンを使用する。
評価方法	知識確認試験60%，ポートフォリオ20%，出席状況20%
課題に対するフィードバック	・発表の途中で補足し，終了後に総括を行う。 ・WebClassのリアクションペーパーを確認し，メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（編）「理学療法概論テキスト　改訂第3版」（南江堂） 中島雅美（編）「理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート　第3版（医歯薬出版） 中島雅美（編）理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート　第3版（医歯薬出版）
参考図書	千住秀明（監）「理学療法学テキストⅠ理学療法学概論　第4版」（神陵文庫）
事前・事後学修	事前学修として，グループワーク資料の作成、発表準備を行う。 事後学修として，授業で発表・質疑応答，教員が総括した内容をまとめ，小テストで知識確認を行う。
オープンエデュケーションの活用	活用の予定なし。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日から金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎理学療法学
科目責任者	俵　祐一
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法の対象である，様々な疾患によって発現する症状・徴候，構造と機能の障害，運動や動作の障害について，解剖・生理・運動学の基礎知識を統合して，その発生および治癒課程を理解し，説明することを目的とする．そのうえで，エビデンスに基づいた理学療法の評価や治療を選択することができることを目標とする。
到達目標	1.理学療法の対象である病態ならびに障害について，発生および治癒課程を理解・説明できる 2.理学療法の対象である病態ならびに障害について，基本的な評価と治療を選択・実施できる
授業計画	＜授業内容･テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1 回：オリエンテーション，運動療法学総論　俵　祐一 第 2 回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-1　俵　祐一 －病態ならびに障害の発生および治癒課程を理解する 第 3 回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-2　俵　祐一 －病態ならびに障害の理学療法評価と治療の選択 第 4 回：筋萎縮・筋力低下と理学療法-3　俵　祐一 －筋萎縮・筋力低下に対する理学療法評価の実施 第 5 回：神経生理学的原理を用いた理学療法-1　俵　祐一 －神経生理学的原理の理論を理解する 第 6 回：神経生理学的原理を用いた理学療法-2　俵　祐一 －神経生理学的原理に基づいた理学療法評価と治療の選択 第 7 回：関節運動障害と理学療法-1　俵　祐一 －病態ならびに障害の理学療法評価とストレッチの理論を理解する 第 8 回：関節運動障害と理学療法-2　俵　祐一 －関節運動障害に対するストレッチの実際 第 9 回：関節運動障害と理学療法-3　金原一宏 －関節運動学の理論を理解する 第 10 回：関節運動障害と理学療法-4　金原一宏 －関節運動学に基づいた理学療法評価と治療の選択 第 11 回：関節運動障害と理学療法-5　金原一宏 －関節運動学に基づいた理学療法評価の実施 第 12 回：心肺機能・代謝機能障害と理学療法-1　高橋大生 －病態ならびに障害の発生および治癒課程を理解する 第 13 回：心肺機能・代謝機能障害と理学療法-2　高橋大生 －病態ならびに障害の理学療法評価と治療の選択 第 14 回：心肺機能・代謝機能障害と理学療法-3　高橋大生 －心肺機能・代謝機能障害に対する理学療法評価の実施

	第 15 回：理学療法の対象である病態ならびに障害に対する理学療法の実際　ｹﾞｽﾄ 大曲正樹 －臨床場面での理学療法評価および治療と臨床推論
アクティブラーニング	授業はモデルケースを用いての演習やグループワークなどを予定しています
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	レポート25%，グループ発表内容25%，定期試験50%
課題に対するフィードバック	レポートの添削、演習での指導、等
指定図書	奈良勲監修，「標準理学療法学　運動療法学　総論」　医学書院
参考図書	奈良勲監修，「標準理学療法学　運動療法学　各論」　医学書院 奈良勲監修，「標準理学療法学　病態運動学」　医学書院 柳澤健，他訳，「PNFハンドブック　第4版」　丸善出版 竹井仁，他編，「系統別・治療手技の展開　改定第3版」　協同医書出版
事前・事後学修	事前学修では各回の授業テーマに関連する解剖・生理・運動学の基礎知識を整理してください。 事後学修では基礎知識を統合し，グループでまとめたものや演習で行った内容を復習・練習してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法研究の理論
科目責任者	金原一宏
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	臨床疑問や課題に対して，客観的な視点から探求することを目的に，理学療法に必要な理学療法研究に関する方法論を学習する。研究の方法論では，問題点の抽出から文献検索，仮説の立案，データ測定，結果の解釈，考察といった研究の流れに沿ってそれぞれに必要な知識の習得と理学療法に必要な倫理事項の確認を行い，リハビリテーション専門職を志す者としての冷静な態度，深い洞察力，高い倫理観を裏付ける広い教養を身につける。
到達目標	1.理学療法における研究活動の意義を理解する 2.研究疑問を具現化し，その解明の手順(研究計画書の作成)を理解する 3.理学療法研究を実践するにあたっての倫理感を養う
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：コースオリエンテーション　研究法総論（1）　金原一宏 第2回：研究法総論（2）　金原一宏 第3回：研究法総論（3）　金原一宏 第4回：研究疑問の見つけ方（1）　金原一宏 第5回：研究疑問の見つけ方（2）　金原一宏 第6回：研究疑問の見つけ方（3）　金原一宏 第7回：文献レビューの仕方（1）　金原一宏 第8回：文献レビューの仕方（2）　金原一宏 第9回：文献レビューに基づく仮説の設定（1）　金原一宏 第10回：文献レビューに基づく仮説の設定（2）　金原一宏 第11回：文献レビューに基づく仮説の設定（3）　金原一宏 第12回：理学療法研究に必要な統計学（1）　代表値とバラツキ　俵　祐一 第13回：理学療法研究に必要な統計学（2）　様々な統計学的手法　俵　祐一 第14回：理学療法研究に必要な倫理学　有薗信一 第15回：大学院教育への発展　有薗信一
アクティブラーニング	グループワーク等を予定しています
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーション際、パソコンを使用して行います。
評価方法	課題提出物：30%、研究計画書の作成：70%

課題に対するフィードバック	研究計画書の作成指導を通して進めていきます
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法―コメディカルの研究法入門」（神稜文庫）
参考図書	対馬栄輝　著「医療系データのとり方・まとめ方」（東京図書） 対馬栄輝　著　SPSSで学ぶ医療系データ解析（東京図書）
事前・事後学修	学修の成果はグループ指導教員との卒業研究テーマ，研究計画の作成に反映されます
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法研究の実践
科目責任者	有薗信一
単位数他	4単位（120時間）　　理学必修　　８セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法研究の意義と、科学的・論理的な研究方法を修得する。具体的には、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集・解析、考察を行い、その研究結果を卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させることを目標とする。
到達目標	1.理学療法研究の意義を理解する。 2.一連の研究の流れ学び、各自の研究テーマに沿って研究を実施する。 3.研究結果を考察し、口述発表する。 4.卒業論文にまとめて報告する。
授業計画	＜担当教員＞ 有薗信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地嶋誠、吉本好延、田中真希、矢部広樹、高橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 本科目は、担当指導教員によるゼミ形式で行うが、必要に応じて全体でも開講する。 研究内容、および研究方法は、指導教員の指導を受けて決定すること。 卒業研究の流れ ・理学療法研究の意義と目的 ・研究疑問の発見 ・文献レビュー ・研究テーマの明確化 ・研究計画の作成（倫理的考察も含む） ・研究方法（対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など） ・データ収集 ・データ解析と処理 ・考察 ・発表 ・論文執筆 *卒業研究発表会を１１月上旬頃に行う *卒業論文の提出は１１月末頃とする

アクティブラーニング	・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション，資料作成
評価方法	履修状況：30% 論文内容：35% 口頭発表：35%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法―コメディカルの研究法入門」（神稜文庫）
参考図書	なし
事前・事後学修	文献検討を十分に行って、研究に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法教育マネジメント論
科目責任者	有薗信一
単位数他	2単位（30時間）　理学選択　８セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	保健医療福祉領域において、自らの専門性を自覚し、その責務を果たすことが求められます。理学療法士は、理学療法学生や若手理学療法士の教育を担い、また新しい評価方法や治療法の開発などによって理学療法の発展に寄与しなければなりません。そのためには、理学療法の教育指導の理念と方法を身につけることが大切です。本授業では、理学療法士の教育方法、特に臨床実習における学生指導についての基礎を学び、リハビリテーションの専門職業人として将来を展望した理学療法教育への関心を深めます。
到達目標	1.医学教育の動向、課題と方略を概説することができる 2.理学療法の教育方法（CBT、PBL、OSCEなど）を概説することができる 3.理学療法士の臨床実習における学生指導についての基礎理論と基本技能を修得する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞有薗信一，吉本好延 第1-2回：医学教育の動向、理学療法士の現状と教育の課題を考える　（有薗信一，吉本好延） 第3-4回：理学療法士の大学教育におけるカリキュラムプランニングを学ぶ：教育理念、教育目標、教育課程、授業、成績評価　（有薗信一，吉本好延） 第5-8回：医学教育の教育手法：ＣＢＴ、ＰＢＬ、ＯＳＣＥ、ロールプレイなどを学習し、演習を行う　（有薗信一，吉本好延） 第9-12回：臨床実習における教育方法について学び、また自身の体験からより良い実習指導のあり方を検討する　（有薗信一，吉本好延） 第13-15回：理学療法士の「生涯学習」とキャリア形成について学ぶ　（有薗信一，吉本好延）
アクティブラーニング	・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション，資料作成

評価方法	・グループワークの発表と内容：40% ・レポート提出と内容：60%
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし（講義時に資料を配布する）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前に関係論文を配布するので、事前に読んで授業に出席すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法診断学概論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	２単位(30時間)　理学必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	理学療法において，理学療法診断（評価）は，対象者の障害像を整理し，問題点の把握，治療目標の設定，治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。授業では，理学療法診断に必要な基本的な態度，知識，技能について学ぶ。
到達目標	1.理学療法士を目指す学生としての社会人基礎力，臨床態度，学修意欲を喚起する。 2.理学療法診断(評価)の意義と目的，評価から治療計画の立案までの過程を説明できる。 3.対象者とのコミュニケーション，医療面接，基本的な検査・測定が想起できる。
授業計画	※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞矢倉千昭 第1回：コースオリエンテーション，学修の準備 第2回：学修の準備 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。 第3回：理学療法評価とは　第1章 第4回：検査・測定法の信頼性と妥当性　第1章 第5回：情報収集・医療面接　第2章 第6回：ICFとICIDH　第3章 第7回：検査・測定法の名前，その目的・概要・意義①　第7回～第11回　第4章～21章 第8回：検査・測定法の名前，その目的・概要・意義② 第9回：検査・測定法の名前，その目的・概要・意義③ 第10回：検査・測定法の名前，その目的・概要・意義④ 第11回：検査・測定法の名前，その目的・概要・意義⑤ 第12回：運動器系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える　第22章～25章　2疾患 第13回：中枢神経系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える　第27章～31章　2疾患 第14回：内部障害系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える　第32章～34章　2疾患 第15回：まとめ

アクティブラーニング	・シラバスから学修内容を理解し，各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員がWebClassに掲示し，学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。 ・小テストで知識の到達度を確認する。
授業内のICT活用	・WebClassを活用した授業となるため，事前事後学修，授業でパソコンを使用する。
評価方法	知識確認試験60%，ポートフォリオ20%，出席状況20%
課題に対するフィードバック	・発表の途中で補足し，終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し，メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（監）「理学療法評価学テキスト　改訂第2版」（南江堂） 中島雅美（編）「理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート　第3版（医歯薬出版） 中島雅美（編）理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート　第3版（医歯薬出版）
参考図書	千住秀明（監）「理学療法評価法　第3版」（神陵文庫）
事前・事後学修	事前学修として，グループワーク資料の作成、発表準備を行う。 事後学修として，授業で発表・質疑応答，教員が総括した内容をまとめ，小テストで知識確認を行う。
オープンエデュケーションの活用	活用の予定なし。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法診断技術学
科目責任者	俵　祐一
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	理学療法において、理学療法診断(評価)は対象者の問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。本科目では，理学療法士として基本的な評価を実施できるようにするために，基本的な理学療法評価（筋力測定やバランス検査など）の種類や原理，実施方法などについて，基礎知識・技術・態度を身につける。
到達目標	1．代表的な理学療法対象疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 2．基本的な理学療法評価の方法と原理を説明できる 3．基本的な理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる
授業計画	＜担当教員＞ 俵　祐一、矢倉千昭、有薗信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、矢部広樹、高橋大生 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1回：コースオリエンテーション　俵祐一・矢部広樹 第 2回：関節可動域測定1　俵祐一・矢部広樹 第 3回：関節可動域測定2　俵祐一・矢部広樹 第 4回：関節可動域測定3　俵祐一・矢部広樹 第 5回：徒手筋力検査1　俵祐一・矢部広樹 第 6回：徒手筋力検査2　俵祐一・矢部広樹 第 7回：徒手筋力検査3　俵祐一・矢部広樹 第 8回：バイタルサイン　俵祐一・矢部広樹 第 9回：理学療法診断技術学総合演習1　全員 第10回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識　矢部広樹・俵祐一 第11回：感覚検査、反射検査、疼痛検査、バランス検査　矢部広樹・俵祐一 第12回：動作・歩行分析　矢部広樹・俵祐一

	第13回：フィジカルアセスメント　俵祐一・矢部広樹 第14・15回：理学療法診断技術学総合演習2　全員 ※ユニフォームで参加してください。
アクティブラーニング	本授業はグループワークを適宜採用したり，モデルケースを想定しての実際の技術演習を積極的に行ないます
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	演習課題40%、定期試験60%
課題に対するフィードバック	授業の実技にて、評価手技習得の達成度をフィードバックします
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著　南江堂
参考図書	理学療法評価法：千住秀明監修、中島喜代彦編集（九州神陵文庫）
事前・事後学修	徒関節可動域測定，筋力検査，感覚検査，バランス検査，医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習，事後学習を行ってください
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系理学療法評価学
科目責任者	吉本好延
単位数他	1単位（30時間）　理学必修　4セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目では、中枢神経疾患に伴う身体・精神機能障害、能力障害の把握に必要な症状発現のメカニズムと評価法について学習する。具体的には、中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う運動障害、感覚障害などの機能障害、姿勢・動作分析のポイントを理解し、中枢神経疾患における基本的な評価方法を理解し、選択および実践できるように学習する。
到達目標	1.脳卒中患者の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選定し、実践することができる。 2.神経難病患者の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選択し，実践することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1部：当授業方針・方法の説明 第1 回：コースオリエンテーション：アクティブラーニングの定義 第2部：脳卒中患者の病態・症状発現のメカニズムの理解・主な理学療法評価 第2 回：課題①：右被殻出血で左片麻痺を有するA さんを担当しました。A さんはなぜ左片麻痺があるのでしょうか。「血腫」「内包」「一次運動野」「外測皮質脊髄路」「前皮質脊髄路」の全てのキーワードを組み合わせて、片麻痺発症のメカニズムを説明せよ。 第3 回：課題②：右被殻出血で左片麻痺を有するA さんを担当しました。A さんにBRS を行います。AさんにBRS の評価を行う上で、必要な予備知識をまとめよ。 第4 回：課題③：左視床出血で右感覚障害を有するA さんを担当しました。A さんはなぜ右半身に感覚障害があるのでしょうか。「血腫」「視床」「脊髄視床路」「表在感覚」「深部感覚」の全てのキーワードを組み合わせて、感覚障害発症のメカニズムを説明せよ。 第5 回：課題④：左視床出血で右感覚障害を有するA さんを担当しました。A さんに運動覚の検査を行います。A さんの運動覚の評価を行う上で、必要な予備知識をまとめよ。 第6 回：課題⑤：左放線冠のBAD で上下肢に強い痙縮を有するA さんを担当しました。A さんはなぜ痙縮があるのでしょうか。「ラクナ梗塞」「BAD」「脳血栓」「皮質脊髄路」「網様体脊髄路」「皮質網様体路」の全てのキーワードを組み合わせて、痙

	縮発症のメカニズムを説明せよ。 第7 回：課題⑥：左放線冠のBAD で上下肢に強い痙縮を有するA さんを担当しました。A さんにMAS を行います。A さんにMAS の評価を行う上で、必要な予備知識をまとめよ。 第8 回：課題⑦：脳幹出血で意識障害を有するA さんを担当しました。A さんはなぜ意識障害があるのでしょうか。「脳幹」「出血」「脳幹網様体賦活系」「大脳皮質」の全てのキーワードを組み合わせて、意識障害発症のメカニズムを説明せよ。 第9 回：課題⑧：脳幹出血で意識障害を有するA さんを担当しました。A さんにJCS を評価します。A さんにJCS の評価を行う上で、必要な予備知識をまとめよ。 第 10 回：課題⑨：右小脳出血で右運動失調を有するA さんを担当しました。A さんはなぜ右運動失調があるのでしょうか。「小脳」「大脳小脳連関」「皮質橋小脳路」「小脳視床路」「視床皮質路」の全てのキーワードを組み合わせて、運動失調発症のメカニズムを説明せよ。 第11回：脳卒中の理学療法評価　矢倉千昭 高次脳機能障害の障害と検査法 第12回：脳卒中の理学療法評価　矢倉千昭 CT・MRI画像の読み方 第3部：神経難病患者の病態・症状発現のメカニズムの理解・主な理学療法評価 第13回：パーキンソン病の評価　矢倉千昭 第14回：多発性硬化症の評価・脊髄小脳変性症の評価　矢倉千昭 第15回：筋萎縮性側索硬化症の評価　矢倉千昭
アクティブラーニング	・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、webclassに提出してください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします（事前学修）。 ・授業資料は開始前までにアップします。 ・授業日はPBL形式でグループでの課題解決に努めてください。 ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生が理解を促できるようにしてください。 ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclassに提出してください。授業開始1日前の21時とします（事後学修）。
授業内のICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用

評価方法	定期試験：80%　課題提出物：20%
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していきます。
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーションーエビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社　監修　藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7　脳・神経』メディックメディア 　ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）
参考図書	『PT・OTのための臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編』金原出版株式会社　監修　才藤栄一
事前・事後学修	・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので，課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509教室，毎週水曜日16時～18時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	内部障害系理学療法評価学
科目責任者	有薗　信一
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価するために必要である基礎的な知識と技能を備え，客観的かつ科学的観点から物事を洞察できる能力を習得する事を目的に，内部障害疾患（特に呼吸・循環・代謝系疾患）の病態生理ならびに疾患に対する理学療法評価を整理する。
到達目標	1.呼吸器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。 2.循環器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。 3.代謝系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。
授業計画	担当教員：有薗信一・俵祐一・矢部広樹・向井庸 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回 コースオリエンテーション　内部障害系理学療法学総論（1）（有薗） －内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素 第2回 呼吸器系理学療法評価学（1）COPD，間質性肺炎（有薗） －呼吸器疾患に対する理学療法評価の方法と実際 第3回 呼吸器系理学療法評価学（2）（有薗） 第4回 呼吸器系理学療法評価学（3）（有薗） 第5回 呼吸器系理学療法評価学（4）（有薗） 第6回 循環器系理学療法評価学（1）狭心症，急性心筋梗塞，心不全（有薗） 第7回 循環器系理学療法評価学（2）（有薗） 第8回 循環器系理学療法評価学（3）（有薗） 第9回 循環器系理学療法評価学（4）（有薗） 第10回 呼吸器系循環器系理学療法評価学（1）（俵） 第11回 呼吸器系循環器系理学療法評価（2）（俵） 第12回 呼吸器系循環器系理学療法評価学（3）（俵） 第13回 腎臓および代謝系理学療法評価学（1）（矢部） 第14回 腎臓および代謝系理学療法評価学（2）（矢部） 第15回 急性期理学療法評価　（ゲスト向井・有薗）
アクティブラーニング	・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション，資料作成

評価方法	テスト(60%)，レポート(40%)にて評価する
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	内部障害理学療法学テキスト　細田多穂著　南江堂 千住秀明著「呼吸リハビリテーション入門」(神稜文庫)
参考図書	なし
事前・事後学修	循環器疾患，代謝疾患，呼吸器疾患などをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に評価の実際について，事後学習してください
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器系理学療法評価学
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し（画像所見含む）、それらに対する理学療法評価について学習する。特に整形外科的検査について、方法や原理、目的などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には，代表的な運動器疾患を概説できること，代表的な運動器疾患における評価方法の種類を挙げることができること、評価の方法を説明し実践できること，評価方法の原理を説明できること，医療従事者としての振る舞いができることを目指す。
到達目標	1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 3. 理学療法評価の方法と原理を説明できる 4. 理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法学総論　（根地嶋） （運動器疾患における病態把握と理学療法評価（画像所見含む）） 第 2 回：股関節の疾患と理学療法評価 1　（田中） （変形性股関節症，THA の病態と理学療法評価） 第 3 回：股関節の疾患と理学療法評価 2　（田中） （大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価） 第 4 回：膝関節の疾患と理学療法評価 1　（根地嶋） （変形性膝関節症，TKA の病態と理学療法評価） 第 5 回：膝関節の疾患と理学療法評価 2　（根地嶋） （靭帯損傷の病態と理学療法評価） 第 6 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 1　（根地嶋） （腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価） 第 7 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 2　（根地嶋） （腰痛の病態と理学療法評価） 第 8 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 1　（根地嶋） （肩板断裂の病態と理学療法評価） 第 9 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 2　（根地嶋） （肩関節周囲炎の病態と理学療法評価） 第 10 回：技能総合演習 1　（根地嶋，田中） （検査測定の理解，技能のまとめ） 第 11 回：技能総合演習 2　（根地嶋，田中） （技能試験） 第 12 回：技能総合演習 3　（根地嶋，田中） （検査測定の知識と技能の整理） 第 13 回：関節リウマチの理学療法評価 1　（田中）

	（関節リウマチの病態と理学療法評価） 第 14 回：関節リウマチの理学療法評価 2　（田中） （関節リウマチの病態と理学療法評価） 第 15 回：理学療法評価の実際　（杉浦武） （理学療法評価の知識・技術の統合と実際）
アクティブラーニング	グループワーク（グループ発表，ディスカッション）
授業内のICT活用	webclassを用いた相互評価，資料の提示
評価方法	小テスト20%，総合演習課題20%，筆記試験60%
課題に対するフィードバック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	運動器疾患の理学療法（神陵文庫）
参考図書	標準整形外科学（医学書院）
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について40分程度学んでおくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法検査測定演習
科目責任者	矢部　広樹
単位数他	1単位（30時間）　理学必修　3セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は、理学療法診断技術学で学んだ知識と技術を整理、習得する。代表的な病態に対し、基本的な理学療法評価から必要なものを選択し、健常者を対象として基本的な検査測定を実施できることを目標とする。授業では、対象者への配慮と医療者としての接遇を身に付け、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、バイタルサイン、精神機能検査、感覚・反射検査、疼痛評価等を実施する
到達目標	1.健常者を対象に、基本的な理学療法評価を適切な技術と相手を尊重した態度で実施できる 2.報告会や実技演習で経験したことを報告できる
授業計画	＜担当教員＞ 矢部広樹、俵　祐一、矢倉千昭、有薗信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、高橋大生 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第1回　コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認　矢部・俵 第2回　関節可動域測定演習1　上肢・肩甲帯　矢部・俵 第3回　関節可動域測定演習2　下肢　矢部・俵 第4回　関節可動域測定演習3　頚部・体幹　矢部・俵 第5回　徒手筋力検査1　矢部・俵 第6回　徒手筋力検査2　矢部・俵 第7回　徒手筋力検査3　矢部・俵 第8回　バイタルサイン　矢部・俵 第9回　実技総合演習①　矢部・俵 第10回　画像診断，血液検査，医学的検査　矢部・俵 第11回　感覚検査，反射検査，疼痛検査，バランス検査　矢部・俵 第12回　動作・歩行分析　矢部・俵 第13回　フィジカルアセスメント　矢部・俵 第14・15回　実技総合演習②　全員 参加者へのメッセージ：ケーシーで参加してください。
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します
授業内のICT 活用	実技に関して、動画を用いて適切な評価手技を学習します

評価方法	実技総合演習の遂行状況70%　課題提出物(リアクションペーパー)30% 実技総合演習はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。（提示方法：WebClass に掲載および配布）
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、授業内では口頭で、授業後はWebClassを用いて個別にフィードバックする。グループ発表と演習のフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著　南江堂 金原出版、PT・OTのための臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　第2版、才藤栄一監修
参考図書	「なし」
事前・事後学修	毎回の授業前に、授業に該当する事前課題を提示します。 上肢、下肢、頚部、体幹、それぞれの解剖学、運動学の知識について、事前課題に沿って各回の前に確認しておくこと。関節可動域測定，徒手筋力検査，感覚検査，バランス検査，運動負荷試験，医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習，事後学習を行ってください。 第9回、14・15回の総合演習では、振り返りの事後課題を設定します。
オープンエデュケーションの活用	「なし」
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間等：毎週水曜日12時～13時 上記以外でもメール（hiorki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法評価演習
科目責任者	俵　祐一
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	学内演習を通して、高度な知識と技術を習得するために、各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な知識（ベーシックスキル）・技術（動作分析）を学習する。また、実技総合演習により、理学療法現場で必要な臨床能力（問題解決能力、態度・技能）の習得を目指し、知識総合演習により、理学療法現場に対応した知識・思考力（問題解決能力）の確認を行う。 「施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	リハビリテーションの対象を、これまで学習した基礎的な知識と専門的な知識を統合し、発展させて多角的に理解できる。具体的には、臨床理学療法評価実習に必要な以下の3つの領域を習得する。 1.知識：標準的な国家試験問題で6割程度解答できる　特に基礎編の知識を応用できる 2.技術：基本的な理学療法評価項目を挙げ、各種疾患や障害についての知識と結びつけることができる 3.態度：相手を尊重した言葉使いや行動をとることができる
授業計画	＜担当教員＞ 俵　祐一、矢倉千昭、有薗信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、矢部広樹、高橋大生、ゲストスピーカー （すべての内容を教員全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回コースオリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する。これまで学習した理学療法の基本的な知識を確認する　（俵） 第2回理学療法基礎演習Ⅰ（神経理学療法） 第3回理学療法基礎演習Ⅱ（神経理学療法） 第4回理学療法基礎演習Ⅲ（運動器理学療法） 第5回理学療法基礎演習Ⅳ（運動器理学療法） 第6回理学療法基礎演習Ⅴ（内部障害理学療法） 第7回理学療法基礎演習Ⅵ（内部障害理学療法） 第8回実技総合演習Ⅰ　（OSCE）　（教員全員＋ゲストスピーカー） 第9回実技総合演習Ⅱ　（OSCE）　（教員全員＋ゲストスピーカー） 第10回実技総合演習Ⅲ　（OSCE）　（教員全員＋ゲストスピーカー） 第11回実技総合演習Ⅳ　（OSCE）　（教員全員＋ゲストスピーカー） 第12回実技総合演習Ⅴ　（OSCE）　（教員全員＋ゲストスピーカー） 第13回実技総合演習Ⅵ　（OSCE）　（教員全員＋ゲストスピーカー） 第14回知識総合演習Ⅰ（Computer-Based-Testing：CBT）（俵）

	第15回知識総合演習Ⅱ（CBT）　　（俵） 第2回～7回までに行ったグループ学習を第8回～13回の実技総合演習で整理し、 各領域の理学療法現場に対応した知識・思考力（問題解決能力）を確認する
アクティブラーニング	施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。グループ内で患者役、医療従事者役を設定し、口頭で説明をする・評価をする（実技）など臨床現場を想定してグループ学修を進める。 iPadを活用し、実際に実技の練習などをビデオに撮影し、その動画を確認しながら学生同士がお互いにフィードバックを行うことで、知識や実技向上に努め、学生自身の問題解決能力を養う。 「施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	口頭試問（4月～6月中に実施予定：全３回）40%　・知識確認試験（7月中旬実施予定）30%　・OSCE（客観的臨床能力試験）（7月中旬実施予定）30% ＊３回の口頭試問にそれぞれ合格しないとOSCEの受験資格はありません。 ＊口頭試問・OSCEはルーブリックを使用して到達度を判定します。
課題に対するフィードバック	・口頭試問：1回目：運動器理学療法・2回目：神経理学療法・3回目：内部障害理学療法について試験官であるそれぞれの教員の質問に口頭で説明していただきます。質問内容は、事前に配布した口頭試問用キーワードリストに沿って出題します。そのキーワードの意味だけでなく、臨床の上で患者さんや他のスタッフに説明するイメージで他のキーワードとのつながりや、詳細など説明してください。質問内容は臨床の場面を想定して、教員が、口頭試問キーワードリストから応用的に問題を出題します。 ＊回答時間は一人15分程度です。服装はケーシー、身
指定図書	理学療法評価学テキスト　細田多穂監修　南江堂、口頭試問キーワードリスト・国家試験過去問題配布、これまでに履修した科目の指定図書など
参考図書	なし
事前・事後学修	計画的に自主的な学習を進めてください。計画的、且つ継続的な実技を含む学修を推奨します（原則1コマ40分）。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の基礎的知識を、確認しながら深めていきます。この科目は、臨床理学療法評価実習Ⅰと並行して学修する科目となります。また、臨床理学療法評価実習Ⅱに出るための知識、技術を習得する前提科目となります。事前・事後学修は原則40分程度行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3507研究室 時間等：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎理学療法治療学
科目責任者	俵　祐一
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	人の健康状態の改善のために、的確な行動ができる必要な専門知識を習得するために、本科目では、理学療法における運動療法の基礎となる関節可動域運動、筋力・筋持久力増強運動、バランス改善運動、協調性運動ならびに運動学習理論の基礎・技術を習得する。
到達目標	各種疾患・障害に共通して実施される基礎的な理学療法を実践するために、必要な基礎的な知識・技術を修得する。具体的には、以下の2つを習得する。 1. 運動療法の基本的概念を理解する。 2. 運動療法の基本的技術を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：コースオリエンテーション、科目全体の流れを把握する。　俵　祐一 第２回：運動療法の基礎－筋力強化運動の実践１　俵　祐一 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果 第３回：運動療法の基礎－筋力強化運動の実践２　俵　祐一 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果 第４回：運動療法の基礎－筋持久力強化運動の実践　俵　祐一 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果 第５回：運動療法の基礎－固有受容性神経筋促通法の実践１　俵　祐一 実施方法、適応と禁忌、効果 第６回：運動療法の基礎－固有受容性神経筋促通法の実践２　俵　祐一 実施方法、適応と禁忌、効果 第７回：運動療法の基礎－ストレッチの実践１　俵　祐一 実施方法、適応と禁忌、効果 第８回：運動療法の基礎－ストレッチの実践２　俵　祐一 実施方法、適応と禁忌、効果 第９回：運動療法の基礎－モビライゼーションの実践１　金原一宏 実施方法、適応と禁忌、効果 第 10 回：運動療法の基礎－モビライゼーションの実践２　金原一宏 実施方法、適応と禁忌、効果 第 11 回：運動療法の基礎－全身持久力強化の実践１　高橋大生 実施方法、適応と禁忌、効果 第 12 回：運動療法の基礎－全身持久力強化の実践２　高橋大生 実施方法、適応と禁忌、効果 第 13・14 回：実技総合演習　俵祐一・金原一宏 各理学療法手技についての理解および実践の確認　田中真希・高橋大生 第 15 回：運動療法の基礎－体力強化の理論と実践　ゲスト 久保裕介 実施方法、適応と禁忌、効果

アクティブラーニング	グループワークおよび演習を予定しています
授業内のICT活用	実技指導のための動画やプレゼンテーション資料はプロジェクターを利用して行います。
評価方法	グループワーク課題30%、実技テスト30%、レポート40%
課題に対するフィードバック	グループワーク課題の添削、演習での指導、等
指定図書	細田多穂監修「運動療法学テキスト」（南江堂）
参考図書	奈良勲監修，「標準理学療法学　運動療法学　各論」（医学書院） 柳澤健，他訳，「PNFハンドブック　第4版」　丸善出版 竹井仁，他編，「系統別・治療手技の展開　改定第3版」　協同医書出版
事前・事後学修	関節可動域運動、筋力増強運動、バランス運動などをキーワードに事前学習を行ってください。 運動療法による治療の実際について，症例報告などを中心に事後学習してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児理学療法学
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	子どもの正常発達とその原理、および小児疾患（脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症、二分脊椎）の基礎（病態や障害像）を整理して、理学療法の評価と治療についての基礎理論と技術を学び、小児理学療法分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。
到達目標	1.子どもの理学療法に対する関心を高める（情意） 2.子どもの正常発達過程とその原理、正常発達と異常発達の相違を論述することができる（認知） 3.脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症の病態と障害像を理解し、基本的な理学療法評価と治療技術が実施できる（技術）
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：コースオリエンテーション，学修の準備　矢倉千昭 第2回：学修の準備　矢倉千昭 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・各課題を担当するグループを決定する。 第3回：正常運動発達，発達・運動発達の評価　第１章，２章　矢倉千昭 第4回：姿勢反射の発達　第３章，４章　矢倉千昭 第5回：脳性麻痺総論　第６章　矢倉千昭 第6回：脳性麻痺：痙直型四肢麻痺，両麻痺　第７章，８章　矢倉千昭 第7回：脳性麻痺：アテトーゼ型　第１０章　矢倉千昭 第8回：二分脊椎とペルテス病　第１１章　矢倉千昭 第9回：遺伝性疾患　第１３章　伊藤信寿 第10回：知的障害児　第１２章　伊藤信寿 第11回：小児の呼吸障害　第１５章　背戸佑介 第12回：小児の呼吸障害　第１５章　背戸佑介 第13回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ　山内一之 第14回：小児リハビリテーションの実際を学ぶ　山内一之 第15回：まとめ　矢倉千昭
アクティブラーニング	・シラバスから学修内容を理解し，各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・提出したグループワークの資料はWebClassで共有する．学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。 ・小テストで知識の到達度を確認する。
授業内のICT活用	・WebClassを活用した授業となるため，事前事後学修，授業でパソコンを使用する。
評価方法	知識確認試験60%，ポートフォリオ20%，出席状況20%

課題に対するフィードバック	・発表の途中で補足し，終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し，メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	小児理学療法学テキスト（南江堂）
参考図書	田原弘幸（編）理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法　第2版」（神陵文庫）
事前・事後学修	事前学修として，グループワーク資料の作成、発表準備を行う。 事後学修として，授業で発表・質疑応答，教員が総括した内容をまとめ，小テストで知識確認を行う。
オープンエデュケーションの活用	活用の予定なし。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系理学療法治療学
科目責任者	吉本好延
単位数他	2単位（60時間）　理学必修　5セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害に対する基本的な理学療法の理論と技術について学習する。中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害を理解し、これらに対する理学療法の理論と技術を学ぶ。評価結果から統合と解釈、問題点の抽出、目標の設定、治療プログラムの立案までの思考プロセスの基礎を身につける。
到達目標	１．脳卒中の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を立案することができる。 ２．神経疾患，脊髄損傷の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第一部：脳卒中患者の理学療法評価：総合評価 第１回：脳卒中理学療法の総合評価：　発表　吉本好延 課題1：「脳卒中患者Aさんの理学療法評価を立案してください。また、あなたが立案した理学療法評価項目が必要と考えた根拠を、それぞれの評価項目に示してください」 第二部：急性期脳卒中患者の理学療法 第2回：脳卒中の急性期理学療法①：　発表　吉本好延 課題2：「脳出血患者Bさんの離床はいつから行いますか？　また、どのように離床をすすめていきますか？　脳出血・血腫・開頭血腫除去術・頭蓋内圧・脳ヘルニア・血圧・再出血・起立性低血圧・ポジショニングの全てのキーワードを用いて説明してください」 第3回：脳卒中の急性期理学療法②　：　発表：吉本好延 課題3：「くも膜下出血患者Cさんの離床はいつから行いますか？　また、離床も含めて理学療法士が把握すべき、くも膜下出血患者に生じやすい合併症と合併症が生じるメカニズムを説明してください。くも膜下出血・脳脊髄液・クリッピング術・外減圧術・再出血・脳血管攣縮・水頭症・ドレナージ・廃用症候群・ポジショニングの全てのキーワードを用いて説明してください」 第4回：脳卒中の急性期理学療法③：　発表：吉本好延 課題4：「脳血栓患者Cさんの離床はいつから行いますか？　また、担当医から脳血栓・ラクナ梗塞・脳塞栓症などの病態やその後の治療によって離床基準が異なる説明を受けました。なぜでしょうか？離床基準が異なる理由も説明してください。脳血栓・ペナンブラ・虚血・血栓融解療法・出血性梗塞・起立性低血圧・血行力学性梗塞・BAD・脳浮腫・心源性脳塞栓の全てのキーワードを用いて説明してください」 第5回：脳卒中の急性期理学療法総合学習④：　発表：吉本好延 課題5：「あなたは脳出血の〇さんを担当しました。あなたはどのような理学療法評価を行いますか？次に、指導員の評価結果が提示されました。あなたはどのような理学療法アプローチを立案しますか？箇条書きで終わるのではなく、<u>具体的な手法について根拠資料を含めて説明してください</u>。」 第三部：回復期・慢性期脳卒中患者の理学療法 第6回：脳卒中の回復期・慢性期理学療法①：　発表：吉本好延 課題6：回復期の脳卒中患者を担当する前に、あなたの指導員から「神経可塑性を促すアプローチとは何ですか？」と知識確認がありました。ニューロン・アンマスキング・発芽形成・豊かな環境・Hebbの法則・神経学的代償・皮質間ネットワーク・シナプス伝達効率・反復練習・早期リハビリテーションの全てのキーワードを用いて説明してください」

	第7回：脳卒中の回復期・慢性期理学療法②：　発表：吉本好延 課題7：「脳血栓患者Dさんの理学療法として課題指向型アプローチが選択されることになりました。あなたの指導員から「課題指向型アプローチとは何ですか？」と知識確認がありました。ダイナミカル・システムズ理論・機能的運動課題・階層理論・課題実施環境・運動学習・モチベーション・フィードバック・行動分析学・機能障害・課題特異性の全てのキーワードを用いて説明してください。また、Dさんに実施する課題指向型アプローチは、どのように行うのか具体的に説明してください。」 第8回：脳卒中の回復期・慢性期理学療法④：　発表：吉本好延 課題8：「脳血栓患者Eさんの麻痺側上肢に対する理学療法としてCI療法が選択されることになりました。あなたの指導員から「CI療法とは何ですか？」と知識確認がありました。課題指向型アプローチ・トランスファーパッケージ・行動契約・モニタリング・問題解決技法・WMFT・MAL・反復練習・ボツリヌス療法の全てのキーワードを用いて説明してください。また、Eさんに実施するCI療法を、どのように行うのか具体的に説明してください。」 第9回：脳卒中の回復期・慢性期理学療法⑤：　発表：吉本好延 課題9：「在宅で生活している脳卒中患者Fさんは転倒を繰り返しています。最近、身体活動量も低下してきました。脳卒中患者Fさんはなぜ転倒しやすいのでしょうか。また、なぜ身体活動量が低下してきたのでしょうか。フレイル・サルコペニア・姿勢制御能力・機能障害・転倒恐怖感・高齢者・薬物療法・ポリファーマシー・住環境・慢性疼痛・誤嚥性肺炎・うつ・アパシー・廃用症候群・合併症の全てのキーワードを用いて説明してください。また、あなたはＦさんの転倒予防・身体活動量の向上を目的とした理学療法を、どのように行うのか具体的に説明してください。」 第10回：脳卒中の回復期・慢性期理学療法総合学習⑥：　発表：吉本好延 課題10：「あなたは脳梗塞の〇さんを担当しました。あなたはどのような理学療法評価を行いますか？次に、指導員の評価結果が提示されました。あなたはどのような理学療法アプローチを立案しますか？箇条書きで終わるのではなく、具体的な手法について根拠資料を含めて説明してください。」 第四部：神経難病の理学療法 第11回：パーキンソン病の理学療法治療：矢倉千昭 第12回：パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症の理学療法の実際：ゲストスピーカー 第13回：脊髄小脳変性症の理学療法治療：矢倉千昭 第14回：多発性硬化症の理学療法治療：矢倉千昭 第15回：脊髄損傷の理学療法治療：矢倉千昭 ＊1回を2コマとする
アクティブラーニング	・各授業に課題を提示しています。事前学修を個人で行い、webclassに提出してください。 ・提出日は授業開始1日前の21時とします（事前学修）。 ・授業資料は開始前までにアップします。 ・授業日はPBL形式でグループでの課題解決に努めてください。 ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生が理解を促できるようにしてください。 ・授業の振り返りは、事後学修で行っていただきます。授業を通じて学修した内容を資料にまとめて、webclassに提出してください。授業開始1日前の21時とします（事後学修）。
授業内のICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用

評価方法	定期試験：70%　課題提出物：30%
課題に対するフィードバック	・随時行います。
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーションーエビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社　監修　藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7　脳・神経』メディックメディア ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）
参考図書	
事前・事後学修	・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので，課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509教室，毎週水曜日16時～18時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	内部障害系理学療法治療学
科目責任者	有薗　信一
単位数他	２単位(60時間)　理学必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価し，情報の統合と的確な判断を行なうために必要な専門知識を習得する。本科目では，内部障害系疾患(特に呼吸・循環器系・代謝系疾患，がん)の病態構造を把握しながら，理学療法プログラムの立案・効果の検証までを解説する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 2. 循環器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 3. 代謝系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 4. がん患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞有薗信一・俵祐一・矢部広樹・柳田頼英 第 1回：コースオリエンテーション　内部障害系理学療法治療学総論（有薗・俵） －内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素 第 2回：呼吸器系理学療法治療学（1）（有薗・俵） －病態ならびに障害像の把握と理学療法評価の実践（COPD） 第 3回：呼吸器系理学療法治療学（2）（有薗・俵） －呼吸器疾患に対する理学療法の実践（間質性肺炎） 第 4回：がん患者の理学療法治療学と呼吸器系理学療法治療学（有薗・俵） －周術期における理学療法の評価と実践（周術期） 第 5回：集中治療領域の呼吸器系理学療法治療学（有薗・俵） －人工呼吸器に対する理学療法の実践（人工呼吸器） 第 6回： がん患者の理学療法治療学（有薗・俵） －化学療法，緩和ケアにおける理学療法の評価と実践（Best support care） 第 7回：循環器系理学療法治療学（有薗・俵） －循環器疾患に対する理学療法の実践（心筋梗塞） 第 8回：循環器系理学療法治療学（有薗・俵） －循環器疾患に対する理学療法の実践（心不全） 第 9回：循環器系理学療法治療学（有薗・俵） －循環器疾患に対する理学療法の実践（心臓外科手術） －心電図の実際 第10回：身体所見の取り方，呼吸介助法（俵・有薗） 第11回：吸引（俵・有薗） 第12回：人工呼吸器（NPPV）と酸素療法の実際（俵・有薗） 第13回：代謝系理学療法治療学（1）（矢部） －病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践 第14回：代謝系理学療法治療学（2）（矢部） －代謝疾患に対する理学療法の実践：運動処方の理論と実際 第15回：急性期病院における理学療法治療学（ゲスト柳田・有薗）

	＊1回を2コマとする
アクティブラーニング	・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
授業内のICT活用	PCでプレゼンテーション，資料作成
評価方法	テスト(60%)，レポート(40%)にて評価する
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	内部障害理学療法学テキスト　細田多穂著　南江堂 呼吸・心臓リハビリテーション　居村茂幸監　羊土社
参考図書	なし
事前・事後学修	循環器疾患，代謝疾患，呼吸器疾患，がんなどをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に運動療法の実際について，事後学習してください
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　研究室：3513研究室 時間については，初回授業時に提示します．上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください．講義と実習を組み合わせながら進めていきます。 ユニフォームを着用して下さい。1回は2コマです。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器系理学療法治療学
科目責任者	根地嶋　誠
単位数他	２単位（60時間）　理学必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法プログラムを学習する。理学療法プログラムの種類や方法、原理などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には，代表的な運動器疾患を説明できること、代表的な運動器疾患に対するプログラムの種類を挙げることができること、具体的な方法を説明し実践できること、プログラムの原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。
到達目標	1．代表的な運動器疾患を概説できる 2．代表的な運動器疾患に対する理学療法プログラムの項目を列挙できる 3．理学療法プログラムの方法と原理を説明できる 4．理学療法プログラムを適切な技術と態度で実施できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1・2回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法総論　根地嶋 （運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ） 第 3・4回：下肢疾患に対する理学療法１　田中 （大腿骨頚部骨折・術後の理学療法アプローチ） 第 5・6回：下肢疾患に対する理学療法2　田中 （変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ） 第 7・8回：下肢疾患に対する理学療法3　根地嶋 （変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ） 第 9・10回：下肢疾患に対する理学療法4　根地嶋 （膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ） 第11・12回：頸部体幹疾患に対する理学療法1　根地嶋 （腰痛の理学療法アプローチ） 第13・14回：頸部体幹疾患に対する理学療法2　根地嶋 （腰椎椎間板ヘルニア（末梢神経障害含め）の理学療法アプローチ） 第15・16回：技術演習1（症例検討：評価）　根地嶋，田中 第17・18回：技術演習2（症例検討：介入）　根地嶋，田中 第19・20回：下肢障害の理学療法の実際　齊藤和快 第21・22回：上肢疾患に対する理学療法１　根地嶋 （腱損傷，肩関節周囲炎の理学療法アプローチ） 第23・24回：上肢疾患に対する理学療法2　松本武士 （上肢疾患の理学療法の実際） 第25・26回：関節リウマチに対する理学療法　田中 （関節リウマチの理学療法アプローチ） 第27・28回：　ロコモティブシンドロームの理解と予防　田中 （高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法）

	第29・30回： スポーツ外傷に対する理学療法（スポーツ外傷総論） 根地嶋
アクティブラーニング	グループディスカッションおよび発表
授業内のICT活用	webclassによる相互評価，資料の提示
評価方法	レポート15%，小テスト15%，技術演習20%，定期試験50%
課題に対するフィードバック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	整形外科リハビリテーション（羊土社）
参考図書	標準整形外科学（医学書院）
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	物理療法学の理論
科目責任者	金原　一宏
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	物理療法の定義、原理、種類、歴史、実施方法について調べ、収集する。
到達目標	各種の物理的刺激が生体に及ぼす影響を、科学的根拠に基づいた説明ができるようになる。さらに、炎症や痛み等に対する物理療法が、治療技術として対象者に適応される際の目的、効果、副作用、禁忌、注意事項等を把握し、適切に物理療法手技の選択を行えることを目標とする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞金原一宏　矢部広樹 第 1 回：コースオリエンテーション　物理療法学総論 金原一宏 第 2 回：温熱物理刺激（伝導熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏 第 3 回：ホットパックとパラフィンの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏 第 4 回：炎症・痛みに対する物理療法における生体反応について調べ、 知識を収集する 金原一宏　矢部広樹 第 5 回：拘縮・痙性に対する物理療法における生体反応について調べ、 知識を収集する 金原一宏　矢部広樹 第 6 回：温熱物理刺激（エネルギー変換熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての 知識を収集する 金原一宏 第 7 回：極超短波と超音波の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏 第 8 回：寒冷物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏 第 9 回：寒冷療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 金原一宏 第 10 回：電気物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏 第 11 回：経皮的電気刺激療法、神経筋電気刺激療法、クロナキシーの実施方法、適応、 禁忌についての知識を収集する 金原一宏 第 12 回：電磁波と光線物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する 金原一宏

	第 13 回：赤外線、紫外線、レーザー療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する金原一宏 第 14 回：水治の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する　　金原一宏 第 15 回：牽引療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する　　金原一宏 受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。
アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーション際、パソコンを使用して行います。
評価方法	定期試験60%、レポート30%、課題提出物10%により総合的に評価する
課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	イラストでわかる物理療法　監修者：上杉雅之　編集者：杉本雅治、菅原仁　医歯薬出版株式会社
参考図書	物理療法学・実習15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　責任編集：日髙正巳（兵庫医療大学）／玉木　彰（兵庫医療大学）総編集：石川　朗（神戸大学）　中山書店 Crosslink　理学療法学テキスト　物理療法学　編集：吉田英樹　メジカルビュー社
事前・事後学修	炎症・痛み・拘縮・痙性について、知識が必要であるため確認しておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	物理療法学の実践
科目責任者	金原　一宏
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	物理療法学の理論で学んだ講義内容を学内実習にて体験する。また、各種物理的刺激が生体へ及ぼす影響について実際のデータを収集し、それぞれの科学的根拠について考察し発表する。
到達目標	上記の作業を通して、障害像にあった物理療法を選択し、さらに実践できるよう技術習得することを目的とする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞　金原一宏　根地嶋誠　田中真希　矢部広樹　安孫子幸子 第 1 回：金原 コースオリエンテーション　実習前オリエンテーション 間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する。さらに間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 第 2 回：金原、根地嶋 マッサージ療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する マッサージ療法の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する バイオフィードバック療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する 第 3 回：金原、根地嶋 実習１：温熱・寒冷療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習２：電気療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 第 4 回：金原 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習１・２） 第 5 回：金原、田中 実習３：牽引療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習４：マッサージを施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 第6 回：金原 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習３・４） 第 7 回：金原、根地嶋 実習５：電磁波・光線療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習６：水治療法（全身浴・部分浴）を施行し、生体への影響を確認する共に実施方法の習得をする 第8回：金原、根地嶋 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習５・６） 第9、10回：ゲスト　安孫子、金原 世界の物理療法機器の最前線について（特別講義） 第11、12回：金原、根地嶋、田中、矢部

	実技総合演習 第13、14、15回：金原、根地嶋、田中、矢部 知識総合演習 受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。
アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。 実技総合演習では、ルーブリックを活用し、実技ビデオをグループで作成する。 学生同士で実技ビデオを参考に自身の実技をパソコンで分析し、実技スキル向上を図る。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーション際、パソコンを使用して行います。
評価方法	実技試験・口頭試問（50%）、小テスト（30%）、課題提出：レポート・（20%）により総合的に評価する。 実技試験は、ルーブリックを活用し実施する。
課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	イラストでわかる物理療法　監修者：上杉雅之　編集者：杉本雅治、菅原仁　医歯薬出版株式会社
参考図書	物理療法学・実習15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　責任編集：日髙正巳（兵庫医療大学）／玉木　彰（兵庫医療大学）総編集：石川　朗（神戸大学）　中山書店 Crosslink　理学療法学テキスト　物理療法学　編集：吉田英樹　メジカルビュー社 PT・OTのための臨床技能とOSCE　機能障害・能力低下への介入 編　監修　才藤 栄一　金原出版
事前・事後学修	実習前に、各治療法を復習しておくこと。 撮影した実技ビデオを確認して実技総合演習に臨むこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動学の理論
科目責任者	矢部　広樹
単位数他	2単位（30時間）　理学必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	日常生活活動(ADL)の概念を国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連，評価方法，支援機器など総合的に学ぶ．また，寝返りや起き上がりなどの基本動作，移乗・移動動作，更衣・排泄などの身の回りの動作について分析し，指導および介助方法の基礎を学び，具体的な症例で目標となる日常生活活動とその援助方法の知識と技術を習得する．
到達目標	1.日常生活活動の概念，評価方法，支援機器を説明できる 2.日常生活活動の各動作を理解し，説明できる 3.症例に応じた日常生活活動を分析し，指導および介助方法を説明できる
授業計画	＜担当教員＞ 矢部広樹、有薗信一、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、俵　祐一、田中真希、髙橋大生、 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：コースオリエンテーション　日常生活活動総論1　矢部広樹 日常生活活動の概念，理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する 第 2回：日常生活活動総論２　矢部広樹 国際生活機能分類(ICF)を学習する 第 3回：日常生活活動評価の方法　矢部広樹 Barthel Index，FIMなどの評価尺度と判定基準について学習する 第 4回：起居移動動作（臥位～座位）　矢部広樹 寝返り動作，起き上がり動作について理解し，説明することができる 第 5回：起居移動動作（座位～立位、移乗動作）　矢部広樹 立ち上がり動作，車椅子への移乗動作を理解し，説明することができる 第6回：疾患を想定した日常生活活動の介助法１　矢部広樹 大腿骨頸部骨折患者に対する起居移乗動作の介助方法 第7回：疾患を想定した日常生活活動の介助法２　矢部広樹 脳卒中片麻痺患者に対する起居移乗動作の介助方法 第8回：疾患を想定した日常生活活動の介助法３　矢部広樹 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法 第9回：疾患を想定した日常生活活動の介助法３　矢部広樹 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法 第9回：疾患を想定した日常生活活動の介助法4　矢部広樹 臨床場面を想定した起居移乗動作の介助方法の応用を学習する 第10回：歩行補助具を用いた日常生活の介助方法　矢部広樹 杖・歩行器の使用について説明することができる 第11回：神経系疾患の日常生活活動　吉本好延 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し，説明することができる

	第12回：運動器系疾患の日常生活活動　吉本好延 　運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し，説明することができる 第13回：脊髄損傷の日常生活活動　吉本好延 　脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し，説明することができる 第14回、第15回：客観的能力開発演習　全員 授業は講義と演習形式のため，動きやすい服装で出席してください.
アクティブラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習を取り入れて実施する
授業内のICT活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する 動画を用いた教材を使用し、障害像の把握や理学療法評価の理解を促す
評価方法	定期試験40%　演習の達成度40%、レポート20% 演習はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。 （提示方法：WebClass に掲載および配布）
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、次回の授業の冒頭にてフィードバックする グループ発表と実技のフィードバックは、授業内に口頭で行う
指定図書	日常生活活動学テキスト（南江堂） 金原出版、PT・OTのための臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　第2版、才藤栄一監修
参考図書	「なし」
事前・事後学修	・各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Web classで提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。 ・1～10回の授業では、毎回事後学習課題に対するレポートを提出すること
オープンエデュケーションの活用	「なし」
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動学の実践
科目責任者	矢部　広樹
単位数他	1単位（30時間）　理学必修　5セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	疾患ごとの機能障害，活動制限の特徴を理解し、具体的な日常生活活動の評価方法と介入方法を学修する。特に本科目では臨床場面での患者評価と指導を想定し、グループワークと演習を通して障害に対する日常生活活動の分析、指導および介助法について実践する。
到達目標	1. 日常生活活動の評価、指導方法を習得する。 2. 疾患および障害に対する日常生活活動の観察と動作分析に基づいた介助、指導法を習得する。 3. 日常生活活動に関する介助、指導を、適切な接遇の元で実施できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：コースオリエンテーション　矢部広樹 -本科目の全体の流れと、本科目で扱うアクティブ・ラーニングについて理解する 第２回：患者の障害像とADL障害の理解　矢部広樹 -患者の障害像とADL障害発生の関連を学修する 第３回：患者の障害像とADL障害の評価１　矢部広樹 -患者の障害像とADL障害の評価方法を学修する 第4回：患者の障害像とADL障害の評価２　矢部広樹 -実際の生活場面を想定したADL障害の評価方法を学修する 第５回：ADL障害への介入方法１　矢部広樹 -実際の生活場面を想定したADL障害の介入方法を学修する 第6回：グループ検討　矢部広樹 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する 第7回：グループ発表　矢部広樹 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する 第8回：グループ発表　矢部広樹 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する 第9回：シーティング　田中真希 -車椅子の採型，症例に合せたシーティングを理解する 第10回：車椅子のメンテナンス　矢部広樹・田中真希 -施設利用者の車椅子を調整する（学外実習） 第11回：運動器障害に対するADL指導　田中真希 -関節リウマチに対するADL指導を学ぶ 第12回：運動器障害に対するADL指導　田中真希 -大腿骨頸部骨折，変形性膝関節症，切断に対するADL指導を修得する 第13回：中枢神経障害に対するADL指導　吉本好延 -脊髄損傷に対するADL指導を修得する 第14回：中枢神経障害に対するADL指導　吉本好延 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対するADL指導を修得する 第15回：動作介助・指導のスキルアップ　吉本好延 -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する

アクティブラーニング	本授業は、PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習を取り入れて実施する
授業内のICT 活用	ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する
評価方法	グループ発表50%、レポート50% グループ発表、レポート共に、ルーブリックを用いて評価します(ルーブリックの内容は授業中に 提示します（提示方法：WebClass に掲載および授業内で配布）
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、次回の授業の冒頭にてフィードバックする グループ発表と実技のフィードバックは、授業内に口頭で行う
指定図書	『日常生活活動学テキスト』南江堂
参考図書	「なし」
事前・事後学修	・毎回の授業では、毎回事後グループ学習課題を提示します。次回の授業で課題の発表を行います。 ・各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Web classで提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください ・レポート「ADLに関する小説」を作成すること。（120 分＝3 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	「なし」
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	機能代償機器学の理論
科目責任者	髙橋　大生
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	DP（2）保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	義肢装具を含めた環境や機器などの代償手段により、障害前とは違った新たな代償機能を創造していく学問である。障害を受けた多様な身体機能について、機能代償機器（義肢・装具）によりどのように代償していくのかを、その構造・製作過程・使用方法を学びつつ、理学療法士の役割として求められる適合判定を中心に講義を展開していく。
到達目標	1. 主に身体障害の機能代償として使用する機能代償機器の種類、構造をバイオメカニズムの視点から理解し、説明できる。 2. 義肢や装具をはじめとする機能代償機器の適合判定（チェックアウト）について理解・説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：コースオリエンテーション，装具総論　第1章　髙橋大生 第2回：装具理解のための生態力学，装具歩行の運動学　第2章　髙橋大生 第3回：①短下肢装具の種類，②歩行における働き　第3章　髙橋大生 第4回：①長下肢装具の種類，②歩行における働き　第4章　髙橋大生 第5回：①靴型装具の種類，②靴の補正　第5章　矢倉千昭 第6回：下肢装具のチェックアウト　第6章　矢倉千昭 ①短下肢装具のチェックアウト，②長下肢装具のチェックアウト 第7回：①上肢装具の種類と適応，②チェックアウト　第7，8章　矢倉千昭 第8回：①頸部体幹装具の種類と特徴，②チェックアウト第9，10章　矢倉千昭 第9回：装具のまとめ　髙橋大生 第10回：切断，末梢神経障害の理論　第16-18章　髙橋大生 第11回：末梢神経障害，切断者の評価　第19，20章　髙橋大生 第12回：断端管理　第21章　髙橋大生 第13回：義手，義足概論　ゲスト 氷見 純・髙橋 第14回：下腿義足，大腿義足概論　ゲスト 氷見 純・髙橋 第15回：義手，義足の体験　ゲスト 氷見 純・髙橋
アクティブラーニング	・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員がWebClassにアップし、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。

授業内のICT活用	・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。 ・ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行います。
評価方法	定期試験50%、小テスト20%、課題提出物30%
課題に対するフィードバック	・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・理解度確認のための小テストを行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」（南江堂） 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修：「義肢装具のチェックポイント」（医学書院）
参考図書	高田治実　監修：「義肢・装具学」（羊土社） 川村次郎　編集：「義肢装具学」（医学書院） 清水順市、青木主税　監修；「リハビリテーション義肢装具学」（メジカルビュー社）
事前・事後学修	・事前学修としてグループワークで実施する課題の準備を行う。授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として振り返る。1コマあたりの事後学修時間は原則40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512研究室（髙橋研究室） 時間については、初回授業時に提示します。 いつでもメール（daiki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	機能代償機器学の実践
科目責任者	髙橋　大生
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	機能代償機器の使用目的や種類をふまえ、適応となる疾患の障害構造を的確に把握し、チェックアウト・アライメントチェック、作用メカニズムなどを学ぶ。演習や実習を通して考察し、実践につながるような講義をすすめる。
到達目標	1. 義肢・装具の適応となる主要な疾患ごとに、機能代償機器の使用法を理解し、実際に扱える。 2. 義肢・装具の適応となる主要な疾患ごとに、適合判定（チェックアウト）を行うことができるようになる。
授業計画	＜授業内容･テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：コースオリエンテーション　高橋大生 第２回：整形外科疾患に対する装具①　高橋大生 第３回：整形外科疾患に対する装具②　高橋大生 第４回：スポーツ外傷に対する装具①　高橋大生 第５回：スポーツ外傷に対する装具②　高橋大生 第６回：脳卒中片麻痺に対する装具①　矢倉千昭 第７回：脳卒中片麻痺に対する装具②　矢倉千昭 第８回：関節リウマチに対する装具・自助具①　矢倉千昭 第９回：関節リウマチに対する装具・自助具①　矢倉千昭 第 10 回：下腿・大腿義足のチェックアウトのポイント　高橋大生 （各アライメントの調整、異常歩行） 第 11 回：大腿義足チェックアウト：グループワークと発表　高橋大生 課題解決型学修：画像評価を用いたスタティックアライメントの異常抽出 動画評価を用いた異常歩行の様子・原因・対策 第 12 回：下腿義足チェックアウト：グループワークと発表　高橋大生 課題解決型学修：画像評価を用いたスタティックアライメントの異常抽出 動画評価を用いた異常歩行の様子・原因・対策 第 13 回：股義足概論と異常歩行　ゲスト豊田　輝 第 14 回：断端管理実習　ゲスト豊田　輝 第 15 回：模擬義足装着体験実習　ゲスト豊田　輝
アクティブラーニング	・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードや課題を抽出し、グループディスカッションを行う。プレゼンテーションを通して知識や思考過程の共有を行う。 ・グループワークの課題資料は教員がWebClassにアップし、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。

授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクター及び共有モニターを利用して行います。 理学療法評価として画像や動画を用いた学修を実施する。
評価方法	小テスト20%、グループ発表30%、レポート30%、グループワーク参加状況20%、計100%
課題に対するフィードバック	・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」（南江堂） 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修：「義肢装具のチェックポイント」（医学書院）
参考図書	高田治実　監修：「義肢・装具学」（羊土社） 川村次郎　編集：「義肢装具学」（医学書院） 清水順市、青木主税　監修；「リハビリテーション義肢装具学」（メジカルビュー社）
事前・事後学修	・事前学修としてグループワークで実施する課題の準備を行う。授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として振り返る。1コマあたりの学修時間は原則40分とする。 ・3回目、5回目、7回目、9回目の授業後にグループワーク資料を提出すること。 ・10回-13回目の授業内で行う小テストに回答すること。 ・最終講義後にレポート「義足異常歩行の現象・原因・対処方法について」を作成すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 場所：3512研究室（髙橋研究室） 時間については，初回授業時に提示します。 いつでもメール（daiki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法治療演習
科目責任者	田中真希
単位数他	1単位（30時間）　理学必修　　7セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し，それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱの実習で担当した症例に関する知識の確認，および各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な評価・治療技術の確認を行い，それらを応用できるようにする。 統合と解釈の演習では，症例の理解を通じて，理学療法士として基本的な評価・治療に関する総合的な能力を養い，理解していることを他者に的確に伝える技術を身につける。また，実技総合演習では，臨床現場で必要な能力(論理的思考力，問題解決力，コミュニケーション力)を高め，実践可能なレベルを目指す。
到達目標	臨床理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱにおいて学修した専門的な知識・技術・態度を統合し，表現する 1 知識：標準的な理学療法対象症例の病態・障害像を統合・解釈し，説明できる 2 技術：基本的な理学療法評価・治療項目を挙げ，実施できる 3 態度：相手を尊重した言動・配慮ができる
授業計画	＜担当教員＞ 田中真希，矢倉千昭，有薗信一，吉本好延，根地嶋誠，金原一宏，俵祐一，矢部広樹，髙橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　オリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する 第 2 回　知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-1 第 3 回　知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-2 第 4 回　知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習Ⅰ終了後-3 臨床理学療法総合実習Ⅰで学んだことを適切に表現することができる 第 5 回　知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-1 第 6 回　知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-2 第 7 回　知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習Ⅱ終了後-3 臨床理学療法総合実習Ⅱで学んだことを適切に表現することができる 第 8 回　実技総合演習(中枢神経系)-1 第 9 回　実技総合演習(中枢神経系)-2 第 10 回　実技総合演習(中枢神経系)-3 第 11 回　実技総合演習(内部障害系)-1 第 12 回　実技総合演習(内部障害系)-2 第 13 回　実技総合演習(運動器系)-1 第 14 回　実技総合演習(運動器系)-2 第 15 回　実技総合演習(運動器系)-3 中枢神経系・内部障害系・運動器系の理学療法に必要な臨床能力を習得する 症例報告会・口頭試問，実技総合演習時は実習着で出席してください

アクティブラーニング	演習科目
授業内のICT活用	ICTを活用して演習の様子を動画撮影し，グループで確認しながらフィードバックし合う。
評価方法	実習後の知識・技術確認のため症例についての報告会，口頭試問，OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)にて6割以上の成績であることが合格条件 知識確認のための症例報告・口頭試問50%，OSCE50%　計100% ルーブリックを用いて評価し，その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対するフィードバック	症例報告会・口頭試問では，担当教員が報告内容に対して質問およびフィードバックする。 OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)では，終了後に評価 教員からのフィードバックの他に，試験課題の実施状況を動画撮影し，全体終了後にフィードバックする。
指定図書	神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・ 日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書
参考図書	実習中に作成した空間概念図，資料，デイリーノートなど
事前・事後学修	原則40分を目安に学修する。 事前事後学修を事前学修として，実習中から担当症例の統合と解釈について考察をまとめる。 事後学修として，フィードバックを受けた内容についてまとめて復習する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理学療法学総合演習
科目責任者	吉本　好延
単位数他	1単位（30時間）　理学必修　8セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	理学療法士国家試験レベルの演習を通して、理学療法士に必要な知識を統合するとともに、臨床的な視点による問題解決能力を身につけることで、これまで学習してきた理学療法学を包括的にまとめる。
到達目標	１．理学療法士国家試験レベルの理学療法学の知識を修得することができる。 ２．理学療法士に必要な知識を統合することができる。 ３．臨床的な視点によって問題解決することができる。
授業計画	＜担当教員名＞（すべての内容を全員で担当する） 吉本好延、有薗信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　オリエンテーション - シラバス確認・スケジュールの説明　　吉本 第 2 回　知識到達度確認試験（専門基礎 100 問）根地嶋 第 3 回　知識到達度確認試験（専門基礎 100 問）田中 第 4 回　知識到達度確認試験（専門基礎 100 問）吉本 第 5 回　オリエンテーション - 学習方針の再検討（ゼミ・個別）GW　吉本 第 6 回　知識到達度確認試験（専門基礎 50 問・専門 50 問）有薗 第 7 回　知識到達度確認試験（専門基礎 50 問・専門 50 問）田中 第 8 回　知識到達度確認試験（専門基礎 50 問・専門 50 問）矢倉 第 9 回　オリエンテーション - 学習方針の再検討（ゼミ・個別）GW　吉本 第 10 回 知識到達度確認試験（専門基礎 100 問・専門 100 問）矢部 第 11 回 知識到達度確認試験（専門基礎 100 問・専門 100 問）俵 第 12 回 知識到達度確認試験（専門基礎 100 問・専門 100 問）高橋 第 13 回 知識到達度確認試験（専門基礎 100 問・専門 100 問）根地嶋 第 14 回 知識到達度確認試験（専門基礎 100 問・専門 100 問）金原 第 15 回 知識到達度確認試験（専門基礎 100 問・専門 100 問）金原 1. 知識確認試験の目標点数（2-4 回）（6 割：60 点/100 点） 2. 知識確認試験の目標点数（6-8 回）（6 割：60 点/100 点） 3. 知識確認試験の目標点数（10-15 回）（6 割：120 点/200 点） 【内容】 ・累積合計点数が 240 点以上で合格とする. ・累積合計点数とする理由は，試験後の点数を踏まえて，今後の学修プラン（目標点数とスケジュールなど）を自身（他のゼミ生・担当教員）で再計画することを目的とするためである. ・1,2 の試験で目標点数に達していなかったが，3 の試験で 6 割以上を獲得して

	いる学生は，再試験を行い（専門基礎50 問・専門50 問），6 割以上の点数で合格と判定する．
アクティブラーニング	・知識到達度確認試験は最終的な目標点数が示されており，目標点数を到達できるように学生は自身の学修プランを教員と共同で計画する
授業内のICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用
評価方法	・ゼミグループ活動の取り組み状況：10% ・知識到達度度確認試験：90%
課題に対するフィードバック	・各時期の獲得点数から現在の学修状況と今後の学修プランを確認し，プランの妥当性やプランの実行可能性についてフィードバックを行う。
指定図書	『国試の達人　運動解剖生理学編』IPEC、 『国試の達人　臨床医学編』IPEC 『国試の達人　理学療法編』IPEC
参考図書	
事前・事後学修	計画的にグループ学習を進めてください。これまで学んだ内容の復習とともに，自分で考え，問題を解決していく力の知識を，確認しながら深めていきます。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509教室，毎週水曜日16時～18時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スポーツ理学療法学
科目責任者	根地嶋　誠
単位数他	１単位（15時間）　理学選択　８セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	DP2リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、スポーツを実践している対象者に、スポーツ復帰から予防を含めた適切な理学療法が提供できるようになるために、スポーツ領域における理学療法士の役割や、必要な知識および技術について理解することを目的とする。スポーツ現場および選手に対する理学療法士の姿勢、スポーツによる外傷の特徴、スポーツ外傷予防のための方法、スポーツ外傷の特性を踏まえたエクササイズなどの介入方法について学ぶことで、キャリアデザインに活かす。
到達目標	1. スポーツで生じる傷害の概要を説明できる 2. スポーツ現場で行われるメディカルチェックを説明できる 3. スポーツ現場で行われるトレーニングを説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：コースオリエンテーション　（根地嶋） スポーツ理学療法概論 第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック1　（ゲスト 齋藤和快） 上肢、体幹のメディカルチェック 第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック2　（ゲスト 齋藤和快） 下肢のメディカルチェック 第4回：アスレティックリハビリテーション1　（ゲスト 松本武士） 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション（1） 第5回：アスレティックリハビリテーション2　（ゲスト 松本武士） 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション（2） 第6回：アスレティックリハビリテーション3　（根地嶋） 下肢のアスレティックリハビリテーション（1） 第7回：アスレティックリハビリテーション4　（根地嶋） 下肢のアスレティックリハビリテーション（2） 第8回：スポーツ傷害の病態1　（根地嶋） スポーツで生じる傷害の知識の整理

アクティブラーニング	プレゼンテーション（グループ学習）
授業内のICT活用	webclassを活用し，プレゼンテーションおよびレポートを共有する。
評価方法	小テスト40%、レポート30%、課題学習（プレゼンテーション）30% ※レポートと課題学修はルーブリックにより評価する
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションおよび小テストのフィードバック
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	上肢、体幹、下肢それぞれの解剖学、運動学の知識が必要であるため、各回の前に40分程度学修しておく。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法見学実習
科目責任者	金原　一宏
単位数他	１単位（45時間）　理学必修　１セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目では、臨床現場の見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割について学ぶ。また、見学から社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病や対象の症状を理解し、多職種の連携を体験する。
到達目標	見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割を理解する。また、社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病を罹患する対象の症状を理解して、今後の講義へ意欲を高める。
授業計画	＜担当教員名＞ 金原一宏、俵祐一、田中真希、高橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ ・実習は見学を重視し、複数の学生に対してスーパーバイザーから説明を受ける ・見学実習期間は1週間で、春セメ8月下旬に実施する ・各施設と治療現場を見学し、説明を受ける ・この実習では、1週間に2施設を見学する 実習配置については、後日、連絡をする 実習スケジュール（予定：各実習施設担当者との調整により決定する） 実習前オリエンテーション（定期試験終了後） 実習1日目午後：病院施設を見学、2日目午後：治療の見学をする 3日目午後: 福祉施設を見学、4日目午後：治療の見学をする 5日目午前:本実習のまとめ、5日目午後：報告会
アクティブラーニング	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝え、学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーション際、パソコンを使用して行います。

評価方法	実習状況50%、レポートの作成・提出30%、　報告会20%
課題に対するフィードバック	各担当教員より実習に進行や学修方法，目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝えます。課題について、グループで話し合ってください。欠席することの無いように体調管理をしてください。また、臨床の現場では、迅速に行動し、時間厳守を徹底してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域理学療法学の理論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	２単位（30時間）　理学必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	地域で生活する対象者(障害者・高齢者)に対する理学療法に関わる項目(関連制度・法規，対象疾患，生活環境，予防，地域包括ケア)について学修する．地域リハビリテーション・地域理学療法の概念，歴史，現状，課題を理解するとともに，理学療法士の役割や関連職種との連携・協働について学び，地域社会に求められる理学療法について考える．
到達目標	1.地域リハビリテーション・地域理学療法に関連する項目について理解し，説明できる 2.地域理学療法の実践現場や対象者の特徴を理解し，現状や課題について説明できる 3.地域社会に求められる理学療法・理学療法士を自身の将来像と重ね合わせて説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：コースオリエンテーション，学修の準備　矢倉千昭 第2回：学修の準備　矢倉千昭 ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・各課題を担当するグループを決定する。 第3回：地域リハの考え方、制度の変遷，介護保険の仕組み　矢倉千昭 第4回：地域包括ケアシステム，地域支援事業における理学療法士の役割　矢倉千昭 第5回：地域包括ケアシステムの実際　浅地嘉紀 第6回：介護老人保健施設，介護老人福祉施設における理学療法士の役割　矢倉千昭 第7回：訪問リハとデイケア，デイサービスにおける理学療法士の役割　矢倉千昭 第8回：介護保険サービスにおけるリハビリテーションの実際　柴本千晶 第9回：データから地域の課題を考えよう①　矢倉千昭 第10回：データから地域の課題を考えよう②　矢倉千昭 第11回：データから地域の課題を考えよう③　矢倉千昭 ※第9回～第11回の授業では、地域包括支援センター高丘、細江のデータから地域に潜在する問題や課題の分析結果と対策を両センターに提案する。 第12回：生活環境概論（生活環境改善の手法，福祉用具）　田中真希 主要な生活環境整備，福祉用具について説明できる 第13回：生活環境概論（生活環境改善の手法，福祉用具）　田中真希 事例検討：プレゼンテーション・ディスカッションにて意見交換できる 第14回：地域リハビリテーションの実際（予防事業，障害者スポーツ）　田中真希 予防事業・障害者スポーツについて説明できる 第15回：地域リハビリテーションの実際（予防事業，障害者スポーツ）　田中真希 事例検討：プレゼンテーション・ディスカッションにて意見交換できる

アクティブラーニング	・シラバスから学修内容を理解し，各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・提出したグループワークの資料はWebClassで共有する．学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。 ・地域包括支援センターのデータから地域の課題についてまとめ，包括支援センターに課題と解決法について提案する。
授業内のICT活用	・発表の途中で補足し，終了後に総括を行う。 ・WebClassのリアクションペーパーを確認し，メールまたは次の授業で回答する。
評価方法	知識確認試験40%，課題レポート40%，出席状況20%
課題に対するフィードバック	・発表の途中で補足し，終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し，メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（監）「地域リハビリテーション学テキスト」（南江堂）　改訂第3版
参考図書	重森健太（編）「地域理学療法学」（羊土社）
事前・事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い，授業で発表・質疑応答，教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ，ファイルに整理する。
オープンエデュケーションの活用	活用の予定なし。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日～金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域理学療法学の実践
科目責任者	田中　真希
単位数他	１単位（30時間）　理学必修　　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	地域で生活する理学療法の対象者(障害者・児，高齢者，若年者)の自立支援ための生活環境整備や社会参加，介護予防，傷害予防について，障害者総合支援法や介護保険制度など多角的な視点から学修する。症例検討や事例検討を行いながら，人的・物的環境整備や医療・介護の連携(地域連携・地域包括ケアシステム)についての理解を深める。また，超高齢化社会の課題である地域の介護予防事業についても，施設の課題解決に主体的に関与し，実践的な内容を実施または提案することを目的とした授業である。
到達目標	1．生活環境整備の意義と実践する上で必要な知識・理論を理解し，対象者における住環境整備の具体的な方法を理解する 2．症例検討や事例検討を行いながら，人的・物的環境整備や医療・介護の連携についての実践例から具体的な方法を理解する 3．地域の施設の課題に対し，主体的に行動し，実践的な調査から解決策を立案・実施または提案できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1 回：オリエンテーション　田中真希・有薗信一・吉本好延・根地嶋誠 地域貢献活動および活動施設の紹介・活動施設配置 グループワークの実施方法の説明と住環境整備の実践課題設定 課題抽出と解決策立案と提案の方法(プレゼンテーション)・計画書/報告書の書き方 第 2・3 回：要介護者の住環境整備－1・2　田中真希 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム）入所者の生活把握と課題抽出 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム）入所者の課題解決策の立案地域における 第 4・5 回：要介護者の住環境整備－3・4　田中真希 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム）入所者の課題解決策の提案 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム）入所者の課題解決策の効果判定と修正 第 6 回：地域における理学療法士の役割と実際　田中・有薗・吉本・根地嶋 患者及び障害児者，高齢者の地域における生活支援に必要な知識を学ぶ 介護予防事業利用者や部活動参加者の状況把握・課題抽出，解決策の計画立案など 第 7 回：地域における活動実践－1　田中・有薗・吉本・根地嶋 各活施設での活動実践にて課題解決能力を培う 第 8 回：地域における活動実践－2　田中・有薗・吉本・根地嶋 各活施設での活動実践にて課題解決能力を培う 第 9 回：地域における活動実践－3　田中・有薗・吉本・根地嶋 各活施設での活動実践にて課題解決能力を培う 第 10 回：地域における理学療法士の役割と実際－3　田中・有薗・吉本・根地嶋 活動内容の評価と振り返り，活動計画の修正など中間報告会 第 12 回：地域における活動実践－4　田中・有薗・吉本・根地嶋 各施設での活動実践にて課題解決能力を培う 第 13 回：地域における活動実践－5　田中・有薗・吉本・根地嶋 各配置施設での活動実践にて課題解決能力を培う

	第 14・15 回：地域における理学療法士の役割と実際－3　田中・有薗・吉本・根地嶋 活動結果のまとめ・データ分析・修正課題の抽出・解決策の立案 報告書作成・活動報告会・総括 各回で担当グループを決め，学内と地域の介護老人福祉施設や老人福祉センターなど地域の施設(学外)にて授業を行う。 フィールドワークを実施するため，動きやすい服装(ポロシャツなど)で出席してください。
アクティブラーニング	地域理学療法学の理論で学んだことを活かし，主体的に学ぶ。 住環境整備：グループワークで検討する症例(事例)を検索・収集・見学し，課題を抽出する 介護予防事業：授業内で立案・検討した内容(インタビュー・体力測定・運動プログラムなど)を対象者(施設利用者)や施設職員に提案(できれば実施)する，実践形態とする。具体的には，PC を用いて検索・資料作成，プレゼンテーション，動画プログラムの作成，などを実践する。
授業内のICT活用	WebClassを用いて活動報告やルーブリックを用いた自己・相互評価する。 地域施設の課題と解決策を説明できるようにPCを用いてプレゼンテーションの資料作成や練習をする。 事後学修として，各自の活動内容およびフィードバックを受けた内容はPCを用いて活動報告書にまとめて提出する。
評価方法	活動計画書30%，活動報告書30%，プレゼンテーション40%　計100% ルーブリックを用いて自己・相互評価する（その評価基準や項目は授業中に提示する）。
課題に対するフィードバック	立案した内容を学生および担当教員間で検討し，フィードバックし合う。 対象者(施設利用者)や施設職員に実施または提案する際に，教員が監督者として立会い，終了後にフィードバックする。
指定図書	※地域理学療法学の理論指定図書
参考図書	重森健太編集，「PT・OTビジュアルテキスト地域リハビリテーション学　第2版」　羊土社 参考図書や文献は授業内で紹介する。
事前・事後学修	原則40分を目安に学修する。 事前学修として，各自で文献検索を行い，症例検討や事例検討を行いながら，地域施設などで課題となり得ることをまとめ，活動計画書を作成する。また地域施設の課題と解決策を説明できるようにPCを用いてプレゼンテーションの資料作成や練習をする。 事後学修として，各自の活動内容およびフィードバックを受けた内容はPCを用いて活動報告書にまとめて提出する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法検査測定実習
科目責任者	髙橋　大生
単位数他	１単位（45時間）　理学必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	DP（5）獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目では、理学療法診断技術学、理学療法演習Ｉにて学んだ理学療法評価の基本技術を、実際に病院施設において、実際の対象者に対し実践する。つまり、臨床現場において検査測定を体験することで、学内授業との統合を図り、臨床能力を向上させる。
到達目標	理学療法の対象に、基本的な検査測定（ROMT、MMT、感覚検査、深部腱反射検査、病的反射など）を、指導監視のもと実施できる。
授業計画	＜担当教員名＞ 髙橋大生、有薗信一、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、俵　祐一、田中真希、矢部広樹 （すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 以下の内容をふまえ実習を実施する。 情意（態度） 1）礼儀正しい挨拶をする 2）丁寧な言葉遣い、適切な敬語を使う 3）対象者に合わせた目線、姿勢をとる 4）対象者へ自ら話しかけ会話をする 認知（知識） 1）実施内容の説明と同意の方法を理解する 2）検査測定のオリエンテーションを理解する 3）検査測定の方法を理解する 運動技能（技術） 1）実施内容を説明し同意を得る 2）検査測定のオリエンテーションを行う 3）検査測定を正確に実施し、信頼性の向上につとめる
アクティブラーニング	・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2：1実習による学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	なし

評価方法	課題提出物（デイリーノート、実施記録、レポート）50%、口頭試問50%
課題に対するフィードバック	課題提出物と、口頭試問のフィードバックは、口頭試問実施後に担当教員から行います。
指定図書	臨床実習の手引き（実習前に必ず確認をして下さい）
参考図書	なし
事前・事後学修	原則1日あたり1時間を目安に事前・事後学修を行う。 事前学修として、代表的な疾患の理学療法評価を整理して下さい。 事後学修として、実習指導者、担当教員からの指導をまとめ、ファイル等に一元管理してください。必ず振り返りを行って下さい。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間については，初回授業時に提示します.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法生活支援実習
科目責任者	矢部広樹
単位数他	1単位（45時間）　理学必修　　4セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し，それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる.
科目概要	臨床場面において理学療法の対象者に行う日常生活動作(寝返り，起き上がり，立ち座りおよび移乗、歩行、その他ADL動作全般)の介助技術を実習指導者の指導監視のもと，模倣することである．動作分析学，日常生活活動学，基礎理学療法学，神経系理学療法学，運動器系理学療法学，内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床現場で学んだ内容との統合を図る.
到達目標	理学療法の対象者に対して，日常生活動作(寝返り，起き上がり，立ち座りおよび移乗、歩行、その他ADL動作全般)の介助を，実習指導者の指導監視のもと模倣できる.
授業計画	＜担当教員＞ 矢部広樹，矢倉千昭，有薗信一，吉本好延，根地嶋誠，金原一宏，俵祐一，田中真希，高橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 5日間の実習で、下記の内容を実施する ①情報収集および起居移乗動作の介助技術の習得 必要となる情報収集と適切な起居移乗動作を選択できる. また，起居移乗動作の介助を実施するにあたって，その方法の利点や欠点を理解し，介助技術の向上に努める. ②リスク管理 起居移乗動作の介助を実施するにあたって，対象者のリスクを把握し，適切なリスク管理を行うことができる. また，動作を観察・分析し，介助が必要となる要因を挙げられる. ③対象者への説明 実施する起居移乗動作に関して，対象者へ適切に説明できる.
アクティブラーニング	実習科目 クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態
授業内のICT 活用	「なし」
評価方法	課題提出物(デイリーノート，実施記録，実習報告書)60%，口頭試問40% 口頭試問は、ルーブリックを用いて評価する。

課題に対するフィードバック	実習は診療参加型実習（クリニカルクラークシップ）および2：1の形態を基本とし，実習指導 者からその場でフィードバックを受ける． また，学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで，理解を深める． 口頭試問では，担当教員が実施後にフィードバックする．
指定図書	臨床理学療法実習ガイドブック
参考図書	「なし」
事前・事後学修	原則一日あたり1時間を目安に学修する 事前学修として，臨床理学療法実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください． 事後学修として，実習指導者や担当教員から指導を受けたことをデイリーノートにまとめ，次の実習までに復習しておいてください．
オープンエデュケーションの活用	「なし」
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間については，事前説明時に提示します． 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法評価実習Ⅰ
科目責任者	吉本　好延
単位数他	2単位（90時間）　　理学必修　　5セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	本科目では、学外実習において、対象患者に理学療法に必要な情報収集、検査・測定を計画し、学外実習で得た情報を統合して問題点の抽出を行うことで、患者の障害の状態を的確に把握する。
到達目標	理学療法の対象に対する理学療法評価において、一部の検査測定および臨床推論を指導者監視の下、見学・模倣できる。
授業計画	＜担当教員名＞ 吉本好延、有薗信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵　祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ ①情報収集および検査・測定技術の習得 必要となる情報収集と適切な検査・測定項目を選択できる。また検査・測定の実施にあたってその意義と方法を理解し、客観的で信頼性のある検査・測定技術の向上に努める。 ②リスク管理 実習の遂行にあたって、患者（施設利用者）のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。また、二次性障害（廃用症候群）の可能性と要因を挙げられる。 ③患者（施設利用者）への説明 実施する検査・測定に関して、患者（施設利用者）に対して適切に説明できる。 ④問題点の抽出 2001年にWHOにより提唱された国際生活機能分類（ICF；心身機能・身体構造、活動、参加）に基づき、問題点の抽出を行う。さらに、問題点相互の関連性を説明できる。 ⑤担当症例の空間概念図の作成 空間概念図を作成し、その発表ができる。 毎週水曜日(毎週1日×10回)　10週間に渡って実習を行う。
アクティブラーニング	・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2：1実習による学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用
評価方法	課題提出物：30%　実技試験：30%　知識確認試験：30%　授業態度：10%
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う

指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション－エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社　監修　藤島一郎、他 『PT・OTのための臨床技能とOSCE　機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社　監修　才藤栄一
参考図書	なし
事前・事後学修	・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので，課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509教室，毎週水曜日16時～18時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法評価実習Ⅱ
科目責任者	田中　真希
単位数他	４単位（180時間）　理学必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	臨床理学療法評価実習Ⅰで学んだ理学療法の治療（基礎理論と治療技術）を踏まえ，臨床推論に基づく臨床実践を実施する。理学療法の対象に，理学療法評価（検査測定結果から統合と解釈を行い，適切な問題点の抽出およびゴール設定）を実習指導者のもと模倣・実施する。
到達目標	1．情　　意：医療人としての態度を学ぶ 2．認　　知：検査測定結果などの情報を分析し，ICFに基づき問題点を抽出する 患者の背景や取り巻く環境，評価結果などを考慮し，目標を設定する 3．運動技能：検査測定のオリエンテーションを行う 検査測定を正確に実施し，信頼性の向上に努める 担当症例の空間概念図をもとに，実習指導者とディスカッションする
授業計画	＜担当教員名＞ 田中真希，有薗信一，矢倉千昭，吉本好延，根地嶋誠，金原一宏，俵　祐一，矢部広樹 髙橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 評価実習（理学療法評価の技術と臨床推論を学ぶ） 指導者とともに診療に参加（同行）するクリニカルクラークシップを基本とする 2人の学生に対し，1人の指導者が指導する，2：1モデルの形態とする 診療の一部として指導監視のもと，理学療法評価を行い，統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を行う 実施する内容は，理学療法（評価）を実施している場面を見学させる，一部の検査測定を模倣・実施させる，一部の臨床推論を説明する 技術習得過程は，説明および実際の方法を見学・指導され理学療法評価の一部を実施する 学生同士で練習をする オリエンテーションは，主に実習指導者が行い，学生が一部を模倣する 実習でのリスク管理は実習指導者が行い，学生は見学の中でリスク管理を学ぶ 実習日誌に体験したこと，技術的な覚え書きなどを記録する チェックリストに何をどれだけ行ったかを記録する 課題提出物 （1）出欠表・到達度チェック表 （2）実習日誌（デイリーノート） （3）チェックリスト （4）事故報告書（事故が起こった場合） （5）臨床理学療法評価実習Ⅱ報告書（空間概念図）

	学内課題 （1）報告会 （2）口頭試問
アクティブラーニング	実習科目 クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態
授業内のICT活用	PCを用いて課題（空間概念図，資料，デイリーノート）に取り組む。
評価方法	課題提出物(デイリーノート，実習報告書など)50%，報告会25%，口頭試問25%　計100% 報告会・口頭試問はルーブリックを用いて評価し，その評価基準や項目は授業で提示する。
課題に対するフィードバック	現場では診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)および2：1の形態を基本とし，実習指導者からその場でフィードバックを受ける。 また，学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで，理解を深める。 症例報告会・口頭試問では，担当教員が報告内容に対して質問し，フィードバックする。
指定図書	神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・ 日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書
参考図書	実習中に作成した空間概念図，資料，デイリーノートなど
事前・事後学修	原則40分を目安に学修する。 事前事後学修を事前学修として，実習中から担当症例の統合と解釈について考察をまとめる。 事後学修として，フィードバックを受けた内容についてまとめて復習する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法総合実習技能評価
科目責任者	吉本　好延
単位数他	1単位(45時間)　　理学必修　6セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	(5)専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	理学療法の主対象となる中枢神経疾患，運動器系疾患の臨床事例をベースとしたシナリオに基づき，理学療法における臨床推論を実践的に学習し，リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得する。
到達目標	1.対象疾患や病態，理学療法評価を実施するうえで必要な知識を収集し，情報収集，検査測定を計画，そこで得た情報を統合して問題点抽出および目標設定する 2. 対象者の疾患や病態，理学療法治療を実施するうえで必要な知識を収集し，理学療法評価をもとに理学療法プログラムを立案し、実践することができる
授業計画	＜担当教員＞吉本好延、有薗信一、矢倉千昭、根地嶋誠、金原一宏、俵　祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回　：コースオリエンテーション　臨床推論の概要と実際　吉本好延 第2回　：中枢神経疾患患者に対する理学療法治療の立案（1）吉本好延 第3回　：中枢神経疾患患者に対する理学療法治療の実技（1）吉本好延 第4回　：中枢神経疾患患者に対する理学療法治療の立案（2）矢倉千昭 第5回　：中枢神経疾患患者に対する理学療法治療の実技（2）矢倉千昭 第6回　：運動器系疾患患者に対する理学療法治療の立案（1）高橋大生 第10回　：運動器系疾患患者に対する理学療法治療の実技（1）高橋大生 第11回　：運動器系疾患患者に対する理学療法治療の立案（2）根地嶋誠 第12回　：運動器系疾患患者に対する理学療法治療の立案（2）根地嶋誠W 第13回　：外部OSCE 第14回　：外部OSCE 第15回　：外部OSCE
アクティブラーニング	・各セッションの課題をグループワークで解決する ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す ・OSCEの判定は客観的な手順で行われていることが理解できるよう，試験前に学生に判定項目を開示し，判定項目が達成できるようOSCE前の事前学習を行うよう促す
授業内のICT活用	Webclassを用いた視聴覚教材の利用・e-ポートフォリオの活用

評価方法	課題提出物：30%　実技試験：60%　授業態度：10%
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション－エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社　監修　藤島一郎、他 『PT・OTのための臨床技能とOSCE　機能障害・能力低下への介入編』金原出版株式会社　監修　才藤栄一
参考図書	なし
事前・事後学修	・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので，課題をさらに調べることで事後学修する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	3509教室，毎週水曜日16時～18時
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法総合実習Ⅰ
科目責任者	金原一宏
単位数他	６単位（270時間）　理学必修　７セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラムを立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	＜担当教員名＞ 金原一宏、有薗信一、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、田中真希、矢部広樹、高橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。 ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。（解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する） ③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。 ④チェックリスト（何をどれだけおこなったか）を作成する。 ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。
アクティブラーニング	学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	なし

評価方法	1)実習状況50% 2)実習後プレゼンテーション（臨床理学療法実習Ｖ報告書（空間概念図））30% 3)口頭試問20%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法，目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床理学療法総合実習Ⅱ
科目責任者	俵祐一
単位数他	６単位（270時間）　理学必修　７セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	＜担当教員名＞ 俵祐一，有薗信一，矢倉千昭，吉本好延，根地嶋誠，金原一宏，田中真希，矢部広樹，高橋大生（すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。 ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。（解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する） ③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。 ④チェックリスト（何をどれだけ行ったか）を作成する。 ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。
アクティブラーニング	・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・1：1実習による学生間で課題解決を図る
授業内のICT活用	なし

評価方法	1)実習状況 2)実習後プレゼンテーション（臨床理学療法総合実習Ⅱ報告書（空間概念図）） 3)口頭試問
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法，目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3507研究室です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	高橋　大生
単位数他	２単位（90時間）　理学選択　　６・８セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	DP（7）保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	異なる文化に触れ、生活習慣の異なる地域を訪れるだけでなく、リハビリテーション機関及び専門施設において、本学教員（引率教員）の指導によるクリニカルクラークシップ（CCS）での実習を行い、当該地域における理学療法技術を体験し、学修することを目的とする。合わせて、異なる文化圏の医療について理解を深める。
到達目標	１．当地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 ２．当地の医療機関とリハビリテーション関連施設において実習を行い、実際に技術を体験し、日本との理学療法との違いについて理解する。 ３．異なる文化圏の医療について理解を深める。
授業計画	＜担当教員名＞高橋大生　有薗信一　金原一宏 ＜授業内容・テーマ等＞ １．事前研修　（計10コマ） 研修する国の言語、当該地域の文化、歴史について学ぶ。 また、当該地域の保健医療福祉制度、理学療法の歴史と現状について事前に学修する。 前半と後半の事前研修で計2回、グローバルセンターからの説明があります。 （中国理学療法実習の場合） 第1・2回目（高橋大生　有薗信一　金原一宏） ・医療現場で使用する英単語を学ぶ。 ・英語で（自分の言葉で）日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明できる。 第3回目（高橋大生　有薗信一　金原一宏） ・中国の文化、医療、日本との違いについて学修する。 ・上記について英語でプレゼンテーションを行う。 第4・5回目（高橋大生　有薗信一　金原一宏） ・評価実習で担当した症例の理学療法思考過程を英語（中国語）で説明する。 ・評価実習の1場面（1つの検査や1つの動作介助）について英語でOSCEを行う。 第6・7回目（高橋大生　有薗信一　金原一宏） ・疼痛障害、熱傷障害について学修する。 ・本学の特色（大学、授業、トピックス）について英語でプレゼンテーションを行う。 第8・9回目（高橋大生　有薗信一　金原一宏） ・英語による学内のキャンパスツアー（ホスト役・研修生役）。 ・実習中に使用する質問集の英語ディスカッション。 第10回目（高橋大生　有薗信一　金原一宏） ・プレゼンテーション資料の最終確認 ２．異文化圏における医療機関・施設にてクリニカルクラークシップでの実習 現地の医療機関で本学教員の指導のもと実施する（5日間）（引率教員）

	３．異文化圏における医療機関・施設における体験実習（4日間）（引率教員） ４．課題レポート（海外体験実習報告書）の作成・実習で学んだことの内省（2コマ） 報告会を実施する（2コマ）（高橋大生　有薗信一　金原一宏） 実習協力施設：中国　重慶　陸軍軍医大学　西南病院 中国　広州　中山大学附属第一病院　広東省労災リハビリテーション病院 事後研修　１．グループワーク　研修で学んだことについてディスカッション ２．報告会
アクティブラーニング	事前研修を通して、渡航先の文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集する。また、事前学習で集めた情報から、問題点を導き、解決策についてディスカッションを行う。諸外国の言語を用いた講義、プレゼンテーション、OSCE、ワークを行い、実習地での積極的なコミュニケーション能力の基盤を形成する。また、柔軟性、積極性、行動力などグローバル人材に必要な人間力を養う。
授業内のICT活用	プレゼンテーションをプロジェクター使用により実施する。英語でのOSCEなど動画で撮影し、フィードバックを行う。
評価方法	事前研修：20% 実習中の態度、姿勢、プレゼンテーション：50% 課題提出物（レポート、報告会）：30% ①事前学修の内容（20%） ・英語でのプレゼンテーション ・英語での質疑応答 ・疼痛、熱傷に関する知識確認課題 ・英語でのOSCE 成績は上記の内容について総合的に判定を行う
課題に対するフィードバック	フィートバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。
指定図書	指定図書なし 臨床実習ハンドブック、事前学習時の配布資料使用、eポートフォリオ
参考図書	なし
事前・事後学修	英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日30分英会話学習を行うことを勧める。 又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学修を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512研究室 時間等：事前研修の際に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発展的理学療法学
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	１単位（15時間）　理学選択　８セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	この授業では、理学療法学の発展に寄与したい、大学院に進学したいと考えている学生を対象に、これからの理学療法分野におけるトレンド、トピックスを学び、新しい時代に活躍できる理学療法士に必要な思考力を学ぶ。
到達目標	1.理学療法をさらに発展させるための専門職者とは何かを考え、述べることができる 2.大学院で学ぶために必要な基本的な知識、技術、思考力を身につける 3.理学療法士として、将来を展望した生涯学習への関心を深め自己研鑽することができる
授業計画	※本授業の担当者は、大学院を兼務する教員とする。 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：理学療法士の活躍が期待される分野とは　矢倉千昭 第２回：就労者の健康を支え、職業病から守る理学療法とは　石川　響 第３回：地域在住の障害者を支える総合リハビリテーションとは　中村和美 第４回：地域包括ケアシステムで活躍できる理学療法士とは　山下裕太郎 第５回・第６回：Society5.0時代に活躍できる理学療法士とは①　日高正巳 第７回・第８回：Society5.0時代に活躍できる理学療法士とは②　沖田善光
アクティブラーニング	・教員研究活動について概要を説明し，授業前に調べる. ・受講した内容をリアクションペーパーに記載，提出する.
授業内のICT活用	WebClassを用いて授業資料を提示し、インターネットで情報を収集する必要があるため、ノートパソコンを使用する。

評価方法	課題レポート60%、出席状況40%
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパーに記載された質問にはメールなどで回答する.
指定図書	なし（WebClassに授業資料を提示）
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業テーマについて、調べ考えて授業に出席する。
オープンエデュケーションの活用	活用の予定なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動学演習（OT）
科目責任者	中島　ともみ
単位数他	１単位数（30時間数）　作業必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	作業の形態的、機能的側面の分析方法について学習する。作業分析・動作分析を行うため、運動学的基礎知識を整理する。
到達目標	①作業療法を実施するにあたり必要な解剖学的構造を、体表面から触知できる。 ②触知した筋骨格の解剖学的・運動学的特徴について述べる事ができる。 ③基本動作（寝返り起き上がり）を分析し、記述できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：関節運動とは　中島ともみ 第 2回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第 3回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第 4回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第 5回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第 6回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第7回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第8回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第9回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第10回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第11回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第12回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第13回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第14回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ 第15回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学　中島ともみ

	＃触診・視診、記録が主となります。体表面が触知できる、運動が観察しやすい服装をして参加してください。
アクティブラーニング	筋の起始停止とその機能を、人体骸骨模型を用いて３Dで理解し、人体の体表から触診と観察が可能となる知識を学習する。グループワークにて、筋の走行を確認し、機能の推論と確認を行う。
授業内のICT活用	資料をWebClassにて配布します.
評価方法	レポート50%　　定期試験50% ポートフォリオの評価の視点＞要点をまとめ、箇条書きにする。色ペンなど用い、重要事項が一目でわかるようにまとめてある。講義内容が反映されている。インデックスが貼られ、目次が作成されている。参考文献が適切に用いられている。 レポート＞臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	中村隆一　他　「基礎運動学」医歯薬出版 青木隆明監修「運動療法のための機能解剖学的触診技術」上肢(メジカルビュー社) 青木隆明監修「運動療法のための機能解剖学的触診技術」下肢・体幹(メジカルビュー社) 新・徒手筋力検査法　第8版　協同医書出版
参考図書	Muscle Premium（ビジブル・ボディ製作　Windows PC, MacPC,iPad,Androidで動作可能な筋肉の３Dモデルソフトです. ）
事前・事後学修	40分：事前にPCソフト・携帯アプリ、人体骸骨模型で筋肉の走行、筋の起始停止を確認すること。 40分：事後に筋の機能と臨床への応用について、ポートフォリオを作成のこと。
オープンエデュケーションの活用	Visible Body筋肉プレミアム（アプリ）の購入を強く推奨します
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tomomi-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学系医療学Ⅱ
科目責任者	飯田　妙子
単位数他	１単位（15時間）　作業必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	外因性精神障害、パーソナリティ障害、摂食障害、発達障害等の精神障害の概念と症状の特徴、経過、治療法を学び，またそれらの障害に対する地域生活支援（通院、訪問、デイケア、就労等）の基本的な考え方や最新の支援法について知識を深める。精神障害の地域生活支援に関連する法制度について学ぶ。
到達目標	①各精神障害の概念、症状、経過およびその治療法についてのポイントを述べることができる。 ②精神障害者に対する地域生活支援について、概要や最新の支援法のポイントを述べることができる。 ③精神障害者の地域生活支援に関連する法制度について概要を述べることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：オリエンテーション、地域での支援について　飯田　妙子 第2回：気分障害　藤田さより 第3回：神経症性障害　藤田さより 第4回：外因性精神障害（依存症）　新宮　尚人 第5回：パーソナリティー障害　新宮　尚人 第6回：大人の発達障害　飯田　妙子 第7回：てんかん　飯田　妙子 第8回：摂食障害、まとめ　飯田　妙子 ※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。
アクティブラーニング	内容を深めるために、グループ学修を行います。
授業内のICT活用	なし

評価方法	レポート30%　筆記試験70%
課題に対するフィードバック	筆記試験の回答例の掲示，レポートのフィードバックについては、WebClassにて返答、解説します。希望者には時間を調整して、フィードバックを行います。 なお、レポートの評価にはルーブリックは用いません。
指定図書	上野武治編：『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学』第4版．医学書院
参考図書	授業時に紹介します。
事前・事後学修	事前：各テーマに該当する教科書の箇所に目を通しておいてください。 事後：初回授業時に配布する精神医学に関する過去問題集の中から各テーマに該当する問題を解き、授業で示された内容を復習するようにしてください。（事前事後　40分程度） レポート課題については、初回授業時に説明します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（taeko-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法概論
科目責任者	伊藤　信寿
単位数他	１単位（30時間）　作業必修　　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	作業療法の基本的事項（作業療法の理論背景の概要、作業療法の対象と実践背景の概要など）を学習する。作業療法について主体的に学習する習慣と方法を身につける。
到達目標	(1) 作業療法の歴史、作業活動と健康、作業療法の対象など、作業療法の概要について説明できる。 (2) 作業療法の背景と内容の概要について説明できる。 (3) プレゼン用の資料を作成し、発表することができる。また質疑応答ができる。
授業計画	＜担当教員名＞伊藤信寿、泉　良太、鈴木達也、冨澤涼子、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション、PBL、作業について　伊藤信寿 第2回：作業療法とは（ミニ講義）　鈴木達也 第3回：自分の作業について（グループワーク）　全員 第4回：自分の作業について（グループワーク）　全員 第5回：自分の作業について（発表）　全員 第6回：作業療法とは（PBL）　全員 第7回：作業療法とは（PBL）　全員 第8回：作業療法とは（PBL）　全員 第9回：作業療法とは（PBL）　全員 第10回：作業療法とは（発表）　全員 第11回：保健制度の解説等について　泉　良太 第12回：技術講習（車いすの操作）　鈴木達也、全員 第13回：技術講習（車いすの操作）　鈴木達也、全員 第14回：技術講習（移動の介助、杖歩行など）　鈴木達也、全員 第15回：授業のまとめ　伊藤信寿 ※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。
アクティブラーニング	前半はグループワーク、問題基盤型学習（Problem Based Learning ：PBL)を中心に進めます。 後半では、技術講習を主体とした演習を行います。

授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	演習（30%）、レポート（30%）、発表（20%）、ポートフォリオ（20%） 演習、レポート、ポートフォリオ、発表はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	レポート返却、発表後に個別で面接を実施し、ルーブリックを用いてフィードバックを行います。
指定図書	(1) 二木　淑子／能登　真一編：作業療法学概論 第3版，医学書院，東京，2016. (2) 石川斉，古川宏編：図解作業療法技術ガイド―根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて．第3版，文光堂，東京，2003.
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所に目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容等を確認してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業科学と作業療法
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	１単位（30時間）　作業必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	作業療法は作業を通して人々の健康を促進します。本科目では、その作業療法の基礎学問である作業科学を理解し、作業療法士としてどのように人々の健康を促進するかを学びます。さらに、作業療法場面の治療、援助の指針になる作業療法の理論を学びます。
到達目標	作業的存在としての人間の理解を深める 作業の視点を通した人間の健康を理解する 作業療法の理論と実践を知り専門性を理解する
授業計画	＜科目担当教員＞鈴木達也・冨澤涼子・飯田妙子・伊藤信寿・泉良太・藤田さより ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　：作業科学とは（WHO、WFOT）　鈴木達也 第2回　：健康と作業　鈴木達也 第3回　：健康と作業　鈴木達也 第4回　：作業的校正、作業的存在　鈴木達也 第5回　：作業療法と作業科学の歴史　鈴木達也 第6回　：作業療法と作業科学の歴史　鈴木達也 第7回　：作業と遂行文脈　鈴木達也 第8回　：作業と遂行文脈　鈴木達也 第9回　：作業的公正　鈴木達也 第10回：作業療法の理論と実践　鈴木達也 第11回：実践報告（精神科、就労支援、発達）　鈴木達也、伊藤信寿、飯田妙子、藤田さより 第12回：作業療法の理論と実践報告（身体、老年期）　冨澤涼子、泉亮太、藤田さより

	第13回：作業科学と作業療法の実践　特別講師 第14回：海外の作業療法実践　鈴木達也 第15回：学びの発表　鈴木達也
アクティブラーニング	本科目では、グループ学習、PBL、プレゼンテーション
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います
評価方法	筆記試験60%、レポート20%、ポートフォリオ20%、計100% ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメントと返却
指定図書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう第2版、医歯薬出版、2017
参考図書	佐藤剛ら訳：作業科学、三輪書店 矢谷令子：作業療法学概論、医学書院
事前・事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 講義中に事前課題および事後課題について提示する.
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	研究法入門
科目責任者	冨澤　涼子
単位数他	１単位(30時間)　作業必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	作業療法が医療専門職として存在し続けるには、他の療法との違いがどこにあり、社会の中でどのように機能し、どのような効果があるのかを明確に示さなければならない。その手段の１つが研究である。この科目では、早期に研究の基礎となる枠組みに触れ、研究の意義と面白さを実感し、4年間の学びの中に研究的視点を包含できることを目指す。
到達目標	1.研究の定義と研究の意義について説明できる 2.研究の分類（量的・質的など）と具体的進め方について説明できる 3.研究に伴う倫理的配慮とデータの管理の重要性について説明できる 4.自分の興味に基づくテーマを研究疑問の形で表現できる
授業計画	＜担当教員名＞冨澤涼子、泉良太、伊藤信寿、中島ともみ、新宮尚人 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：オリエンテーション、研究とは、作業療法研究の位置付け等　冨澤涼子 研究とは何か、作業療法実践における研究の位置付けについて説明する。 第2回：研究疑問と研究の様式（量的・質的）、研究の流れなど　泉良太 研究疑問の作り方、研究方法、研究の流れについて説明する。 第3回：文献検索の仕方、図書館の利用：図書館司書による説明　泉良太 研究を行うにあたり必要な、文献検索、図書館の利用方法について説明する。 第4回：研究計画書の作成と実施　泉良太 研究計画書の作成と実施の方法について説明する。 第5～6回：質的研究法について　冨澤涼子 質的研究の魅力、哲学、質の評価、データ収集方法について説明し、KJ法を用い、グループで質的研究を行うことも体験する。 第7～8回：研究の倫理と管理　冨澤涼子 研究倫理とは何か、なぜ必要か、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、個人情報の保護、研究成果を発表する際の留意点について説明する。 第9～11回：研究テーマの検討（PBL）　冨澤涼子、泉良太 第１～8回までの講義内容を踏まえ、グループで研究計画書を作成する。 第12～13回：興味あるテーマ発表(グループずつ)　冨澤涼子、泉良太 各人が作成した研究計画書について発表する。 第14～15回：作業療法研究の動向、研究の実際①、研究の実際②、研究の実際③ 冨澤涼子、伊藤信寿、泉良太、中島ともみ、新宮尚人 本科目のまとめとして、作業療法研究の動向、作業療法学科教員の研究の実際について紹介する。

	※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。
アクティブラーニング	研究テーマをPBLで検討していきます。研究テーマを考えることは研究の面白さ、難しさを知る機会になると思います。主体的・積極的に参加をし、研究視点を持つことの基礎を習得してください。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験（40%）、テーマ発表（40%）、ポートフォリオ内容（20%） ・ポートフォリオ内容は、ルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	研究テーマに関するPBLでは、研究目的、方法、倫理的配慮等に関するフィードバックを随時行いながら進めていきます。
指定図書	竹田徳則・大浦智子編集：作業療法研究法．医歯薬出版，東京，2017.
参考図書	山田孝編集：作業療法研究法．医学書院，東京， 2012. 友利幸之助他著：作業で創るエビデンス－作業療法士のための研究法の学びかた．医学書院，東京，2019
事前・事後学修	事前学修時間20分以上、事後学修時間20分以上 事前学習：授業は学びのきっかけであることを意識しその準備をすることと捉える。具体的には指定図書の該当する章に予め目を通しポイントを把握しておく。 事後学習：テキストや配布資料のポイントの再確認をし、いつでもその情報に辿り着ける工夫をする。具体的にはキーワードへのアンダーラインやマーキング、付箋の添付などをお勧めする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法評価学総論
科目責任者	泉　良太
単位数他	１単位（15時間）　作業必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、評価の理念について学習する。これは、以後の学習を進める上での基礎になる部分である。そして、医療・保健・福祉分野における包括的評価であるICF（国際障害分類：International Classification of Functioning,Disability and Health）について、障害の捉え方、使用法、適用について学ぶ。
到達目標	「作業療法における評価の基礎を学ぶ」ことをテーマに 1.作業療法評価の基本概念について理解を深めること 2.包括的評価であるICFについて、障害の捉え方、使用法、適用について知識を得ることを目標とする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　泉　良太 第 1回：評価とは何か 評価とは何かについて説明する。 第 2回： 作業療法プロセスにおける評価の位置づけ 作業療法の実践プロセスのなかで評価はどこに位置づくかについて説明する。 第 3～4回：ICF概念に基づいた包括的評価（ICFにおける障害の捉え方） ICFとは何か、ICIDHの問題点とICFの利点、ICFの障害の捉え方について説明する。 第 5～6回：ICF概念に基づいた包括的評価（ICFの使用法） ICFを用いてどのように包括的評価を行うかについて説明する。 第7～8回：ICF概念に基づいた包括的評価（ICFの適用） 臨床実習を経験した先輩より、実習でICFをどのように用い、包括的評価を行ったか話しをしてもらう。
アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。

評価方法	定期試験60%、レポート15%、小テスト25%
課題に対するフィードバック	小テスト、ポートフォリオ提出によって、一人ひとりの学習状況を確認し、必要な学修について、適宜、アドバイスを行っていきます。
指定図書	能登真一：作業療法評価学 第3版、医学書院、2017 上田敏：ICFの理解と活用、萌文社、2005
参考図書	授業中に随時提示します。
事前・事後学修	事前学修時間20分以上、事後学修時間20分以上 各回の講義の該当部分の教科書、参考書を事前に読んでおくこと。各回の終わりに講義した内容について小テストを行います。小テストは間違えた箇所をしっかりと復習し、正しい回答が書かれたものの再提出を求めます。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法評価学演習
科目責任者	藤田　さより
単位数他	２単位(60時間) 作業必修 ３セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	作業療法の基礎となる、「対象者との良好なコミュニケーション」、「観察評価」、「記録」について施設実習を通じて学び、それらの基礎力を身につける。また作業療法で用いる主要な評価法について理解し、実践する。さらに作業療法の評価から実施までの流れを理解する。
到達目標	①対象者の行動や表情、動きなどの「観察のポイント」を述べることができる。 ②対象者の行動や表情、動きなどを観察し、レポートに書くことができる。 ③情報収集・観察から得た情報から、考察を行い、レポートにまとめることができる。 ④作業療法にて用いる主要な評価の概要や流れを理解し、述べられる。 ⑤作業療法の対象領域について理解し、評価から作業療法実施までの流れを考え、述べられる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　オリエンテーション　藤田さより 第2回　評価の基礎（観察、記録、考察）・評価をするうえで重要な視点　藤田さより 第3回　COPMについて　藤田さより・飯田妙子 第4回　COPMの実践　藤田さより・飯田妙子 第5回　生活行為向上マネジメントについて　泉良太,藤田さより 第6回　生活行為向上マネジメントについて　泉良太,藤田さより 第7回　AMPSについて　鈴木達也・藤田さより 第8回　AMPSについて　鈴木達也・藤田さより 第9回　AMPSの実践　鈴木達也・藤田さより 第10回 AMPSの実践　鈴木達也・藤田さより 第11回 クライエント中心の作業療法の実践　鈴木達也・藤田さより 第12回 クライエント中心の作業療法の実践　鈴木達也・藤田さより 第13回　ICFについて　藤田さより 第14回　作業時の観察ポイント・姿勢・介助等　藤田さより 第15回　作業療法の実践　施設利用者との園芸活動　藤田さより・飯田妙子 第16回　作業療法の実践　施設利用者との園芸活動　藤田さより・飯田妙子 第17回　作業療法の実践　施設利用者との園芸活動　藤田さより・飯田妙子 第18回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第19回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第20回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第21回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第22回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第23回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第24回　アクティブラーニング　園芸を利用した作業療法の実践　藤田さより・飯田妙子 第25回　アクティブラーニング　報告　藤田さより・飯田妙子

	第26回　アクティブラーニング　報告　藤田さより・飯田妙子 第27回　PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）　藤田さより 第28回　PBL（事例から作業療法の流れ・評価を理解する）　藤田さより 第29回　まとめ　藤田さより 第30回　まとめ　藤田さより ＊達成度の確認には，ルーブリックを用いる．
アクティブラーニング	演習・実習科目です。ＰＢＬを行います。
授業内のICT活用	PCによる演習、プレゼンテーション、webclassの事前事後学習での活用
評価方法	小テスト20%　発表20%　レポート60%
課題に対するフィードバック	小テストは返却致します。レポートに関してはコメントを記入し返却致します。 フィードバックペーパーの内容に基づき次回授業時にコメントおよび講義等行います。
指定図書	吉川ひろみ　『作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド』　医学書院 齋藤佑樹編　『作業で語る事例報告』　医学書院
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	「観察力」には、解剖・運動学の知識が必要不可欠です。その為に前半（1～14回）運動学・解剖学の復習を行ってください。初回に事前学修のためのテキストをお渡しします（毎回40分）。 後半は（15～30回）は、COPM、AMPSの評価方法・評価項目について教科書を熟読し、演習に備えてください。また作業療法の各種理論についても資料を熟読してください（毎回40分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室　　時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	身体領域作業療法評価学
科目責任者	泉　良太
単位数他	２単位（60時間）　作業必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	講義、演習を通じて身体機能の評価方法を知り、身体機能の検査測定技術（関節可動域、筋力、筋緊張、感覚、脳神経、反射、姿勢反射、協調性、随意性、上肢機能検査等）および面接・観察技術を修得する。演習では実際の対象者に対して評価を行い、協力者からの指導を得る。演習後には評価結果から統合と解釈を実施し、対象者の生活との関連について理解する。
到達目標	1.身体障害領域における作業療法評価の目的、適応、禁忌事項について説明できる。 2.作業療法の評価計画を立案することができる。 3.学修した評価を正しく実施できる。 4.評価結果を統合解釈し、病態を的確に分析することができる。 5.評価結果から生活にどのような影響を及ぼすのかを説明する事ができる。
授業計画	＜科目担当教員＞ 泉良太、鈴木達也、中島ともみ、伊藤信寿、冨澤涼子、藤田さより、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　：オリエンテーション、意識の評価　泉　良太、鈴木達也 第2回　：バイタルサインの測定、形態計測　泉　良太、鈴木達也 第3回　：バイタルサインの測定、形態計測　泉　良太、鈴木達也 第4回　：関節可動域測定　泉　良太、鈴木達也 第5回　：関節可動域測定　泉　良太、鈴木達也 第6回　：関節可動域測定　泉　良太、鈴木達也 第7回　：筋力検査　泉　良太、鈴木達也 第8回　：筋力検査　泉　良太、鈴木達也 第9回　：筋力検査　泉　良太、鈴木達也 第10回　：筋力検査　泉　良太、鈴木達也 第11回　：筋緊張検査、随意性検査（BRS）　泉　良太、鈴木達也 第12回　：感覚知覚検査　泉　良太、鈴木達也 第13回　：感覚知覚検査　泉　良太、鈴木達也 第14回　：脳神経検査　泉　良太、鈴木達也 第15回　：脳神経検査　泉　良太、鈴木達也 第16回　：反射検査、姿勢反射検査　泉　良太、鈴木達也 第17回　：反射検査、姿勢反射検査　泉　良太、鈴木達也 第18回　：演習1　科目担当教員全員 第19回　：演習1　科目担当教員全員 第20回　：演習1　科目担当教員全員 第21回　：協調性検査　泉　良太、鈴木達也 第22回　：協調性検査　泉　良太、鈴木達也

	第23回　：上肢機能検査　泉　良太、鈴木達也 第24回　：上肢機能検査　泉　良太、鈴木達也 第25回　：事例検討（演習1について）　泉　良太、鈴木達也 第26回　：演習2　科目担当教員全員 第27回　：演習2　科目担当教員全員 第28回　：演習2　科目担当教員全員 第29回　：評価のまとめ　泉　良太、鈴木達也 第30回　：評価のまとめ　泉　良太、鈴木達也 ＊達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、体験学習を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します。
評価方法	筆記試験40%、実技試験40%、ポートフォリオ20%、計100%
課題に対するフィードバック	演習レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	能登真一：作業療法評価学 第3版、医学書院、2017 津山直一、中村耕三：新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014 田崎義明、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた 第18版、南山堂、2016
参考図書	必要に応じて授業中に紹介します。
事前・事後学修	各回の事前学修時間20分、事後学修時間20分 ・運動学、解剖学の復習をして参加しましょう。 ・実技練習は学生で互いに練習を重ねましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年期作業療法評価学
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	１単位（30時間）　作業必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	高齢期に特徴的な身体、精神、認知面に関する生理的変化や環境面の評価法について学ぶ。作業療法の分野をはじめ標準化された評価法だけでなく、観察や面接から得られる情報を基に対象者が生きてきた人生を知り、作業療法プログラムを展開できることを学ぶ。施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	1.高齢者の心身機能について特徴を把握する事が出来る 2.評価法の名前とその目的を理解し使用できる 3.評価法の種類（主観的、客観的、観察法・質問法、自己記入式等）を理解し使用できる 4.得られた結果を解釈しプログラム立案に役立てることが出来る
授業計画	＜担当教員名＞鈴木達也・冨澤涼子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回　：オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度　〈担当：鈴木〉 第2回　：人間作業モデル（MOHO）と面接評価法　〈担当：鈴木＞ 第3回　：作業遂行文脈と面接評価法　〈担当：鈴木〉 第4回　：高齢者の意思、興味、価値、作業バランス　〈担当：鈴木〉 第5回　：ADL,BPSD、行動面の評価　〈担当：鈴木〉 第6回　：認知機能･精神機能面の評価　〈担当：冨澤＞ 第7回　：高齢者体験　〈担当：鈴木〉 第8回　：高齢者施設見学1　〈担当：鈴木・冨澤〉 第9回　：高齢者施設見学2　〈担当：鈴木・冨澤〉 第10回：環境の評価　〈担当：鈴木・冨澤〉 第11回：介護負担・介護予防・健康増進　〈担当：鈴木・冨澤〉 第12回：終末期における評価　〈担当：鈴木〉 第13回：高齢者施設での集団活動1　〈担当：鈴木・冨澤〉 第14回：高齢者施設での集団活動２　〈担当：鈴木・冨澤〉 第15回：施設演習報告とまとめ　〈担当：鈴木・冨澤〉
アクティブラーニング	グループワーク、PBL,施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します
評価方法	定期試験60％　レポート20％、ポートフォリオ20％ ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。 ・ルーブリックの内容は授業中に提示する

課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント、返却
指定図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学４老年期」作業療法全書，協同医書出版 田平隆行、田中寛之：Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学　第3版：医学書院 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　　研究室：3511研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎作業学
科目責任者	藤田　さより
単位数他	２単位数（60時間）　作業必修　　２セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	1.作業療法で利用される活動のうち，陶芸，織物，革細工，木工などの基本的技法を学ぶ。 2.各作業が人に与える身体的・心理的な影響を、自己を通して洞察出来る。 3.作業分析の基礎を学ぶ。
到達目標	1.陶芸、織物、革細工、木工が人にどのような身体的・心理的影響を与えているか自分自身で感じ、述べることができる。 2.共同作品を作成し作業が人とのつながり、広がりをもたらす効果を感じ、述べることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション・講義　藤田さより 第2回：身体表現　河本のぞみ，藤田さより 第3回：身体表現　河本のぞみ，藤田さより 第4回：身体表現　河本のぞみ，藤田さより 第5回：身体表現　河本のぞみ，藤田さより 第6回：陶芸　綿貫克彦，藤田さより，飯田妙子 第 7回：陶芸　綿貫克彦，藤田さより，飯田妙子 第 8回：陶芸　綿貫克彦，藤田さより，飯田妙子 第 9回：陶芸　綿貫克彦，藤田さより，飯田妙子 第10回：陶芸　綿貫克彦，藤田さより，飯田妙子 第 11回：陶芸　綿貫克彦，藤田さより，飯田妙子 第12回：革細工　永田征司，藤田さより 第13回：革細工　永田征司，藤田さより 第14回：革細工　永田征司，藤田さより 第15回：革細工　永田征司，藤田さより 第16回：革細工　永田征司，藤田さより 第17回：革細工　永田征司，藤田さより 第18回：さをり織り　須藤弘子，藤田さより，飯田妙子 第19回：さをり織り　須藤弘子，藤田さより，飯田妙子 第20回：さをり織り　須藤弘子，藤田さより，飯田妙子 第21回：さをり織り　須藤弘子，藤田さより，飯田妙子 第22回：さをり織り　須藤弘子，藤田さより，飯田妙子 第23回：さをり織り　須藤弘子，藤田さより，飯田妙子 第24回：木工　ゲストスピーカー,藤田さより 第25回：木工　ゲストスピーカー,藤田さより 第26回：木工　ゲストスピーカー,藤田さより

	第27回： 木工　ゲストスピーカー,藤田さより 第28回： 木工　ゲストスピーカー,藤田さより 第29回:　木工　ゲストスピーカー,藤田さより 第30回：まとめ　藤田さより 外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります.　改めて授業スケジュールを初回に配布します
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	作品の完成および作業分析レポート　100% ルーブリック評価を用いる
課題に対するフィードバック	レポート返却時に、コメントを記入します。
指定図書	山根寛編：『ひとと作業・作業活動』、三輪書店 クラフト学園研究室：革の技法楽しむための基本集、株式会社ヴォーグ社
参考図書	さをり織りの本 「新・私の手織り SAORI」,城 みさを,ぶどう社 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル, 古川 宏（監修）
事前・事後学修	事前学修:作業分析には解剖学、運動学の知識が必要となります。適宜これらについて課題を出していきます。（10分） 事後学修：作業分析を各作業種目で行います。（30分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業技術学
科目責任者	藤田　さより
単位数他	１単位（30時間）　作業必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	作業療法として多く利用される活動（紙細工、園芸、籐細工、染物など）の実践を交えながら、各活動の基本的技法を学び，作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を考え、作業分析の基礎を学ぶ。さらに各作業の対象者への導入法を学ぶ。
到達目標	①作業療法として多く利用される活動を実践し、基本的技法を理解し、作品を完成できる。 ②作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を述べることができる。 ③各作業の対象者への導入方法（段階付け）を考え、作業分析シートに記入することができる。 ④実際に対象者に園芸活動を適切な方法で実践できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回： オリエンテーション、作業分析について　藤田さより 第 2回： 投影的作業の実践と作業分析　藤田さより 第 3回： 投影的作業の実践と作業分析　藤田さより 第 4回： 構成的作業の実践と作業分析　藤田さより 第 5回： 構成的作業の実践と作業分析　藤田さより 第 6回： 園芸療法と作業療法　藤田さより・飯田妙子 第 7回： 室内園芸と作業分析（編み物）　藤田さより・飯田妙子 第 8回： 編む作業と作業分析（編み物）　藤田さより 第 9回： 編む作業と作業分析(マクラメ)　藤田さより 第10回：編む作業と作業分析（マクラメ）　藤田さより 第11回： 作業療法と音楽活動　藤田さより 第12回： 対象者への導入方法とその効果を考える　（籐細工）　藤田さより 第13回： 対象者への導入方法とその効果を考える　（籐細工）　藤田さより 第14回： 対象者への導入方法とその効果を考える　（染色）　藤田さより 第15回： 対象者への導入方法とその効果を考える　（染色）　藤田さより
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	Webclassでの事前事後学習
評価方法	レポート80%　活動への取り組み・作品の完成20% レポートに関してはルーブリック評価を用いる。

課題に対するフィードバック	提出されたレポートコメントおよび評価を記入し返却致します。
指定図書	長崎 重信、 浅沼 辰志：作業学 改訂第2版（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト） メディカルビュー
参考図書	原和子『園芸とリハビリテーション』エルゴ
事前・事後学修	・作業分析を各作業すべてで実施します。作業分析に必要な解剖学・運動学について事前に復習してください。（毎回40分程度） ・事後学修では作業分析シートを記入し、作業が人に与える影響等について分析してください。 ・障害者の方への介入を行いますので、介助方法について事前に復習してください。（7、8回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系作業療法学
科目責任者	泉　良太
単位数他	２単位（60時間）　作業必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	身体障害領域で主に作業療法の対象となる疾患の病態像および、疾患の特性を学修し、対象者に対しての作業療法実践課程の事例を通して基礎的な理論と知識・技術を学修する。疾患特性の復習を行い、疾患の特性と社会生活上の問題点を掘り下げて学習していく。
到達目標	1. 疾患の特徴を理解し、説明ができる。 2. 作業療法の対象となる方（疾患特性や社会背景など）に応じた介入を立案できる。 3. 作業療法の理論的枠組みを持った上で障害を説明することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞　泉　良太 ＊事例検討はPBLで実施する。 第1回　身体機能作業療法学の基礎 第2回　脳血管障害　説明 第3回　事例検討 第4回　事例検討 第5回　事例検討 第6回　事例検討 第7回　脳血管障害フィードバック 第8回　事例検討 第9回　事例検討 第10回 発表準備 第11回 発表 第12回 発表　フィードバック 第13回 神経変性疾患　説明 第14回 事例検討 第15回 事例検討 第16回 事例検討 第17回 事例検討 第18回 神経変性疾患フィードバック 第19回 事例検討 第20回 事例検討 第21回 発表準備 第22回 発表 第23回 発表　フィードバック 第24回 中間確認テスト 第25回 振り返り 第26回 悪性腫瘍（がん）　ゲストスピーカー　佐野 哲也

	第27回 事例検討　フィードバック　ゲストスピーカー　佐野 哲也 第28回 神経筋疾患 第29回 事例検討　フィードバック 第30回 全体のまとめ
アクティブラーニング	事例検討はPBLで実施する。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施する。
評価方法	ポートフォリオ50%（まとめ、自己学修を含む）及び中間確認テスト50%で判断する。 ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認する。 なお、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価し、ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックを実施する。 ポートフォリオ及び中間確認テスト返却時にフィードバックを実施する。
指定図書	山口昇、玉垣努：身体機能作業療法学 第3版、医学書院、2016 石川齊、古川宏：作業療法技術ガイド 第3版、文光堂、2011 齋藤佑樹：作業で語る事例報告、医学書院、2014
参考図書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	グループごとに自ら課題を設定していくことになりますので、書籍及び文献等で調べてください。事前・事後学修を各回最低40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	運動器系作業療法学
科目責任者	中島　ともみ
単位数他	２単位（60時間）　作業必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	①整形疾患領域の作業療法：骨折、腱損傷、末梢神経損傷、脊髄損傷、リウマチ、義肢装具　熱傷 ②内部障害の作業療法：腎疾患 ①・②について、リスク管理を踏まえたうえで、作業療法の評価から作業療法を実施する為の知識・技術・態度について学ぶ。
到達目標	疾患の特性の理解し、評価から作業療法の実践につなげる過程を述べる事ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1～ 6回：骨折（肩・肘・手・手指、物理療法も含む）・熱傷 拘縮、可動域制限のアプローチ、CRPS Type I･II　中島ともみ 第7～12回：末梢神経損傷（正中神経・尺骨神経・橈骨神経） 変形予防、知覚のリハビリテーション　中島ともみ 第13～14回：腱損傷 早期運動療法を含む　中島ともみ 第15～16回：脊髄損傷 回復過程に合わせたアプローチの原則　中島ともみ 第17～22回：リウマチ 変形予防と関節保護の動作指導　中島ともみ 第23～28回：義肢装具 適用・チェックアウトとリハビリテーション　奥村修也 第29：腎疾患 リスク管理と疾病に即した作業療法　中島ともみ 第30：熱傷 リスク管理と疾病に即した作業療法　中島ともみ

アクティブラーニング	PBL
授業内のICT活用	WebClassにて資料配布等行います.
評価方法	レポート50%　　定期試験50% ポートフォリオの評価の視点＞要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど用い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBLレポート＞臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	・菅原 洋子（著、 編集） 社団法人 日本作業療法士協会（監修） 作業療法学全書 作業治療学身体障害　協同医書出版 ・石川齊・古川宏（編集）「作業療法技術ガイド」 ・古川　宏（編集）　日本作業療法士協会（監修）　作業療法学全書　義肢装具学 協同医書出版
参考図書	・齋藤 慶一郎（編さん)ハンドセラピィ（リハ実践テクニック）メジカルビュー社
事前・事後学修	40分～80分 整形疾患の回前に、筋肉の起始停止、神経支配を理解しておく事。各疾患別の作業療法では、疾患の病理学を見直しておく事。講義後は、学習内容をポートフォリオにまとめる事。 以下は、参考とするとよいと考えられる図書。 ・上羽康夫「手その機能と解剖」金芳堂 ・中村耕三　等訳「新・徒手筋力検査法　第8版」　協同医書出版 ・古川　宏（編集）　作業療法のとらえかた　文光堂 ・齋藤 慶一郎（編纂）ハンドセラピィ（リハ実践テクニック）メジカルビュー社
オープンエデュケーションの活用	Visible Body　マッスルプレミアムの購入を推奨します.
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tomomi-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動技術学
科目責任者	中島　ともみ
単位数他	１単位数（30時間数）　作業必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	基本的日常生活における作業の遂行方法を，疾患特有の機能障害，活動の特性をふまえた視点で評価し，作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する. 福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ.
到達目標	①ＡＤＬとは何かを述べる事ができる. ②ＡＤＬ評価方法を述べる事ができる. ③ＡＤＬの作業療法（直接的アプローチ・間接的アプローチ）を述べる事ができる. ④ＡＤＬの指導方法を述べる事ができる.
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞中島ともみ 第 1回：ＡＤＬの定義と評価方法 第2～5回：起居　動作分析と直接的アプローチ　間接的アプローチ（環境調整） 第6～9回：座位　動作分析と直接的アプローチ　間接的アプローチ（環境調整） 第10～13回：食事　動作分析と直接的アプローチ　間接的アプローチ（環境調整） 第14～15回：移乗　動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応
アクティブラーニング	動作分析はグループワークでの学修を基本とする。
授業内のICT活用	WebClassにて資料配布を行います

評価方法	レポート　50%　　定期試験　50% ポートフォリオの評価の視点＞要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど用い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBLレポート＞臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	生田宗博　「I･ＡＤＬ　作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店
参考図書	・伊藤利之　「ＡＤＬとその周辺　評価・指導・介護の実際」医学書院 ・作業療法のとらえかた ・石原義恕/今野孝彦「これでできるリウマチの作業療法」南江堂 ・黒川幸雄 /大西秀明「理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル」文光堂
事前・事後学修	40分～80分 動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後に、学習内容をポートフォリオにまとめる事。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tomomi-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	日常生活活動技術学実習
科目責任者	中島　ともみ
単位数他	１単位数（45時間）　作業必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	日常生活における作業の遂行方法を，疾患特有の機能障害，活動の特性をふまえた視点で評価し，作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する．福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ.
到達目標	①ADL・IADL評価方法を述べる事ができる. ②ADL・IADLの作業療法（直接的アプローチ・間接的アプローチ）を述べる事ができる. ③ADL・IADLの指導方法を述べる事ができる.
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第19・20回以外　中島ともみ 第19・20回　川合康夫 第1～2回：移動　動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 第3～6回：更衣・入浴　動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 第7回：ポジショニング　動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 第8～9回：利き手交換　動作分析と直接的アプローチ間 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 第10回：義肢の使用と調整 第11～12回：FIM　FIMの採点基準 第13～18回：　内部疾患 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 吸引喀痰の技術習得も含む 第19～20回：自助具作成（リウマチを中心に） 第21～23回：住宅改修 頚髄損傷　リウマチ 大腿骨頚部骨折　呼吸器

アクティブラーニング	動作分析はグループワークでの学修を基本とする。 住宅改修ではPBLを用いる
授業内のICT活用	WebClassにて資料を配布いたします.
評価方法	レポート　50%　　定期試験　50% ポートフォリオの評価の視点＞要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど用い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBLレポート＞臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	・生田宗博　「I・ＡＤＬ　作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店 ・菅原 洋子（著、 編集） 社団法人 日本作業療法士協会（監修） 作業療法学全書 作業治療学身体障害　協同医書出版
参考図書	・伊藤利之　「ＡＤＬとその周辺　評価・指導・介護の実際」医学書院 ・作業療法のとらえかた ・石原義恕/今野孝彦「これでできるリウマチの作業療法」南江堂 ・黒川幸雄 /大西秀明「理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル」文光堂
事前・事後学修	40分～80分 動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後に、学習内容をポートフォリオにまとめる事。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tomomi-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	高次脳機能障害学（OT）
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	２単位（60時間）　作業必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	社会的問題としてとりあげられることが多くなった高次脳機能障害について学修を進めていきます。外見ではわかりづらい高次脳機能障害を，視聴覚教材や演習を用いて授業を進めていきます。また，中枢神経機能に関連する構造および高次脳機能の検査測定法について基礎的な理論と知識技術を学修する。さらに，高次脳機能障害者の取り巻く社会資源や環境についても学修する。
到達目標	1.高次脳機能障害の症状について一般の人に対して説明することできる。 2.高次脳機能障害の評価を実施できる。 3.高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について家族に説明することができる。
授業計画	＜担当教員名＞鈴木達也 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当＞ 第1回　オリエンテーション・脳の構造を理解する　＜鈴木　＞ 第2回　高次脳機能障害者の置かれている環境・資源　＜鈴木　＞ 第3回　注意障害について　＜鈴木　＞ 第4回　注意障害について　＜鈴木＞ 第5回　注意障害について　＜鈴木　＞ 第6回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第7回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第8回　記憶障害について　＜鈴木　＞ 第9回　記憶障害について　＜鈴木　＞ 第10回　記憶障害について　＜鈴木　＞ 第11回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第12回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第13回　遂行機能障害について　＜鈴木　＞ 第14回　遂行機能障害について　＜鈴木　＞ 第15回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第16回　評価方法の学修（演習）、中間確認テスト　＜鈴木　＞ 第17回　失行・行為・行動の障害を理解する　＜鈴木　＞ 第18回　失行・行為・行動の障害を理解する　＜鈴木　＞ 第19回　失認と視空間認知の障害を理解する　＜鈴木　＞ 第20回　失認と視空間認知の障害を理解する　＜鈴木　＞ 第21回　失語・失読・失書を理解する　＜鈴木　＞ 第22回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第23 回　評価方法の学修（演習）　＜鈴木　＞ 第24回　社会的行動障害を理解する　＜鈴木　＞ 第25回　社会的行動障害を理解する　＜鈴木　＞

	第26回　認知機能と自動車運転　特別講師 第27回　認知機能と自動車運転　特別講師 第28回　高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー　NPO法人高次脳機能障害サポートネットしずおか　当事者家族 第29回　高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する ゲストスピーカー　NPO法人高次脳機能障害サポートネットしずおか　当事者家族 第30回　高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について理解する
アクティブラーニング	本科目ではTBL、グループ学習、を取り入れて行います
授業内のICT活用	動画での予習を行います。発表や情報報集にPCを使用します。
評価方法	ポートフォリオ40％（授業参加、まとめ、自己学修を含む）及び筆記試験（中間10％、定期試験50％で判断する。ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをしていきます。 振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行います
指定図書	標準作業療法学専門分野、高次脳機能作業療法学第2版、医学書院
参考図書	作業療法全書　第8巻 作業治療学5　高次脳機能障害，協同医書出版 和田 義明、リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害 症状・原因・評価・リハビリテーションと支援の方法、秀和システム 石合純夫「高次脳機能障害学」医歯薬出版 日本作業療法士協会「作業療法マニュアル身体障害（Ⅰ）」日本作業療法士協会 山鳥重，早川裕子，博野信次他「高次脳機能障害マエストロシリーズ①」医歯薬出版 鈴木孝治，早川裕子，種村留美他「高次脳機能障害マエストロシリーズ③」医歯薬出版 森惟明，鶴見隆正「PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見」医学書院 本田哲三「高次機能障害のリハビリテーション」医学書院
事前・事後学修	グループごとに自ら課題を設定していくことになりますので、書籍及び文献等で調べてください。上記の教科書・参考図書が活用できます。事前・事後学修各回最低40分とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神領域作業療法学の基礎
科目責任者	新宮　尚人
単位数他	２単位(60時間)　作業必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神障害作業療法を学ぶにあたって前提となる基本的事項を学習する。特に次の3点にポイントを置く。①精神医療の歴史と作業療法の歩みについてその関係性を検討する。②精神障害の特性について実際の事例を検討しながら学ぶ。③精神障害作業療法の目的と役割、治療構造について理解する。これらは精神障害作業療法の具体的プロセスと内容を学ぶ際の基礎となる。
到達目標	1.精神医療の歴史と作業療法の歩みについて説明できる 2.精神障害の特性について説明できる 3.精神障害作業療法の目的と役割、治療構造について説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第　1回：オリエンテーション、精神障害の概要について　新宮尚人 第　2回：精神医療の歴史と作業療法の歩み　新宮尚人 第　3回：精神障害の理解　DVD①と解説　新宮尚人 第　4回：精神障害の構造特性　新宮尚人 第　5回：精神障害の理解　DVD②と解説　新宮尚人 第　6回：精神保健福祉の動向とリハビリテーション　新宮尚人 第　7回：重要精神疾患１の作業療法についてPBL①-1　新宮尚人 第　8回：重要精神疾患１の作業療法についてPBL①-2　新宮尚人 第　9回：PBL発表 1　新宮尚人 第10回：重要精神疾患１の基本的障害像と作業療法について解説-1　新宮尚人 第11回：重要精神疾患１の作業療法についてPBL②-1　新宮尚人 第12回：重要精神疾患１の作業療法についてPBL②-1　新宮尚人 第13回：PBL発表 2　新宮尚人 第14回：重要精神疾患１の基本的障害像と作業療法について解説 -2　新宮尚人 第15回：精神障害の理解　DVD③と解説　新宮尚人 第16回：医療観察法での作業療法、重症精神障害者を支える地域支援　冨澤涼子 第17回：重要精神疾患１の認知機能障害についてなど　新宮尚人 第18回：重要精神疾患１の認知機能障害についてなど　新宮尚人 第19回：重要精神疾患2の基本的障害像と作業療法について　飯田妙子 第20回：重要精神疾患2の基本的障害像と作業療法について　飯田妙子 第21回：重要精神疾患3の基本的障害像と作業療法について　新宮尚人 第22回：重要精神疾患3の基本的障害像と作業療法について　新宮尚人 第23回：重要精神疾患4の基本的障害像と作業療法について　新宮尚人 第24回：重要精神疾患4の基本的障害像と作業療法について　新宮尚人 第25回：精神障害者の就労支援について　藤田さより 第26回：精神障害者の就労支援について　藤田さより 第27回：精神科における面接について　藤田さより

	第28回：精神科における面接について　藤田さより 第29回：学習した精神疾患の作業療法についてレビュー　新宮尚人 第30回：授業のまとめ　新宮尚人
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、グループ学修や問題基盤型学習（Problem Based Learning ：PBL)を行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験（60%）、レポート（30%）、ポートフォリオ内容（10%）
課題に対するフィードバック	筆記試験の終了後には個別に解説を行います。 授業最終日に、個別でポートフォリオ面接を実施し学修内容の確認とレポート返却をします。
指定図書	１．新宮尚人編：標準作業療法学 精神機能作業療法学 第３版．医学書院 ２．上野武治編：『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学』第４版．医学書院 ３．山根　寛：精神障害と作業療法　新版．三輪書店
参考図書	１．朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法　第2版．中央法規 ２．日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版　第5巻　作業治療学2 精神障害．協同医書出版社 ３．山根　寛他：ひとと作業・作業活動　新版．三輪書店 ４．山根　寛他：ひとと集団・場-集まり、集めることの利用-　第2版．三輪書店 その他、必要に応じて授業中に紹介するその他、必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所に目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オープンエデュケーションの活用	必要に応じて授業中に紹介する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　研究室：3501研究室もしくは学部長室 時間については，初回授業時に提示します． 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神領域作業療法学の応用
科目責任者	藤田　さより
単位数他	１単位(30時間)　作業必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	小グループによるTBL、PBL、講義、演習を通じ、精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と具体的な作業療法アプローチについて学習する。関連理論や作業活動を軸とする作業療法の視点をいかに治療・援助に活かすのか詳細に検討する。
到達目標	・精神疾患の基礎知識と疾患に伴う生活への影響について説明できる ・作業療法の基本プロセスについて説明できる ・精神系作業療法における評価（症状尺度、社会生活評価尺度等）について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第　1回：ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、重要精神疾患3の作業療法についてTBL　藤田さより 第　2回：重要精神疾患3の作業療法についてTBL　藤田さより 第　3回：重要精神疾患3の作業療法について発表　藤田さより 第　4回：重要精神疾患4について講義　藤田さより 第　5回：重要精神疾患4について講義　藤田さより 第　6回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS, GAF, POMSなど）　藤田さより 第　7回：観察法の講義と演習　藤田さより 第　8回：作業面接の講義と演習　藤田さより・飯田妙子 第　9回：作業面接の講義と演習-　藤田さより・飯田妙子 第10回：社会機能尺度について演習と講義　藤田さより 第11回：社会機能尺度について演習と講義　藤田さより 第12回：認知行動療法・SSTについて講義　藤田さより 第13回：実践家と当事者による講義１　藤田さより・飯田妙子 第14回：実践家と当事者による講義2　藤田さより・飯田妙子 第15回：最新の精神医療と授業のまとめ　藤田さより
アクティブラーニング	TBL・演習を行います。
授業内のICT活用	Webclassによる事前事後学習（動画、パワーポイント使用）

評価方法	レポート30%　小テスト20%　定期テスト50%
課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに書かれた質問等は次回の講義で解説・返答致します。 レポートに関してはコメントを書いて返却致します。テストの結果についてはお知らせします。
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法　第3版．三輪書店 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版　第5巻　作業療法治療学2 精神障害．協同医書出版社 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法．中央法規
参考図書	上野武治編『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学第3版』医学書院
事前・事後学修	さまざまな精神疾患について学びます。各疾患の該当する箇所を事前事後で教科書を熟読すること。また各評価法に関しては同じ評価を用いた実践例が掲載されている事前事後に読んで重要なポイントをおさえておくこと（事前事後毎回40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室　　時間については，初回授業時に提示します． 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達領域作業療法学の基礎
科目責任者	伊藤　信寿
単位数他	１単位（30時間）　作業必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達領域における作業療法について，基本的概念を学習する．具体的には，①定型的発達過程を復習する．②発達領域における対象疾患を理解する上で必要な専門基礎科目について学習する．③発達領域における対象疾患について学習する．
到達目標	(1)新生児から1歳頃までの定型的発達過程と原始反射について説明できる． (2)運動の調整について説明できる． (3)発達領域における対象疾患について簡単に説明できる．
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：発達領域における作業療法　伊藤信寿 第 2回：定型発達について　伊藤信寿 第 3回：随意運動について　伊藤信寿 第 4回：随意運動について　伊藤信寿 第 5回：随意運動について　伊藤信寿 第 6回：運動の調整について　伊藤信寿 第 7回：運動の調整について　伊藤信寿 第 8回：運動の調整について　伊藤信寿 第 9回：中枢性疾患について　伊藤信寿 第10回：中枢性疾患について　伊藤信寿 第11回：発達障害ついて　伊藤信寿 第12回：発達障害ついて　伊藤信寿 第13回：知的障害について　伊藤信寿 第14回：筋疾患について　伊藤信寿

	第15回：まとめ　伊藤信寿 ※講義内容は変更の可能性があります。
アクティブラーニング	事前課題を与え，課題についてグループワークを行い理解を深める.
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	単元テスト（60%）、課題提出物（ルーブリックを用いる：40%）
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業の中で回答する。
指定図書	福田恵美子　編集　標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」　医学書院
参考図書	イラストでわかる発達障害の作業療法　上杉雅之（監修）　医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	事前学修：各コマのテーマについて情報収集する（10分程度） 事後学修：単元テストに向け復習する（30分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達領域作業療法学の応用
科目責任者	伊藤　信寿
単位数他	２単位（60時間）　作業必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	発達領域における作業療法実践について学習する。具体的には、①疾患や障害に特有の適切な評価に必要とされる知識と検査の実施方法について学修する．さらに，評価結果を解釈し，総合的な視点から問題点を抽出し、適切な目標設定、作業療法プログラム立案までの過程を学修する。
到達目標	(1)発達領域における評価の目的，種類，およびその手順を説明できる。 (2)発達領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。 (3)評価結果から解釈，問題点抽出，目標設定，作業療法プログラムを立案することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1、2回　発達領域における作業療法の実践　伊藤信寿 第3、4回　OTプログラムの立案について　伊藤信寿 第5、6回　OTプログラムの立案について　伊藤信寿 第7、8回　OTプログラムの立案について　伊藤信寿 第9、10回　OTプログラムの立案の報告　伊藤信寿 第11、12回　脳性麻痺に対するOTプログラムの立案　伊藤信寿 第13、14回　脳性麻痺に対するOTプログラムの立案　伊藤信寿 第15、16回　脳性麻痺に対するOTプログラムの立案　伊藤信寿 第17、18回　脳性麻痺に対するOTプログラムの立案の報告　伊藤信寿、飯田妙子 第19、20回　発達障害に対するOTプログラムの立案　伊藤信寿、飯田妙子 第21、22回　発達障害に対するOTプログラムの立案　伊藤信寿、飯田妙子 第23、24回　発達障害に対するOTプログラムの立案　伊藤信寿、飯田妙子 第25、26回　発達障害に対するOTプログラムの立案の報告　伊藤信寿、飯田妙子 第27、28回　発達領域における主な治療理論　伊藤信寿

	第29、30回　発達領域における主な治療理論　　伊藤信寿
アクティブラーニング	実際に体験しながら学修する。 グループワークを行う。
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。
評価方法	レポート（50%）、ポートフォリオ（50%） 　レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業の中で回答する。 ポートフォリオに対しフィードバックを行う。 作業療法プログラムのレポートに対し，フィードバックを行う。
指定図書	イラストでわかる発達障害の作業療法　上杉雅之（監修）　医歯薬出版株式会社
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる（40分程度） 事後学修：授業の内容をポートフォリオに整理する（40分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年期作業療法学
科目責任者	鈴木達也
単位数他	２単位（60 時間） 作業必修 ４セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	この科目では高齢期の生理的変化やそれに伴う身体・精神・心理的変化を理解し、高齢期領域における対象者の作業を支援するための基盤となる知識を得ます。認知症を始めとする高齢期領域特有の疾患を理解し、対象者への作業療法の展開を学習する。高齢会に伴う社会問題や介護保険制度、QOL、終末期について学習する。
到達目標	1. 高齢者の身体的特徴を理解し、説明ができる。 2. 高齢者の心理的特徴を理解し、説明ができる。 3. 高齢者への作業療法の介入を理解し、説明ができる。 4. 高齢者を取り巻く社会的背景を理解し、説明ができる。
授業計画	＜担当教員＞ 鈴木達也、中島ともみ、藤田さより

回数	内容	担当教員
第1回	オリエンテーション	鈴木
第2回	日本における高齢期全般の課題について	鈴木
第3回	高齢期の身体的特徴1	鈴木
第4回	高齢期の身体的特徴2	鈴木
第5回	高齢期の身体的特徴3	鈴木
第6回	高齢期の身体的特徴4	鈴木
第7回	高齢期の精神機能変化1	藤田
第8回	高齢期の精神機能変化2	藤田
第9回	認知症について1	鈴木
第10回	認知症について2	鈴木
第11回	認知症への支援方法1	鈴木
第12回	認知症への支援方法2	鈴木
第13回	高齢期特有の疾患について1	鈴木
第14回	高齢期特有の疾患について2	鈴木
第15回	高齢期特有の疾患について3	鈴木
第16回	高齢期特有の疾患について4	鈴木
第17回	高齢者を支える制度について（自助、公助、共助、互助）1	鈴木
第18回	高齢者を支える制度について（自助、公助、共助、互助）2	鈴木
第19回	高齢者を支える制度について（自助、公助、共助、互助）3	鈴木
第20回	高齢者を支える制度について（自助、公助、共助、互助）4	鈴木
第21回	在宅者・家族への支援1	鈴木
第22回	在宅者・家族への支援2	鈴木
第23回	入居者・家族への支援3	鈴木
第24回	入居者・家族への支援4	鈴木
第25回	排泄ケアについて1	中島

	第26回	排泄ケアについて2	中島
	第27回	高齢期のアプローチ法（回想法、リアリティー、パーソンセンタードケア）1	鈴木
	第28回	高齢期のアプローチ法（回想法、リアリティー、パーソンセンタードケア）2	鈴木
	第29回	事例検討1	鈴木
	第30回	事例検討2	鈴木

アクティブラーニング	PBLやグループワークの機会を多く持ちます。積極的・主体的にグループワークに臨み、自ら調べ、考え、問題解決をしていく学修機会を持って下さい。
授業内のICT活用	プレゼンテーションにPCを使用します
評価方法	レポート10%、ポートフォリオ20%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	適宜、小テスト、ポートフォリオの確認を行い、学修の理解度、習得度を確認していく。必要 に応じて、学修を進めるためのアドバイスを行う。
指定図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学　第3版：医学書院 田平隆行、田中寛之：Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学４老年期」作業療法全書，協同医書出版 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修20分以上、事後学修20分以上 各講義ごとにレジュメを配布し、教科書での該当箇所を言いますので、確認をすること。単元終了時に小テストを行い、知識確認を行います。間違えた箇所は修正し、次回講義の際に提出すること。認知症の作業療法についてはPBL で行いますので、主体的・積極的な事前事後学修を期待します。PBL後に知識の確認のために事後学修となる講義を行います。そこで主体的な学びにおける知識の確認、定着をはかってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：351研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	老年期作業療法学演習
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	１単位（30時間）　作業選択　５セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	高齢期領域の作業療法の実践に必要な技能を学び、高齢期領域に特徴的な疾病と病態、障害特性の関係を推論し、高齢者へ作業療法を実践する技能を経験し学びます、
到達目標	・高齢者に作業暦を含めた面接が行えるようになる ・高齢者と信頼関係と治療的な共同関係を気づくことができる ・高齢期領域で用いられる技法を知り、対象者の特性に合わせて実践する ・高齢者に適したプログラムを立案実践できる。
授業計画	〈担当：鈴木達也〉 第1回　：オリエンテーション・高齢領域における実践 第2回　：傾聴の技法、自己の治療的利用 第3回　：作業療法と回想法　・リアリティーオリエンテーション 第4回　：作業療法とナラティブストーリー 第5回　：自分史作りプロジェクト：ストーリーテリングとストーリーメイキング１ 第6回　：自分史作りプロジェクト：ストーリーテリングとストーリーメイキング2 第7回　：高齢者施設の管理宇運営１ 第8回：　高齢者施設の管理運営２ 第9回：　高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践 第10回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践 第11回：自分史作りプロジェクト3 第12回：自分史作りプロジェクト4 第13回：高齢者と住環境整備 第14回：高齢者と住環境整備 第15回：施設実習報告とまとめ
アクティブラーニング	グループワーク、PBL,施設見学、演習・施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
授業内のICT活用	プレゼンテーション、資料作成にPCを使用します

評価方法	レポート50%、ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。 ・ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーの返却、コメント
指定図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学４老年期」作業療法全書，協同医書出版 田平隆行、田中寛之：Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション、医学書院
参考図書	矢谷令子監修：高齢期作業療法学　第3版：医学書院 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　　研究室：3511研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神領域作業療法学演習
科目責任者	藤田　さより
単位数他	１単位（30時間）　作業選択　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	精神科作業療法に関連する評価について臨床事例をベースとしたシナリオに基づき実践的に学習する。評価に基づいて具体的に作業療法プログラムを立案し、最終的に臨床実習で応用できる技術の習得を目指す
到達目標	・作業活動の特性を、作業療法の治療・援助に応用する視点について説明できる ・精神系作業療法におけるプログラム立案のポイントについて説明できる。 ・模擬的に作業療法プログラムを実践できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回：オリエンテーション、精神科における作業療法の実際　藤田さより 第2回：プログラム計画立案　藤田さより 第3回：プログラムの計画発表・準備　藤田さより 第4回：プログラム計画準備　藤田さより 第5回：　集団の利用　藤田さより 第6回：プログラム立案演習①　藤田さより・飯田妙子 第7回：プログラム立案演習②　藤田さより・飯田妙子 第8回：プログラム立案演習③　藤田さより・飯田妙子 第9回：プログラム立案演習④　藤田さより・飯田妙子 第10回：プログラム立案演習⑤　藤田さより・飯田妙子 第11回：演習の振り返り　藤田さより 第12回：精神科領域における評価・レポートについて　藤田さより 第13回：精神科領域における評価・レポートについて　藤田さより 第14回：臨床実習に関する講義　藤田さより 第15回：授業のまとめ　藤田さより
アクティブラーニング	この科目はＰＢＬと演習を行います。
授業内のICT活用	パワーポイントを用いたプレゼン,webclassを用いた事前事後学習
評価方法	レポート100％ ルーブリック評価を用いる

課題に対するフィードバック	毎回のフィードバックペーパーに書かれた内容について次回の講義で回答致します。 レポートの内容には評価・コメントをつけて返却致します。
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法．三輪書店 山根寛他：ひとと集団・場- 集まり、集めることの利用-．三輪書店
参考図書	デニスグリーンバーガー『うつと不安の認知療法練習帳』創元社
事前・事後学修	精神障害領域の作業療法では集団作業療法が多く実践されます。そのためこの授業では主に集団作業療法を企画、実践したいと思いますので、集団についての要点および集団作業療法に関する実践例等の文献を事前・事後に読むようにしてください【事前事後学修40分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室　　時間については，初回授業時に提示します． 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達領域作業療法学演習
科目責任者	伊藤　信寿
単位数他	１単位（30時間）　作業選択　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	近隣にある児童通所施設を利用している対象児に対して，評価，観察，解釈，作業療法プログラムを立案し，治療法の一部を実施する．施設等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	(1)対象児に対して評価を実施することができる。 (2)評価結果を解釈し問題点を抽出することができる。 (3)プログラムを立案し実施することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　オリエンテーション，児童通所施設について　伊藤信寿 第2、3回　発達領域における支援について　伊藤信寿、飯田妙子 第4、5回　児童通所施設に通園している子どもたちに対して評価の実施　伊藤信寿、飯田妙子 第6、7回　評価結果から問題点抽出，目標設定，OTプログラムの立案　伊藤信寿、飯田妙子 第8、9回　児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践　伊藤信寿、飯田妙子 第10、11回　児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践　伊藤信寿、飯田妙子 第12、13回　児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践　伊藤信寿、飯田妙子 第14、15回　まとめ　伊藤信寿、飯田妙子
アクティブラーニング	グループワークを行い，各対象の作業療法プログラムを企画する． 児童通所施設に通園している子どもに対して，実際に遊びを通して，観察評価，記録，遊びの企画、遊びの実践を行う．
授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集にPCを使います。

評価方法	レポート（50%），演習（遊びの企画・実践）（50%） レポートやレポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパー用いて提出してもらうものとし，質問や意見については授業の中で回答する. 作業療法プログラムのレポート，遊びの企画書のレポートに対し，ルーブリックを使用しながら，個別にフィードバックを行う.
指定図書	イラストでわかる人間発達学　上杉雅之（監修）　医歯薬出版株式会社
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：作業療法プログラム等の作成（30分程度） 事後学修：ルーブリックにより指摘されたことに関する振り返り（10分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域作業療法学
科目責任者	冨澤　涼子
単位数他	２単位（30時間）　　作業必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の基本的な考え方とライフステージに沿った、QOLの維持・向上を目指した作業療法の実際を学ぶ。作業療法実践に必要な法制度や作業療法実践を学ぶことで、作業療法対象者の全体像を捉えること、介入の方法・考え方を習得する。
到達目標	・地域で生活するクライエントのQOLを支援するために必要な基本的考え方を知る。 ・ライフステージに沿った法制度や作業療法実践を理解する。 ・作業療法士として地域に貢献するために必要な基礎的知識を身に付ける。
授業計画	＜担当教員名＞冨澤涼子、伊藤信寿、飯田妙子、鈴木達也 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1 回: 地域リハビリテーションの流れ　冨澤涼子 　地域リハビリテーションの歴史と現状、考え方について説明する。 第2 回: ライフステージに沿った浜松市における法制度 冨澤涼子、特別講師：浜松市障害福祉職員 　浜松市職員より、浜松市の障害者、高齢者の生活状況と現在の市の取り組み、今後の課題等について説明する。 第3～4回：地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割　冨澤涼子 　地域包括ケアシステムにおける作業療法の実際や作業療法士の地域支援の活動を知り、考える機会にする。 第5回: 子どもの生活を支える作業療法　伊藤信寿 第6回: 保育・療育・教育における作業療法　伊藤信寿 　子育て支援や特別支援教育、学童保育における作業療法の役割、また、児童福祉における作業療法の役割について考える機会にする。 第7～8 回：精神障害領域における地域作業療法　飯田妙子 　不登校・引きこもりなど、思春期・青年期～成人期に至るまでの当事者の生活の変化を地域で支える作業療法（デイケア）の実践と課題について考える。 第9 ～10回：訪問における作業療法-1　冨澤涼子 　高齢者、子ども、精神障がい者などを対象にした訪問作業療法の実際やその役割について考える機会にする。 第11～12回：就労支援・職業・社会生活における作業療法-1 冨澤涼子、鈴木達也、特別講師：建木健 　地域で障害を持つ人の就労を支えるための場づくりについて、制度や施策との連携、地域の資源の活用、新たな取りくみの創出の方法について説明する。 第13～14回：当事者として地域で生きる-1　冨澤涼子、特別講師

	障害を持つ当事者であり、作業療法士である2名から障害を持ち現在に至るまでの気持ちや生活変化について話をしてもらい、作業療法士として障害を持つ人にどのように支援をしたらよいかを考える機会にする。 第15回：地域を創る支援　冨澤涼子 地域作業療法について、介護保険制度の詳細と、現状行われている介護予防の取り組み、今後期待される取り組みについて説明をする。 ※講義内容は変更の可能性があります。 ※グループワークを行うことがあります。
アクティブラーニング	ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。また、特別講師を招いた授業では、実践的、体験的な内容を学べるため、 質問を行うなど積極的に学んでください。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度の確認を行います。
評価方法	定期試験 50% レポート 50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いて学修への関心や進行状況を確認していく。 必要に応じて課題遂行のためのアドバイスを行う。
指定図書	太田睦美 編集 ：作業療法学全書 改訂第３版 第13 巻 地域作業療法学，協同医書出版
参考図書	小川恵子編集：地域作業療法学（第2版）医学書院，2012
事前・事後学修	事前学修20分以上、事後学修20分以上 ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。
オープンエデュケーションの活用	厚生労働省ホームページ　https://www.mhlw.go.jp/index.html WAM・NETホームページ　https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	職業リハビリテーション学
科目責任者	藤田　さより
単位数他	２単位（30時間）　作業必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の中で，近年、その活躍の場が広がりつつある職業関連活動を中心に，講義，演習を行います．また近隣地域での障害者に対する制度や取りくみや作業療法活動を調査し，作業療法士が地域で果たすべき役割，視点について理解します．
到達目標	１，職業リハビリテーションに関する制度，支援を理解する。 ２．職業関連活動で用いる各種評価法について理解し，実践できる。 ３．障害者に対する就労支援において重要なポイントを理解できる。 ４．障害者に対する就労支援において作業療法士の果たすべき役割を理解できる。 ５．地域で生活する障害者に対する施策について理解できる．
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 担当教員：藤田さより 第 1回：オリエンテーション　地域における課題（講義）　藤田さより 第２回：障害者の就労支援の実際（アクティブラーニング）　藤田さより 第３回：障害者の就労支援の実際（アクティブラーニング）　藤田さより 第４回：障害者の就労支援の実際（アクティブラーニング）　藤田さより 第５回：障害者の就労支援の実際（アクティブラーニング）　藤田さより 第６回：障害者の就労支援の実際（アクティブラーニング）　藤田さより 第７回：障害者特性に応じた就労支援の実際　ゲストスピーカー 第８回：障害者特性に応じた就労支援の実際　ゲストスピーカー 第９回：障害者特性に応じた就労支援の実際　藤田さより 第１０回：障害者特性に応じた就労支援の実際　藤田さより 第１１回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（ＰＢＬ）　藤田さより 第１２回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）　藤田さより 第１３回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）　藤田さより 第１４回：地域のニーズに応える作業療法の可能性(講義)　藤田さより 第１５回：　まとめ（講義）　藤田さより
アクティブラーニング	PBLを行います。
授業内のICT活用	Webclassを用いた事前事後学習　パワーポイントでのプレゼンテーション
評価方法	レポート50％　定期試験50％

課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに記載いただいた内容について、次回の授業時に回答、解説等を致します。レポートには、評価、コメントを記載し、返却致します。
指定図書	平賀昭信，岩瀬義昭編集『作業療法学全書改訂第3版　職業関連活動』協同医書出版社
参考図書	松為信雄，菊池恵美子 編『職業リハビリテーション学』協同医書出版社
事前・事後学修	各種障害に応じた就労支援のあり方について学びますので、精神障害、知的障害、高次脳障害、発達障害についての障害特性について事前事後に学修してください。また就労支援に関する法制度に関しては、関連するホームページを閲覧するようにしてください。（毎回事前事後40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室　　時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法基礎実習
科目責任者	飯田　妙子
単位数他	１単位数（45時間）　作業必修　　１セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場（病院や施設）にて5日間の見学を中心とした実習を行います。実践現場で作業療法士の行っていることを見学し、対象者とのコミュニケーションを通じて、作業療法のイメージを具体化する機会となります。また各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気付き、課題の克服に取り組むための4年間の学習の動機づけとします。
到達目標	1.作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2.作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3.作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4.実習初日に指導を受けたことについて、最終日までに改善に取り組む。
授業計画	＜担当教員名＞ 飯田妙子、鈴木達也、藤田さより ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ １．学内オリエンテーション　飯田・鈴木・藤田 実習に向けた準備を行う 実習前の学内オリエンテーションは6月、7月の間に3回予定 ２．実習施設における臨床実習　飯田・鈴木・藤田 体験実習時期は一人5日間　（9月に予定） 体験実習施設は未定 ３．学内セミナー　飯田・鈴木・藤田 実習で学んだ知識や経験、今後の課題等を整理する 学内セミナーは実習終了後の9月中に開催を予定 オリエンテーション、実習時期・実習施設、学内セミナーの詳細は追って連絡する 学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須
アクティブラーニング	実習科目。学内セミナーではグループワーク、プレゼンテーションを実施します。
授業内のICT活用	なし

評価方法	事前課題20%、実習先の評価30%、レポート50% 提出物の未提出や遅延により減点する。 実習の評価、レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバック、 臨床実習中は実習指導者より実習への取り組み、レポートに対するフィードバックを受ける
指定図書	なし
参考図書	矢谷令子：作業療法学概論、医学書院 石川齊、古川宏：図解作業療法技術ガイド、文光堂
事前・事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べること（40分） 事後学修：実習期間中においては自宅にてその日の振り返りを行い、レポートにまとめること（5日分） 実習報告書、学内セミナーの内容等をまとめたレポートを学内セミナー後にWebclassにて提出
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（taeko-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法応用実習
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	2単位数（90時間）　作業必修　　4セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場（病院や施設）にて10日間の見学を中心とした実習を行います。 臨床作業療法基礎実習の経験を踏まえ、各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気付き、課題の克服に取り組むための学習の動機づけとします。 実習期間中には対象者との信頼関係を築き、面接・情報収集を行い評価計画の立案を目標とします。
到達目標	1.作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2.作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3.作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4.実習初日に指導を受けたことについて、最終日までに改善に取り組む。 5. 対象者との信頼関係を築く 6. 対象者との面接を通してニーズを理解する 7. 対象者のニーズを実現するための評価計画を立てることができる
授業計画	＜担当教員名＞ 鈴木達也、伊藤信寿、冨澤涼子、泉良太、中島ともみ、飯田妙子、藤田さより、 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ １．学内オリエンテーション　鈴木 実習前学内オリエンテーションは10月、11月，12月の3回を予定 実習の目的・課題を確認し事前課題に取り組む ２．実習施設における臨床実習　＜担当教員名＞ 全員 実習施設毎に担当教員を設定する 実習時期は一人10日間 10日間中に帰校日を設ける 実習地でオリエンテーションを行い施設概要・ルールを把握し実行する 対象者との信頼関係を築く 対象者1名以上と面接を行い情報収集を行う 対象者1名以上に対しての評価計画を立案する 実習施設は未定.、学内オリエンテーションで報告する ３．学内セミナー　〈担当教員〉 全員 学内セミナーは実習終了から2月下旬までに開催を予定している

	オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する 学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須。
アクティブラーニング	実習科目。学内セミナーではグループ学習、プレゼンテーションを行う
授業内のICT活用	オリエンテーション、学内セミナーでPCを使用します
評価方法	事前課題20%、実習先の評価40%、レポート40%、 提出物の未提出や遅延により減点する。 レポートはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	学内ではレポート、事前課題の取り組みに対するフィードバック 臨床実習中は実習指導者よりフィードバックを受ける
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	矢谷令子：作業療法学概論、医学書院 石川齊、古川宏：図解作業療法技術ガイド、文光堂
事前・事後学修	事前学修：実習前に、実習先の特徴および対象領域について調べておくこと。（40分） 事後学修：実習期間中においては、自宅にてその日の振り返りを行いレポートしてまとめること。（40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時。 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法評価実習
科目責任者	中島　ともみ
単位数他	８単位（360時間）　　作業必修　　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	学内外で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士としての自立するための能力を養う総合的な実習である。 具体的には、①臨床実習へ向けて準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下8 週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、作業療法士として臨床現場で活用できる基盤をつくることの3 本柱で構成される。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。
到達目標	・職業人としての望ましい態度や行動をとることができる ・対象者を理解する為の評価を実施できる ・対象者の全体像を把握できる ・対象者の作業療法計画を立案できる ・記録・報告をすることができる ・管理・運営について理解することができる ・内省を通して、行動の改善を行う事が出来る
授業計画	＜担当教員名＞ 中島ともみ、伊藤 信寿、泉　良太、冨澤涼子､鈴木達也、藤田さより、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞ １　学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する ２　実習施設における臨床実習 １）実習地オリエンテーション ２）担当する対象者に対する作業療法 ３）担当外対象者の作業療法の補助、見学 ４）管理的組織的業務内容の見学・理解 ５）各実習地で提示される課題の遂行 ６）その他 ３　学内セミナー １）学んだことの整理 ２）担当事例（症例）および施設の報告 ３）その他 学内オリエンテーションは、第1回　8月上旬に実施予定 第2回　9月上旬に実施予定 第3回　9月下旬・10月中旬予定

	臨床実習時期は、10月下旬 学内セミナーは、 1月上旬と下旬 臨床実習施設は未定 、追って連絡する。 臨床実習指導者会議は9月第3金曜日実施予定
アクティブラーニング	学内セミナーでは、グループワークを含む。
授業内のICT活用	WebClassにて資料配布を行う
評価方法	臨床実習指導者による最終評価をもとに、学内セミナーにおける報告内容と報告書、およびポートフォリオの内容を考慮して、総合的に判断する。なお実習の成績評価は、実習中の教員訪問や電話などによる確認の中で、指導者・学生・教員の3者の協議も含めて判断する。実習地での到達度評価75%、学内演習（事前準備、事後の振り返り、実習オリエンテーション、実習セミナーを含む）。また、症例報告の達成度の確認には、ルーブリックを用いる.
課題に対するフィードバック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点について内省を促し、確認する
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。（3日程度） 学内で学習するすべての科目のポートフォリオの作成、検査測定手法の復習を必ず行ってください。（2週間程度） 文献による作業療法のエビデンスを確認しておいて下さい。（2週間程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tomomi-n@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法総合実習Ⅰ
科目責任者	泉　良太
単位数他	７単位（315 時間）　作業必修　７セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。 具体的には、①臨床実習への準備をすること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下、7週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。 なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。
到達目標	1.　臨床作業療法評価実習を踏まえ、さらに実践的な臨床能力を養うために1点目を最低限の目標とするが、2点目についてもさらなる発展的な学習機会として経験を積むことが望ましい。 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。
授業計画	＜科目担当教員＞ 泉良太、伊藤信寿、中島ともみ、冨澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞ 1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする。 2. 実習施設における臨床実習 1）実習地オリエンテーション 2）担当する対象者に対する作業療法 3）担当外対象者の作業療法の補助・見学 4）管理的組織的業務内容の見学・理解 5）各実習地で提示される課題の遂行 6）その他 3. 学内セミナー 1）学んだことの整理 2）担当事例（症例）および施設の報告 3）その他 ・臨床作業療法評価実習の経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。

	＊達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	実習科目です。
評価方法	実習指導者による最終評価 75% その他（症例報告書、セミナーでの報告、ポートフォリオ） 25% 計100%
課題に対するフィードバック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導（事例報告指導含む）
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	オリエンテーション時に随時連絡
事前・事後学修	事前学修時間20分以上、事後学修時間20分以上 ・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 ・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床作業療法総合実習Ⅱ
科目責任者	冨澤涼子
単位数他	７単位(315時間)　作業必修　７セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。 具体的には，①臨床実習への準備すること，②それぞれの実習施設において，実習指導者の監督の下7週間作業療法を実施すること，③実習終了後の学内セミナーを通じて，臨床実習で学んだ知識や経験を整理し，将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。 なお，作業療法の技術等の習得にとどまらず，人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる.
到達目標	臨床実習Ⅰ，Ⅱにおける内省を通して，指導者の指導のもと，以下の4点について模倣実施することを目標とする. (1)対象者に対し適切な評価を選択，実施し，目標設定することができる. (2)対象者に対し適切な治療・指導・援助を計画し，実施することができる. (3)作業療法の成果を確認し，必要に応じて作業療法計画を見直し，修正すことができる. (4)記録・報告を適切に行うことができる.
授業計画	＜担当教員＞ 冨澤涼子，伊藤信寿，泉良太，中島ともみ，藤田さより，鈴木達也，飯田妙子 １．学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する ２．実習施設における臨床実習 １）実習地オリエンテーション ２）担当する対象者に対する作業療法 ３）担当外対象者の作業療法の補助，見学 ４）管理的組織的業務内容の見学・理解 ５）各実習地で提示される課題の遂行 ６）その他 ３．学内セミナー １）学んだことの整理 ２）担当事例（症例）および施設の報告 ３）その他 ・臨床実習Ⅰの経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。

	＊達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
アクティブラーニング	実習科目です。 Ⅰ期終了後、Ⅱ期実習までに2週間の期間があるので、その間にⅡ期の振り返りを踏まえ、課題となった点を整理し、Ⅱ期実習に向けた知識・技術確認などの準備を行うことが求められる。
授業内のICT活用	実習科目です。
評価方法	臨床実習指導者による最終評価75% その他（学内セミナー、症例報告書，ポートフォリオ）25%
課題に対するフィードバック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導（事例報告指導を含む）
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修時間20分以上、事後学修時間20分以上 ・ボランティアへの参加等を通して，円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください. ・総合的な学習の場となるため，学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください.
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法学内総合実習
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	１単位（45時間）　作業必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	1.作業療法介入のリーズニングについて説明できる 2.作業療法の介入理論について選択できる 3.対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる 4.評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる
授業計画	担当教員：鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、中島ともみ、冨澤涼子、藤田さより、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　：オリエンテーション　〈担当：鈴木〉 第2回　：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法　〈担当：鈴木〉 第3回　：学内実習1（面接）　〈担当：全教員〉 第4回　：学内実習1（面接）　〈担当：全教員〉 第5回　：学内実習1（面接）　〈担当：全教員〉 第6回　：作業遂行分析の視点とAMPS　〈担当：鈴木〉 第7回　：作業遂行分析の視点とAMPS　〈担当：鈴木〉 第8回　：クリニカルリーズニングと理論選択　〈担当：鈴木〉 第9回　：クリニカルリーズニングと理論選択　〈担当：鈴木〉 第10回：学内実習２（作業遂行観察と評価）　〈担当：全教員〉 第11回：学内実習２（作業遂行観察と評価）　〈担当：全教員〉 第12回：学内実習２（作業遂行観察と評価）　〈担当：全教員〉 第13回：介入方法の選択とエビデンス　〈担当：鈴木〉 第14回：介入方法の選択とエビデンス　〈担当：鈴木〉 第15回：学内実習３〈プログラム立案と介入〉　〈担当：全教員〉 第16回：学内実習３〈プログラム立案と介入〉　〈担当：全教員〉 第17回：　学内実習３〈プログラム立案と介入〉　〈担当：全教員〉 第18回：　評価結果の解釈　〈担当：鈴木〉 第19回：作業療法実践と目標設定　〈担当：友利幸之介、澤田辰徳〉 第20回：事例報告のまとめかた　〈担当：全教員〉 第21回：事例検討　担当：全教員〉 第22回：事例検討　〈担当：全教員〉 第23回：作業療法実践の実際　〈担当：鈴木〉

アクティブラーニング	グループワーク学習・学内実習 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
授業内のICT活用	PCを用いて文献収集やプレゼンテーションソフトを用いた事例報告会を行います
評価方法	レポート５０％、ポートフォリオ５０％ ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する ・ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	齋藤佑樹：作業で語る事例集,医学書院 吉川ひろみ：COPM・AMPSスターティングガイド、医学書院
参考図書	澤田辰徳：作業で結ぶマネジメント,医学書院 吉川ひろみ・齋藤さわ子：COPM・AMPS実践ガイド、医学書院 石川齊：作業療法実践ガイド、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行うこと（120分＝3回分を要する） ・事例報告書のレポートを作成する（120分＝3回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　　研究室：3511研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法学内総合実習Ⅰ
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	１単位（45時間）　作業必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	1.作業療法介入のリーズニングについて説明できる 2.作業療法の介入理論について選択できる 3.対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる 4.評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる
授業計画	担当教員：鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、中島ともみ、冨澤涼子、藤田さより、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　：オリエンテーション　〈担当：鈴木〉 第2回　：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法　〈担当：鈴木〉 第3回　：学内実習1（面接）　〈担当：全教員〉 第4回　：学内実習1（面接）　〈担当：全教員〉 第5回　：学内実習1（面接）　〈担当：全教員〉 第6回　：作業遂行分析の視点とAMPS　〈担当：鈴木〉 第7回　：作業遂行分析の視点とAMPS　〈担当：鈴木〉 第8回　：クリニカルリーズニングと理論選択　〈担当：鈴木〉 第9回　：クリニカルリーズニングと理論選択　〈担当：鈴木〉 第10回：学内実習２（作業遂行観察と評価）　〈担当：全教員〉 第11回：学内実習２（作業遂行観察と評価）　〈担当：全教員〉 第12回：学内実習２（作業遂行観察と評価）　〈担当：全教員〉 第13回：介入方法の選択とエビデンス　〈担当：鈴木〉 第14回：介入方法の選択とエビデンス　〈担当：鈴木〉 第15回：学内実習３〈プログラム立案と介入〉　〈担当：全教員〉 第16回：学内実習３〈プログラム立案と介入〉　〈担当：全教員〉 第17回：　学内実習３〈プログラム立案と介入〉　〈担当：全教員〉 第18回：　評価結果の解釈　〈担当：鈴木〉 第19回：作業療法実践と目標設定　〈担当：友利幸之介、澤田辰徳〉 第20回：事例報告のまとめかた　〈担当：全教員〉 第21回：事例検討　〈担当：全教員〉

	第22回：事例検討　〈担当：全教員〉 第23回：作業療法実践の実際　〈担当：鈴木〉
アクティブラーニング	グループワーク学習・学内実習 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
授業内のICT活用	PCを用いて文献収集やプレゼンテーションソフトを用いた事例報告会を行います
評価方法	レポート５０％、ポートフォリオ５０％ ・レポート・ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する ・ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	齋藤佑樹：作業で語る事例集,医学書院 吉川ひろみ：COPM・AMPSスターティングガイド、医学書院
参考図書	澤田辰徳：作業で結ぶマネジメント,医学書院 吉川ひろみ・齋藤さわ子：COPM・AMPS実践ガイド、医学書院 石川齊：作業療法実践ガイド、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行うこと（120分＝3回分を要する） ・事例報告書のレポートを作成する（120分＝3回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　研究室：3511研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法学内総合実習Ⅱ
科目責任者	冨澤　涼子
単位数他	１単位（45時間）　作業必修　８セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでの臨床実習Ⅰ、Ⅱを踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。それにより、作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士としての自立するための能力を養う総合的な実習である。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。
到達目標	臨床実習Ⅰ，Ⅱでの学びを踏まえた上で、以下の5点について模倣実施することを目標とする ・将来作業療法士となる者として、良きマナーを身につけ、適切な状況判断ができる ・演習協力者の評価を適切に行うことができる ・演習協力者の全体像を把握できる ・演習協力者の作業療法計画を立案できる ・内省を通して、実践の改善を行うことができる
授業計画	＜担当教員＞ 冨澤涼子、伊藤信寿、泉良太、中島ともみ、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　：オリエンテーション　冨澤涼子 第2～5回：情意領域に焦点を当てたグループ学習・演習　全教員 第6～9回：認知領域に焦点を当てたグループ学習・演習　全教員 第10～13回：精神運動領域に焦点を当てたグループ学習・演習　全教員 第14～16回：学内演習Ⅰ　全教員 第17～19回：学内演習Ⅱ　全教員 臨床作業療法実習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を情意、認知、精神運動領域ごとに学びを共有し合いながら整理していく。それを踏まえ、学内演習を実施する。 第20～23回：知識到達度確認　全教員 紙面上での模擬患者により、疾患に対する基本的知識、作業療法評価や介入手法について確認する。
アクティブラーニング	グループワーク学習・学内実習・web教材の活用
授業内のICT活用	Web教材を活用しながら授業を展開します。

評価方法	実技試験35% レポート30% 知識確認テスト35% ※実技試験、レポートはルーブリックを用いて評価する
課題に対するフィードバック	レポートのコメント・返却
指定図書	なし
参考図書	石川齊：作業療法実践ガイド、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間40分、事後学修時間40分 ・これまでに学んだ作業療法の一連の流れを復習しましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部　　研究室：3518研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床マネジメント論
科目責任者	伊藤信寿
単位数他	1単位（30時間）　作業必修　8セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	4年間の総まとめとして、獲得した知識・技能の整理と統合をはかり不足している知識を補完する。また作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、運営等について学び、臨床実践に備える。また、実習で作成したレポート等を活用し、MTDLPに関する理解を深める。 国家試験に向けて自分に合った勉強方法や対策を確認する。
到達目標	(1)作業療法の実践に必要な制度，組織，管理・運営等を理解することができる。 (2)様々な分野における作業療法の実践を理解することができる。 (3)MTDLPについて理解し，概要を説明することができる。 (4)国家試験の自分に合った勉強方法を獲得し、模擬試験で合格ラインへ到達する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　オリエンテーション　伊藤 第2,3回　組織，管理運営について　鈴木 第4,5回　教育について　鈴木 第6,7回　地域生活支援について　宮崎宏興 第8,9回　生活行為マネジメントについて（概論2コマ）　泉・鈴木 第10,11回　生活行為マネジメントについて（演習2コマ）　泉・鈴木 第12,13回　国家試験対策講義　藤田・伊藤 第14,15回　国家試験対策講義　藤田・伊藤 授業計画：第2回から第15回までは，各回　80分×2コマで連続
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。
評価方法	各授業後におけるレポート（50%），国家試験模擬テスト（小テスト）の結果（50%） レポートで評価するが、ルーブリックは用いない
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント、リアクションペーパーの質問に対して解説する
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する（20分） 事後学修：授業で学んだことをまとめる（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	作業療法教育マネジメント論
科目責任者	伊藤信寿
単位数他	2単位（30時間）　作業必修　8セメスター
DP番号と科目領域	DP(6)　専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	4年間の総まとめとして、獲得した知識・技能の整理と統合をはかり不足している知識を補完する。また作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、運営等について学び、臨床実践に備える。また、実習で作成したレポート等を活用し、MTDLPに関する理解を深める。 国家試験に向けて自分に合った勉強方法や対策を確認する。
到達目標	(1)作業療法の実践に必要な制度，組織，管理・運営等を理解することができる。 (2)様々な分野における作業療法の実践を理解することができる。 (3)MTDLPについて理解し，概要を説明することができる。 (4)国家試験の自分に合った勉強方法を獲得し、模擬試験で合格ラインへ到達する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　オリエンテーション　伊藤 第2,3回　組織，管理運営について　鈴木 第4,5回　教育について　鈴木 第6,7回　地域生活支援について　宮崎宏興 第8,9回　生活行為マネジメントについて（概論2コマ）　泉・鈴木 第10,11回　生活行為マネジメントについて（演習2コマ）　泉・鈴木 第12,13回　国家試験対策講義　藤田・伊藤 第14,15回　国家試験対策講義　藤田・伊藤 授業計画：第2回から第15回までは，各回　80分×2コマで連続
アクティブラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

授業内のICT活用	PCを用いたプレゼンテーションを行います。
評価方法	各授業後におけるレポート（50%），国家試験模擬テスト（小テスト）の結果（50%） レポートで評価するが、ルーブリックは用いない
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント、リアクションペーパーの質問に対して解説する
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する（20分） 事後学修：授業で学んだことをまとめる（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は作業療法の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	卒業研究
科目責任者	鈴木　達也
単位数他	２単位（60 時間）　作業必修　８セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することがで きる。
科目概要	４年間の専門的な授業や臨床実習を通して、疑問に思ったことや調べたいことを研究テーマとして、その疑問を解決する研究方法を学習し実施する。各担当教員のもと、研究課題の立案、研究課題の立案、研究方法の確立・実施、研究課題の考察を深め、発表及び論文作成を行う。
到達目標	1.研究疑問を明確にすることが出来る 2.研究疑問に対して解決する方法を期日までに実施する事が出来る。 3.研究結果をまとめることが出来る 4.研究結果を発表する事が出来る
授業計画	＜担当教員名＞ 鈴木達也、伊藤信寿、泉良太、中島ともみ、冨澤涼子､藤田さより,飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞ 研究疑問の設定 文献レビュー 研究目的と研究テーマの明確化 研究方法の決定 研究計画の作成 研究実施 研究分析 考察 論文執筆 発表用プレゼンテーションの作成 口頭発表（発表7 分 質疑3 分） 卒業論文提出 11 月上旬（予定） 卒業論文発表 11 月中旬（予定）　１～3 年生参加
アクティブラーニング	グループ学修、ピアインストラクション、フィールドワーク等のいずれかをゼミ単位で実践
授業内のICT活用	執筆、分析にPCが必要になります 発表はプロジェクターをいた報告会を行います

評価方法	研究論文70%、研究への取り組み20%、口頭発表10%
課題に対するフィードバック	研究への取り組み、発表内容に関しての指導教員からのコメントを行う
指定図書	竹田徳則・大浦智子編集：作業療法研究法．医歯薬出版，東京，2017.
参考図書	友利幸之介・京極真・竹林崇：作業で創るエビデンス．医学書院，　2019
事前・事後学修	自らの関心領域に関する文献を収集し、熟読，文献リストを作成すること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511研究室 時間等：月、木、金曜日3限目、17時~18時 上記以外でもメール（tatsuya-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際作業療法実習
科目責任者	冨澤　涼子
単位数他	２単位数（90時間）　作業選択　６セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国内で学修した作業療法の基礎知識を土台に、海外のリハビリテーション関連施設での作業療法の実践に触れる実習である。作業療法士を目指す学生として、国際的な視野に立った視点の形成と、それに基づく新たな自己課題の発見および目標設定の機会とする。 国内での教員の指導に加え、現地での教員による指導、作業療法関連スタッフの指導により実施する。
到達目標	・実習国のリハビリテーションの現状、作業療法士の役割について理解できる ・国際的な視野に立ち、作業療法士を目指す自己の課題を発見できる
授業計画	＜担当教員名＞冨澤涼子、鈴木達也 ※現地での指導は、現地教員および、実習受入施設作業療法教員が行う。 ＜実習期間・人数＞ 実施期間：2021年2月上旬3月上旬までの間で2週間 対象人数：2名の予定 ・学内オリエンテーション 実習前学内オリエンテーションは12月頃から週1回行う ・臨床実習 1週目　現地オリエンテーション、臨床実習施設にて実習 2週目　臨床実習施設にて実習 ・帰国後学内セミナー 　実習の学びを報告する オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する
アクティブラーニング	本科目は実習科目です。事前研修は事前課題、ロールプレイ、プレゼンテーションを行います
授業内のICT活用	ICT機器を利用しながら双方向型の事前研修を実施します。

評価方法	・Learning Contractの内容80% ・提出レポート　　20%
課題に対するフィードバック	臨床実習施設にてフィードバックを受ける。帰国後にその記録を担当教員に提出し、フィードバックを受ける。
指定図書	なし
参考図書	菊池恵美子、山松ひさえ、吉川ひろみ：英語で学ぶ作業療法、シービーアール
事前・事後学修	事前学修（15時間） ・Leaning Contract(学習目的、方法)の作成指導 ・渡航・現地生活に関する指導・英会話講習（国際交流センター職員による） 事後学修　（15時間） ・帰国後はレポート（A4サイズ2～3ページ）と感想を提出し、教員の指導を受ける
オープンエデュケーションの活用	外務省　https://www.mofa.go.jp/mofaj/
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518研究室 時間等：毎週水曜日　12時～13時。 上記以外でもメール（ryoko-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	レクリエーション演習
科目責任者	泉　良太
単位数他	１単位（ 30時間 ）　作業選択　４セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	1.様々な領域で用いられるレクリエーションを体験・企画し、その身体的・心理的効果を学修する。 2.パラリンピック競技を体験し、余暇活動でもあるスポーツ面からの障害体験をする。 3.発達障害領域における治療法のひとつである感覚統合療法について理論、方法等について学修する。さらに、様々な対象グループに適応した感覚統合療法の企画から準備を行い、実際に対象児・者に対する指導を体験することにより、導入から感覚統合療法実施の実際を学修する。
到達目標	1.レクリエーションを企画することができる。 2.レクリエーションによる身体的・心理的効果について説明ができる。 3.スポーツ面から障害児・者の理解ができる。 4.感覚統合療法を実施する対象児・者の理解ができる。 5.対象児・者に適した感覚統合療法の企画と準備ができる。
授業計画	＜科目担当教員＞泉良太、伊藤信寿 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第1回　：オリエンテーション　泉　良太 第2回　：レクリエーションについて　泉　良太 第3回　：レクリエーションの体験　泉　良太 第4回　：レクリエーションの企画　泉　良太 第5回　：レクリエーションの発表　泉　良太 第6回　：レクリエーションの発表　泉　良太 第7回　：パラリンピックについて　泉　良太 第8回　：パラリンピック競技の体験　泉　良太 第9回　：感覚統合療法について　伊藤信寿 第10回：遊具で遊ぶ体験　伊藤信寿 第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画　伊藤信寿

	第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画　伊藤信寿 第13回：手づくり遊びの発表　伊藤信寿 第14回：手づくり遊びの発表　伊藤信寿 第15回：まとめ　泉　良太
アクティブラーニング	グループ学修、体験学習 演習科目です
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示、課題のフィードバックを実施します
評価方法	レポート40%、課題に対する取り組み30%、発表30%、計100% 評価にルーブリックは使用しない
課題に対するフィードバック	レポート・発表・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修時間20分、事後学修時間20分 ・解剖学（特に感覚）・運動学について復習しておくこと。 ・レクリエーション、感覚、発達障害についてまとめること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	絵画療法
科目責任者	中道　芳美
単位数他	１単位（30時間）　作業選択　１セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	絵を描くことで、身体の諸機能への働きかけ、残存機能の維持と回復を促すことを知る。創造的な治療方法として、精神のリラックス効果、QOLの向上、心のケアを促すことを学ぶ。絵画による表現活動が人間に与える身体的、精神的、心理的、社会的な影響や効果について理解する。
到達目標	1. 絵画を通して、自己表現や他者との関わりを学ぶ。 2. 絵画制作の実技を通して、表現技術を学ぶ。（学生各自の実習体験） 3. 他者への共感的態度をもち、豊かな対人関係を築いて、チーム医療の実践ができる能力を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞中道　芳美 第1回：ガイダンス、知的障害児者、心身障害児者、高齢者(認知症含)作品紹介、世界の画家たち紹介（障害者含む） 第2回：実技体験、クレヨン、水彩絵の具の使い方表現、方法を学ぶ 第3回：実技体験、模写 第4回：実技体験、自分の作品を描く 第5回：実技、自分の作品を仕上げる、継続する大切さを学ぶ 第6回：　共同制作に取り組む、グループに分かれて話し合う 第7回：共同制作作品のテーマに合う画材を学ぶ。世界の画家作品を参考とする。 第8回：春の花の共同制作 第9回：夏の花の共同制作 第10回：行事用の共同制作 第11回：右ききの人は左手で描くということ…実技体験 第12回：残存機能の維持と回復を促す体験実技 第13回：精神的影響、リラックス効果の体験実技 第14回：絵てがみを描く、小さな画用紙使用 第15回：作品完成、全体評価
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし

評価方法	実技・課題提出物30%、授業態度50%、レポート20%
課題に対するフィードバック	なし
指定図書	なし
参考図書	世界の画家作品（画集等）、講師が用意する。
事前・事後学修	なし
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「絵画講師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発展的作業療法学
科目責任者	泉　良太
単位数他	１単位（15 時間）　作業選択　８セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	作業療法領域における最近の研究内容を調べ、臨床実習で学修した知識および理論との統合を行う。また、最新の作業療法についてその方法と根拠について理解を深め、実際の対象者に合わせた作業療法が提供できるようにする。
到達目標	1.各領域の最近の研究内容について説明できる。 2.最新の作業療法の方法と根拠について列挙できる。
授業計画	＜科目担当教員＞ 泉良太、伊藤信寿、中島ともみ、冨澤涼子、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回　：　身体領域作業療法における最近の研究内容について　泉　良太 第2回　：　精神領域作業療法における最近の研究内容について　飯田妙子 第3回　：　地域作業療法における最近の研究内容について　冨澤涼子 第4回　：　発達領域における最近の研究内容について　伊藤信寿 第5回　：　就労支援における最近の研究内容について　藤田さより 第6回　：　高齢期作業療法における最近の研究内容について　鈴木達也 第7回　：　身体領域作業療法における最近の研究内容について（運動器系）中島ともみ 第8回　：　まとめ　泉　良太 ＊全ての回において、事前の文献抄読を必須とします.
アクティブラーニング	グループ学修を実施します.
授業内のICT活用	ICT機器を利用して資料提示を実施します.

評価方法	レポート（文献抄読）50%、定期試験50%、計100%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	竹田徳則（編）：作業療法研究法、医歯薬出版、2017
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修時間20分以上：文献抄読を行う。 事後学修時間20分以上：講義内容で興味をもった文献の抄読を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。
実務経験に関する記述	本科目は「作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚解剖学
科目責任者	顧　寿智
単位数他	２単位（30時間）　　言語必修　　4セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーションの専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に習得している。
科目概要	言語聴学解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系、嚥下発声、聴覚平衡感学などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	神経系の構成と主な機能を述べることができる。 嚥下発声の構造と機能を述べることができる。 聴覚と平衡感覚器の構造と機能を述べることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞顧　寿智 第 1回：神経系の概観、神経組織 第 2回：神経系の発生、脊髄 第 3回：脊髄神経、髄膜と脳室系 第 4回：脳幹 第 5回：間脳、小脳、大脳 第 6回：伝導路、脳神経 第 7回：解剖実験、 第 8回：自律神経系 第 9回：まとめ、中間テスト 第 10回：咽頭、喉頭 第 11回：咽頭、喉頭 第 12回：咽頭、喉頭 第 13回：聴覚と平衡感覚 第 14回：まとめ、中間テスト 第 15回：総まとめ

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習、実習見学などを取り入れて実施する。
授業内のICT活用	本授業は、WebClass ・タブレットアプリ(Visible Body など) ・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	期末試験（７０％）、中間テスト（２０％）、小間テスト（１０％）を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ　人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
参考図書	相磯貞和訳『ネッター　解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（１コマ当たり約４０分以上）
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」の受講を勧める。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404研究室 時間等：毎週火曜日　12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	耳鼻咽喉科学
科目責任者	香取　幸夫
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	高齢社会の訪れにともない、音声言語、聴覚、嚥下の機能に障害のある患者さんに対する治療の需要は増しており、言語聴覚士が専門の職種として治療に携わり社会貢献することが求められている。本授業の目的はこれらの障害に関係する耳鼻咽喉科疾患の病態と検査法を理解し、さらにこの領域のリハビリテーションの必要性と基礎知識を学ぶことにある。
到達目標	1.頭頸部領域の解剖と生理を理解する。 2.難聴、嚥下障害ならびに音声障害の病態を理解する。 3.耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患について、その病態を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：聴覚と平衡（聴こえとバランスのしくみ）　香取幸夫 第 2 回：耳科疾患　香取幸夫 第 3 回：顔面神経麻痺　香取幸夫 第 4 回：唾液腺　香取幸夫 第 5 回：副鼻腔炎と嗅覚障害　香取幸夫 第 6 回：アレルギー性鼻炎　香取幸夫 第 7 回：口腔・咽頭の解剖と生理　香取幸夫 第 8 回：口腔・咽頭の疾患　香取幸夫 第 9 回：喉頭・気管の解剖と生理　香取幸夫 第10回：喉頭の疾患　香取幸夫 第11回：音声生成のしくみ、音声改善の治療　香取幸夫 第12回：嚥下のしくみ　香取幸夫 第13回：嚥下障害の診断と治療　香取幸夫 第14回：頭頸部腫瘍　香取幸夫 第15回：耳鼻咽喉科・言語聴覚士と社会医療　香取幸夫
アクティブラーニング	グループ学修を行います。
授業内のICT活用	第15回で、耳鼻咽喉科疾患のコミュニケーションに及ぼす問題点、ならびに耳鼻咽喉科と言語聴覚士の関わりについて、グループを作ってあらかじめ準備してもらった発表をプロジェクターを用いて行います。

評価方法	定期試験100％ ただし、 第15回での発表内容を試験評価の一部とします。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いてフィードバックします。 必要に応じて講義の中で適宜フィードバックします。
指定図書	「言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学　第2版　編集：鳥山　稔／田内　光（医学書院）」
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	事前学修：次回の講義内容のキーワードを学修してください。 事後学修：配布資料を再度見直して、重要事項をマイノートに記載してください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床神経学
科目責任者	大橋寿彦
単位数他	１単位数（15時間）　言語必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	リハビリテーションを実践するうえで、身体障害の原因となる神経系疾患について病態生理、診断や治療の知識を身につける。本講義では神経系の解剖、生理、機能については別講義に譲り主に疾患について学ぶ。
到達目標	１．神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる ２．神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する ３．神経系の疾患の診断検査技術について理解する ４．疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 1.　脳血管障害　大橋 2.　運動神経疾患　大橋 3.　パーキンソン症候群　内山 4.　認知症　大橋 5.　脱髄疾患　佐藤 6.　電気生理　大橋 7.　末梢神経障害　佐藤 8.　筋疾患、内科との関連疾患　内山
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験100％
課題に対するフィードバック	授業のなかで質問に対し回答する。
指定図書	なし
参考図書	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学』医学書院
事前・事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	形成外科学
科目責任者	三浦　隆男
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	形成外科とは「体表に近い部位の修復・再建を担当する外科」で、組織の欠損や変形などの「疾患」を対象とする【再建外科】と、疾患とまでは言えない変化ながら、ご本人が大変気にされているため、希望に沿って改善させる【美容外科】の２つの領域があります。いづれも、手術などによって、患者様の生活の質を上げたり、満足度を向上させることを目指しています。
到達目標	以下の項目等を学び、言語聴覚士の形成外科関連症例に対するかかわりについて理解する。 1.皮膚の解剖と整理 2.遊離植皮と皮弁の相違 3.創傷治癒過程について 4.口唇顎口蓋裂 5.鼻咽腔閉鎖機能不全の診断と治療 6.頭頸部癌摘出後の再建
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　三浦　隆男 第 1 回：　形成外科学総論 第 2 回：皮膚の解剖と生理、創傷治癒 第 3 回：　組織移植（1） 第 4 回：　組織移植（2） 第 5 回：口唇裂・口蓋裂（1） 第 6 回：口唇裂・口蓋裂（2） 第 7 回：頭頸部癌摘出後の再建（1） 第 8 回：頭頸部癌摘出後の再建（2）
アクティブラーニング	毎回リアクションペーパーを用いて、講義の中での疑問や感想を学生自身が考えるようにしている。学生へ質問するなど、双方向の授業展開をしている。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験100％

課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーによる質問等には、口頭で回答している。
指定図書	『言語聴覚療法シリーズ　8　器質性構音障害』斉藤裕恵編著、建帛社
参考図書	なし
事前・事後学修	復習プリントなどで、講義内容のポイントをまとめておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学
科目責任者	梅田慈子
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
到達目標	1.顎口腔領域の発生・構造・疾患について理解する。 2.言語障害に関係ある歯科疾患について理解する。 3.言語障害への歯科的対応について理解する。 4.口腔ケアについて理解する。 5.加齢による口腔機能の低下について理解する。
科目概要	口から食べて健康を維持増進することが、この時代における人々の望みであり、かつ歯科医療の大きな役割である。皆さんは一般的な歯科医療に関わる訳ではない。しかし顎・顔面・口腔の構造、機能、疾病の治療の概要はもとより、摂食嚥下障害に関連した歯科学や口腔ケアに関する知識は将来必ず役に立つであろう。食生活は健康を支える大きな柱である。食物の入り口としての口腔の機能について理解することが大切である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：ガイダンスと口腔の基本構造　片倉伸郎 第 2回：口腔の発生と発育障害　片倉伸郎 第 3回：口腔の機能としての咀嚼、構音　片倉伸郎 第 4回：口腔の疾患と機能障害　片倉伸郎 第 5回：顎関節とその疾患　唾液腺とその疾患　片倉伸郎 第 6回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法　隅田由香 第 7回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損　隅田由香 第 8回：歯科疾患について　福永暁子 第 9回：高齢者と歯科、口腔ケアについて　福永暁子 第10回：摂食嚥下障害と歯科　鴨田勇司 第11回：中枢神経系による口腔機能障害　鴨田勇司 第12回：リハビリテーションと歯科　梅田慈子 第13回：実習　梅田慈子 第14回：実習　梅田慈子 第15回：実習　梅田慈子
アクティブラーニング	口蓋床を用いたパラトグラムの実習
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験100％

課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『言語聴覚士に必要な歯科の知識』植松宏 監修、インテルナ出版
参考図書	授業中に紹介する。
事前・事後学修	講義内容については各講師の初回授業時に紹介し、課題や事前学習についてはその都度提示する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「歯科医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態
科目責任者	柴本　勇
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	呼吸・発声・発語に関わる器官の解剖と生理を学習し、正常な発話メカニズムを理解する。呼吸は音声を発する原動力となり、喉頭は発声機能をつかさどり、その上部の声道(咽頭・口腔・鼻腔)の形態が言語音の共鳴の変化をもたらし、口唇・舌・下顎などの運動が様々な音の産生をもたらす。こうした正常な機能を理解することは、2年次から学ぶ音声障害、構音障害、嚥下障害などの病態を把握し、適切な治療計画を考慮する基盤となる。
到達目標	１．呼吸器系の解剖生理および病態について説明できる。（30%） ２．喉頭の解剖生理および病態について説明できる。（35%） ３．構音器官の解剖生理および病態について説明できる。（35%）
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動　柴本　勇 第 2回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態　柴本　勇 第 3回：喉頭の基本構造　金沢英哲 第 4回：喉頭の病態、喉頭機能検査（内視鏡、ストロボスコピーなど）　金沢英哲 第 5回：喉頭の機能（発声時の喉頭調節）、音声機能の評価　柴本　勇 第 6回：構音器官の基本構造　佐藤豊展 第 7回：構音器官の検査・病態　佐藤豊展 第 8回：構音障害の臨床　佐藤豊展
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、演習、ディスカッションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	・ICT機器を利用して授業内で臨床映像や音声等を閲覧しながら行う演習を取り入れて行います。
評価方法	定期試験65%　小テスト15%　事前レポート10%　事後レポート10% ※達成度はルーブリックに基づいて確認します ※定期試験は、到達目標の割合で出題します。
課題に対するフィードバック	小テストについては、次の授業で返却して解説します。
指定図書	藤田郁代・熊倉勇美・今井智子　「標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第2版」 医学書院
参考図書	なし

事前・ 事後学修	・解剖・生理は、専門科目の基礎になります。毎時限の知識を確実にしていくため、予習・復習を行いましょう。 ・小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。復習する習慣をつけましょう。 ・毎回の授業ではWebclassを活用して事前学修と事後学修を行います。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3408研究室、時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士，医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚系の構造・機能・病態
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	人間が音を聞く仕組みについて、聴器の構造と機能に基づいて理解し、そこに障害（難聴）が生じた場合、どのように聞こえに影響が及ぼされるのか学修する。
到達目標	聴器の解剖学的構造と各器官の機能の理解に基づいて、以下の項目について説明できる。 ①人間が音を聞いて知覚するまでの経路と仕組み。 ②伝音性、内耳性、後迷路性の難聴の種類・特性と障害部位の関連。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　大原重洋 第 1回：シラバス説明・聴力と聞こえの仕組みの概要 第 2 回：難聴の種類と障害部位、聴覚検査 第 3 回：聴器の構造と機能：外耳、両耳聴と方向感 第 4 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳① 第 5 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳② 第 6 回：聴器の構造と機能：中枢聴覚路 第 7 回：内耳模型を作る① 第 8 回：内耳模型を作る②
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や聴器の模型製作を行い、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験80%、小テスト20%
課題に対するフィードバック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	『耳鼻咽喉科学』鳥山実編、医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	神経系の構造・機能・病態
科目責任者	佐藤　順子（リハビリテーション学部）
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	言語聴覚機能に欠かせない認知や判断、それに伴う反応は脳を含めた神経系の機能と複雑なメカニズムによって行われる。本講義では言語聴覚療法を行うにあたり、その基礎となる神経系の構造と機能、ならびにその障害における病態について学ぶ。 講義では、神経系の構造は模型や図を使って部位を確認する。機能や病態についてはグループワークで自ら調べて理解し、他者にも説明できるようにする。さらに、臨床現場で関わる疾患についてグループワークで神経とのメカニズムと病態を学修する。
到達目標	1. 脳・神経系の構造と機能が理解できるようになる。 2. 脳のある部位が損傷されることによって、どのような障害が現れるのか理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回～第 4 回：①オリエンテーション（事前に DVD を視聴し全体像を把握する） ②神経系の全体像と大脳の構造　（脳の模型を用いて部位を確認） ③大脳と神経の機能と病態（グループごとに参考文献をみてまとめる） 佐藤順子 第5 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説　佐藤順子 第6 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表と解説　佐藤順子 第7 回：辺縁系・間脳・脳幹・小脳の機能と病態 グループ発表と解説　佐藤順子 第8 回：まとめ　佐藤順子 1.　大脳全体(P16-17)： 2.　前頭葉（P20-23）： 3.　後頭葉(P24-25)： 4.　側頭葉（P26-27）： 5.　頭頂葉（P28-33）： 6.　大脳辺縁系(P34-36)： 7.　大脳基底核・間脳(P37-39)： 8.　脳幹(P40-41,212)： 9.　小脳(P42-43)： 10. 脳動脈(P56,58)：

アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	定期試験（７０％）確認テスト（２０％）発表（１０％）
課題に対するフィードバック	確認テストについては、各自で採点してもらいます。 発表時に解説し、リアクションペーパーにまとめと質問を書いて提出してもらいます。
指定図書	『病気がみえる　VOL.7 脳・神経』医療情報科学研究所編集メディックメディア
参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学修〕 重要事項をWebclassにアップするのでテキストを参考に予習すること。 〔事後学修〕 授業の内容を復習し、小テストを各自で実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰　伸治
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	１．言語聴覚士に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 ２．１の知識を得ることで、これまでにどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達的観点から自分や他者を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞長峰伸治 第 1回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」 第 2回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成） 第 3回： 乳児期の発達（基本的信頼感） 第 4回： 幼児期前半の発達１（第1次反抗期、言語能力の発達） 第 5回： 幼児期前半の発達２（自律性、トイレットトレーニング） 第 6回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達） 第 7回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ） 第 8回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係） 第 9回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成） 第10回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達） 第11回： 中年期の発達１（中年期危機） 第12回： 中年期の発達２（アイデンティティの再体制化） 第13回： 高齢期の発達（エイジング） 第14回： 発達障害の理解と支援１（学習障害、注意欠如多動性障害） 第15回： 発達障害の理解と支援２（自閉スペクトラム症）
アクティブラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。
授業内のICT活用	クリッカーを使って授業内での理解度確認などを行う双方向型授業を実施します。

評価方法	定期試験７０％，授業への取り組み状況３０％(リアクションペーパー、WebClassでの事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、WebClassでの事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2～3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。また、WebClassでの事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。WebClassでの事後課題は5～13回目の間に6回出す予定。
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	長峰伸治（看護学部）1708研究室　shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。質問は、授業時はもちろん、直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	なし。

科目名	認知心理学
科目責任者	岩渕　俊樹
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	私たちは常に環境からの情報を受け取ったり、逆に環境に対して働きかけたりしながら生きています。認知心理学とは、このような時に私たちの脳と心がどのように働いているかを研究する学問です。この講義では、ことば、記憶、思考など、環境との相互作用の中から生じる心の働き、すなわち認知の仕組みについて学びます。ヒトの認知について知ることは、さまざまな神経疾患・精神疾患のメカニズムを知る上でも基礎となります。
到達目標	1. 生体の「認知のしくみ」を学ぶ。 2. 人の認知過程や特徴について説明できる用語を習得する。 3. 種々の臨床症状の背後にどのような認知的メカニズムがあるか考察できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞岩渕　俊樹 第 1回：認知心理学とは（オリエンテーション） 第 2回：感覚・知覚・認知（1） 第 3回：感覚・知覚・認知（2） 第 4回：感覚・知覚・認知（3） 第 5回：記憶 第 6回：言語と思考（1） 第 7回：言語と思考（2） 第 8回：自己と他者
アクティブラーニング	各回とも主に配布資料を用いながら講義形式で行いますが、「認知のしくみ」を実際に体験し、それについて考えてもらう時間を設けます。
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験60%、リアクションペーパー20%、小テストまたは課題20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問への回答や授業中の小テストの解説などは、次回講義時もしくは資料配布などにより適時行います。
指定図書	なし
参考図書	『言語聴覚士テキスト』(医歯薬出版／廣瀬肇　監修、岩田誠・小川郁　ほか編) 『認知心理学(New Liberal Arts Selection)』（有斐閣／箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋　著)
事前・事後学修	各回のキーワードをまとめ、知識を整理する事後学修を行ってください。理解を深めるために小テストまたは課題を課す場合があります。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	学習心理学
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	私たちの日常行動は多くの学習によって支えられています。ここでいう学習とは、ヒトや動物が経験を通して、行動の方法や考え方、知識や技能を身につけていくことをいいます。学習心理学は、人間を理解する上で欠かせない基礎的な心理学になります。この科目ではヒトや動物が新しい行動を身に付けていくときに、どのようなことが起こっているのか行動のメカニズムについて紹介します。これら学習心理学で明らかにされてきた知見は、医療・教育・福祉など、多くの分野に応用されています。
到達目標	1. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、行動随伴性について説明できる。 2. 日常的な行動（言語行動を含めて）について、学習心理学の基礎知識をもとに説明する。 3. 言語聴覚療法の臨床場面を取り上げ、学習心理学の観点から考察する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞中村哲也 第1回：オリエンテーション、「学習」とは 第2回：古典的条件づけ 第3回：オペラント条件づけⅠ 第4回：オペラント条件づけⅡ 第5回：社会的学習・動機付け・技能学習 第6回：思考（問題解決、推論、発見、概念形成） 第７回：記憶Ⅰ（記憶の過程、短期記憶、長期記憶） 第8回：記憶Ⅱ（記憶の神経学的基盤、神経心理検査）
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	なし

評価方法	小テスト　20%、定期試験　80%、計　100％
課題に対するフィードバック	小テストは次週までに返却し、フィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	山田弘幸 編著、言語聴覚士のための心理学、医師薬出版 篠原彰一、学習心理学への招待、サイエンス社 ジェームズEメイザー、メイザーの学習と行動、二瓶社
事前・事後学修	事前にレジュメを配布しますので、授業内容にあたる部分を読んでおきましょう。 小テストを実施しますので、しっかりと復習しておきましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」「公認心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	心理測定法
科目責任者	高橋　晃
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語聴覚士国家資格試験に出題される「心理測定法」分野について講義・演習・実験などを通じて学習する。 必要に応じて他の心理学分野の知識（感覚知覚心理・臨床心理・実験心理など）についても触れる。
到達目標	1.目に見えない「心」の測定の原理を理解できるようになる 2.さまざまな心理測定技法の特性を理解し，実践できるようになる 3.言語聴覚士国家試験問題に適切に解答できるようになる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　高橋　晃 第 1回：「心理測定法」分野の概要 / 感覚知覚概要 本分野の概要と国家試験の性質について概説する また感覚・知覚分野の必須用語を解説する 第 2回：精神物理学的測定法(1) 精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験を行なう 第 3回：精神物理学的測定法(2) 精神物理学的測定法として「マグニチュード推定法」の簡易実験を行なう 第 4回：知能・性格の測定 心理測定としての「知能検査」「性格検査」とその歴史・手法を学ぶ また態度測定の準備を行なう 第 5回：態度の測定 態度測定技法としての「リッカート法」「サーストン法」の説明と実践を行なう 第 6回：テスト法 各種のテスト法における信頼性と妥当性・各種の測定技法についての解説を行なう 第 7回：数値尺度と統計処理 数値尺度の理解とその前提となる統計処理技法について説明と実習を行なう 第 8回：実験計画法 心理学的実験計画法とその統計処理との関連について解説と実習を行なう なお，各テーマの終わりには対応する国家試験問題の抜粋を解く
アクティブラーニング	グループ学修を取り入れて体験実習等を行なう

授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験100%。
課題に対するフィードバック	定期試験の解答解説を行なう。
指定図書	なし
参考図書	「心理測定法への招待　― 測定からみた心理学入門」市川伸一著 サイエンス社(1991)
事前・事後学修	各回の最後に国家試験問題と同等の問題を出題するため、それに対する40分程度の予習・復習が必須である
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	質問等はメール(akirtaka@inf.shizuoka.ac.jp)での連絡とする
実務経験に関する記述	なし

科目名	臨床心理学
科目責任者	髙栁　弘行
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	各発達期における典型的な心理的問題を通し、1）クライエントの状況や状態の理解、回復への動機づけ、2）心理検査法や面接スキルの理解、3）心理的問題への対処技法、などについて学んでいきたい。
到達目標	1）クライエントの立場に立ち、クライエントにとって取り組みやすく、回復への動機づけを高める支援についての知識や理解を深める。 2）臨床心理学的アセスメント、臨床心理学的介入技法についての知識や理解を深める。 3）面接スキルやストレスマネージメント（リラクセーション）などを体験してみる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　髙栁　弘行 1）臨床心理学の概要、パーソナリティ理論（類型論） 2）パーソナリティ理論（特性論、力動論） 3）エリクソンの生涯発達論、乳幼児期の心理的問題 4）アセスメント（面接法・観察法・検査法）、K式発達検査の事例 5）児童期の心理的問題（発達障害）、ＷＩＳＣ-Ⅳの事例 6）遊戯療法、応用行動分析の事例 7）ストレスマネジメント（リラクセーション）、面接スキルの練習 8）思春期の心理的問題 9）クライエント中心療法、精神分析療法 10）青年期の心理的問題、心理検査バッテリー 11）統合失調症、心理教育、家族療法 12）中年期の心理的問題 13）動機づけ理論、認知行動療法 14）老年期の心理的問題、認知症、回想法 15）ストレスマネジメント（リラクセーション）、面接スキルの練習
アクティブラーニング	ロールプレイによる面接スキル、リラクセーションなどの身体感覚技法、ストレスに対する対処法や認知・行動記録、などを授業にて実施します。
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験80％　ホームワーク20％

課題に対するフィードバック	ホームワークのコメント、あるいは授業においてフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・事後学修	ホームワーク（授業内容の要点、アクティブラーニングの実施と記録など）を40分程度、事後学修して下さい。
オープンエデュケーションの活用	自習学習にて「主要5因子性格検査システム（デモ版）（村上宣寛、村上千恵子）」を実施してみて下さい。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語学
科目責任者	氏平　明
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。
科目概要	ことばを言語学の領域で捉えて、小言語学（形態論・統語論・意味論）からその体系と理論を概観する。日本語を日本語学の枠組みから、その文法に見られる法則や理論を学ぶ。
到達目標	1. 言語学の考え方と専門用語を理解する。 2. 日本語文法の分析方法を身に着ける。 3. 国試の問題に解答できる応用力を身に着ける
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　氏平　明 第 1 回：ことばに対する言語学の考え方・ことばとは言語学とは 第 2 回：ソシュールからブルームフィールド，チョムスキー， プリンス・スモレンスキーまで・言語学の研究概要とその歴史 第 3 回：超分節的特徴，アクセントとイントネーション，（音韻論） 第 4 回：形態音素交代、その種類、連濁の理論・音韻論と形態論の狭間，（形態論） 第 5 回：有標と無標、右枝分かれと左枝分かれの構造，IC 分析（統語論１） 第 6 回：IC 分析の限界，生成文法 1，標準理論，（統語論２） 第 7 回：生成文法２，Ｘバー理論から GB，ミニマリストへ，（統語論 3） 第 8 回：語の意味と意味の種類，成分分析とプロトタイプ，（意味論１） 第 9 回：意味の展開，文の意味，談話構造（グライスの公理），（意味論２） 第 10 回：日本語の品詞とその活用（日本語文法形態論１） 第 11 回：日本語の格文法と項構造，複合語の構造，（日本語文法形態論２） 第 12 回：文法のカテゴリー，「は」と「が」の構造と意味，（日本語文法統語論 1） 第 13 回：日本語文法のカテゴリー２，ヴォイス，（日本語文法統語論２） 第 14 回:日本語文法のカテゴリー3，動詞の種類その展開，（日本語文法統語論 3） 第 15 回:日本語文法のカテゴリー4，直示，テンス，アスペクト，モダリティ， （日本語文法統語論 4）

アクティブラーニング	言語学や日本語学では，個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので，言語の各現象や各事柄について内省で確認し，その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。
授業内のICT活用	無し
評価方法	定期試験100%で判断する。定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する。すなわち本試験は，すべて客観式の学んだことの応用問題で，正誤のいずれかを判断し，部分点はない。再試験は，本試験とは別問題で，主観問題を加えて部分点が加点される形式をとる。課題は講義全範囲からの細かな指示からなり，試験においてノート，配布物，図書の持ち込みは無し。
課題に対するフィードバック	再試験受験者には，本試験の解説を配布する。課題作成者には再試験の解説を配布する。
指定図書	講義はすべて配布したハンドアウトを指標として進める。 ハンドアウトには講義の項目とキーワードと概要が記されている。授業を学生が聞いて，そこに説明と要点を書きこんでいく。参考図書に書かれていることを修正する内容も多々ある。
参考図書	『入門言語学』ジーンエイチソン，KINSENDO，『日本語の音声』窪薗晴夫，岩波書店，『新日本語の統語構造』三原健一・平岩健，松柏社，『新しい日本語学入門』庵功雄，スリーエーネットワーク，Ujihira，A.(2011)”Stuttering in Japanese,”in (edt.) P.Howell,& J.V.Borsel, Multilingual Aspects of Fluency Disorders，Multilingual matters. 氏平(2018)「無声歯茎破裂音の尾子音と撥音便について」KLS38,pp.157-168.等
事前・事後学修	事前学習は不要，習ったことの復習，要点３点，でその細分９事項を必ず毎回復習すること。時間は３０分。定期試験前に学んだ言語学・日本語学と音声学の音韻論も含めて，全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。
オープンエデュケーションの活用	参考図書や科目責任者の論文を読んでください。
オフィスアワー	毎週１回の集中講義なので，講義時間の合間に教員に質問すること。
実務経験に関する記述	無し

科目名	音声学・音韻論
科目責任者	中村　哲也
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　２セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	音声学の知識は，構音障害の診断治療を行う際に必須である。母音や子音の特徴や分類を理解し，それぞれの音の聴覚的な印象と音声学的な表記方法を学ぶ。特に現代日本語音について，実際に聴取し国際音声記号で表記する演習を行う。 音韻論は,音声プランニングを形成する過程を体系的理論的に理解する。具体的には分節素と音韻素性のシステム，音素の体系，プロソディ，すなわちモーラ，音節，フットで構成される諸単位からなる，リズム，アクセント，イントネーションの諸相とその理論
到達目標	１．音声生成のメカニズムを説明することができる。 ２．言語音の特徴や分類を理解し，自らの発声発語器官の運動を内省しながら産生できる。 ３．国際音声記号（IPA）を用いて，聴取した音を表記できる。 ４．構音実行過程と頭の中の音声プランニングの過程を区別し，それらを連続的に構成するシステムと理論を理解できる。
授業計画	〔音声学〕　担当者：中村哲也 第 1回：音声と音声学（音声学とは，音声器官の名称） 第 2回：音声生成のプロセス（呼吸，発声，共鳴，構音） 第 3回：国際音声記号（IPA） 第 4回：子音の分類，子音の分類 第 5回：子音の産生と聴覚的印象：破裂音，鼻音 第 6回：子音の産生と聴覚的印象：ふるえ音とはじき音 第 7回：子音の産生と聴覚的印象：摩擦音と接近音 第 8回： 基本母音と母音の様々な特徴，二重調音，二次的調音 第 9回：演習　音声記号の音読と表記 〔音韻論〕　担当者：氏平明 第10回：音声学と音韻論　：発話産出過程概観 第11回：音声単位と音韻単位：単音，分節素，音素と音素論 第12回：音韻素性の体系：主要音類，方法，場所とそれらの階層 第13回：音声のまとまり（プロソディ）の形態とその機能：音節，モーラ，フット 第14回：リズム，アクセントとイントネーション，形態とその機能 第15回：アクセントの規則，語句と複合語，アクセントと方言
アクティブラーニング	〔音声学〕 音声学では，実際に音声記号の音読や表記の演習を交えながら進める。 〔音韻論〕 音韻論では個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので，音声の各現象や音韻論の事柄について内省で確認し，その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。すなわち各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。

授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験　90%，小テスト10%、計100% 〔音声学〕定期試験40%，小テスト10% 〔音韻論〕定期試験50%（定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する）
課題に対するフィードバック	〔音声学〕 小テストについては，次の授業で返却して解説する。 〔音韻論〕 音韻論の再試験受験者には，本試験の解説を配布する。
指定図書	〔音声学〕 斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂
参考図書	〔音韻論〕 窪薗晴夫『日本語の音声』岩波書店，窪薗晴夫・本間猛『音節とモーラ』研究社 氏平　明「言語聴覚士教育と臨床のための音声学Ⅱ」第6号,pp.1-14.2014 氏平　明「言語聴覚士教育と臨床のための音韻論Ⅰ」第8号,pp.1-11,2016 福岡教育大学教育総合研究所附属特別支援教育研究紀要 ＊これらの図書は言語学にも共通
事前・事後学修	〔音声学〕 音声学では，自らの発声発語器官の運動を内省しながら，声を出して練習すること。また，小テストの結果を累積し，期末試験と合わせて最終評価とする。小テストの内容は事前に連絡するので，復習する習慣をつけること。 〔音韻論〕 音韻論は事前学習は不要，習ったことの復習，要点３点，でその細分９事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試兼は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。
オープンエデュケーションの活用	〔音声学〕 IPAの音声は以下のサイトにて確認できます IPAモジュール（東京外国語大学） http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.htm
オフィスアワー	〔音声学〕リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20 〔音韻論〕音韻論は集中講義なので，講義時間の合間に教員に質問すること。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音声学・音響学演習
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身に付けている。
科目概要	音響学演習では、音声に関わる各種物理量（音の強さ，周波数等）と基礎となる属性（大きさ，高さ，音色）等について、実際にパーソナルコンピューター上の音響分析ソフト等を用いて音響学的分析の演習を行う。 音声学演習では、現代共通日本語の単音、および連続発話における特徴的な撥音・促音・長音の特徴や、同化・転換・調音結合などについて理解する。また、超分節的要素の種類や役割について学ぶ。
到達目標	１．音の物理的性質・音声の音響的特徴を理解できる。 ２．日本語音の特徴を理解し、正しくIPA表記できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 〔音響学演習〕　　担当者：中井孝芳 第1回　音の強さのレベル、音圧レベルと音の大きさのレベル(演習) 第2回　周期と高調波、フーリエ変換（演習） 第3回　音声生成の音響理論（演習） 第4回　母音と子音の音響特徴、超分節的要素の音響特徴と知覚(演習) 第5回　サウンドスペクトログラムを読む① 第6回　サウンドスペクトログラムを読む② 〔音声学演習〕　　担当者：中村哲也 第 7回　音声学復習 第 8回　日本語の単音とその特徴：清音・拗音・濁音・半濁音 第 9回　日本語の単音とその特徴：母音（長母音・二重母音・無声音化） 第10回　日本語の単音とその特徴：撥音・促音・調音 第11回　日本語の単音とその特徴：子音 第12回　連続発話と音環境による影響：同化、転換、調音結合音節とモーラ 第13回　音声の超分節的要素と評価 第14回　演習：日本語のIPA表記 第15回　日本語における音声学のまとめ
アクティブラーニング	演習科目です
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験 90%、小テスト　10%、計100% 〔音響学演習〕　定期試験50% 〔音声学演習〕　定期試験40%、小テスト10%
課題に対するフィードバック	それぞれの授業での課題は次回の開始時にフィードバックします
指定図書	〔音響学演習〕 小松崎篤・藤田郁代・岩田誠・広瀬肇　「言語聴覚士テキスト 第2版」　医歯薬出版 〔音声学演習〕 斎藤純男　「日本語音声学入門」　三省堂
参考図書	〔音声学演習〕 窪薗晴夫『日本語の音声』岩波書店 窪薗晴夫・本間猛『音節とモーラ』研究社
事前・事後学修	〔音響学演習〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習をすること。 〔音声学演習〕 小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。小テストの内容は事前に連絡しますので、復習する習慣をつけましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	〔音響学演習〕講義の前後の時間 〔音声学演習〕リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音響学
科目責任者	中井　孝芳
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	音や音声の物理的な特性とその表現方法について理解し、聴覚や音声の学習に必要な知識を得る。数学と物理に関する基本的な学習から始め、音や音声の物理的特性を学ぶ。授業では、音声波形や音響分析に関わる視覚的資料を多用することで、分かりやすく解説する。
到達目標	1. 音の物理的性質を説明できる。 2. 音声の音響的特徴を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数）　中井孝芳 第 2回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル）　中井孝芳 第 3回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル）　中井孝芳 第 4回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴）　中井孝芳 第 5回：音声生成の音響理論①　中井孝芳 第 6回：音声生成の音響理論②　中井孝芳 第 7回：音響分析の基礎　中井孝芳 第 8回：サウンドスペクトログラム①　中井孝芳 第 9回：サウンドスペクトログラム②　中井孝芳 第10回：母音の音響特徴と知覚　中井孝芳 第11回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚　中井孝芳 第12回：子音・半母音の音響特徴と知覚　中井孝芳 第13回：サウンドスペクトログラム③　中井孝芳 第14回：サウンドスペクトログラム④　中井孝芳 第15回：調音結合、超分節的特徴、声の個体差、自然性　中井孝芳
アクティブラーニング	例題の提示とその解説
授業内のICT活用	wavesufer(KTH（スウェーデン、王立工科大学）の開発した音声のスペクトルグラム、ピッチ軌跡などの表示ができるソフトウェア)による音声データ（中井が録音したもの）の試聴と表示
評価方法	期末試験（筆記、100%）による。

課題に対するフィードバック	例題の解説
指定図書	言語聴覚士テキスト第2版　医歯薬出版、 2011
参考図書	授業中に紹介する。
事前・事後学修	事前に指定図書の該当箇所を読んでおく(20分)こと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習（60分）をすること。
オープンエデュケーションの活用	wavesufer、このソフトウェアの使用法（日本語）のwebサイトの紹介 声帯振動の様子を観測したwebサイトの紹介
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	聴覚心理学
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している
科目概要	聴覚や音声について学習する上で必要な音に関する基本的な知識を学びます。本講義では最低限必要な数学と物理に関する学習から始め、音の物理的な特性とその表現方法、音声の物理的な特性について学習を進めます。さらに、自身の聴覚を通して、音の物理的な特性と聴覚との関連を体験することで「聴こえ」についての知識を深めます。これらの知識や経験が臨床とどのように関わるのか解説しながら授業を進めていきます。
到達目標	1. 音の物理的性質・心理的知覚を説明できる。 2. 音の知覚について説明できる。 3. 聴覚心理学の基本的な用語について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大原重洋 第1回：聴覚心理学とは　（音の物理的性質と心理的知覚） 第2回：音の大きさの知覚（聴覚閾値、可聴範囲、等ﾗｳﾄﾞﾈｽ曲線、ﾗｳﾄﾞﾈｽの尺度、聴覚疲労） 第3回：音の高さの知覚　（純音の周波数弁別、ﾒﾙ尺度、場所ﾋﾟｯﾁ・時間ﾋﾟｯﾁ、複合音の高さ） 第4回：マスキング　（ﾏｽｷﾝｸﾞ、周波数選択、臨界帯域、同時ﾏｽｷﾝｸﾞ、非同時ﾏｽｷﾝｸﾞ） 第5回：両耳聴、音源定位（加算、融合、方向知覚、MLD、先行音効果、ｶｸﾃﾙﾊﾟｰﾃｨ効果） 第6回：時間知覚と聴空間知覚　（音色、音源定位、時間分解能、空間知覚） 第7回：音声知覚　（母音・子音の知覚） 第8回：音による環境理解、環境騒音
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や演習を行い、その内容についてグループで討議する。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験70％、小テスト・平常点30％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	今泉敏「言語聴覚士のための音響学」医歯薬出版，2010

参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達学
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　１セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門基礎
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳児期の段階から、会話や文字を獲得する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に関連するコミュニケーション、社会性、認知発達等についても学び、それぞれの領域についての苦手さを持つ子どもについての特徴についても触れていく。
到達目標	1. 乳幼児期、児童期までのことばの定型発達について理解できる 2. ことばの発達に関連する領域の発達について、ことばの発達と関連付けて理解できる 3. 定型発達を基礎にして言語発達障害を理解する視点を持つことができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞中村哲也 第1回 言語発達理論について 第2回 前言語期のコミュニケーション発達①　表情・感情 第3回　前言語期のコミュニケーション発達②　視線・動作 第4回 アタッチメントの発達 第5回 音声知覚の発達・構音の発達 第6回 認知・知能の発達 第7回 語彙・統語の発達 第8回 談話・読み書きの発達
アクティブラーニング	予習してきた知識を基にして、話し合ったり考えてもらう時間を設けています。指定図書・参考書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう。
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験80％、小テスト20％、計100％
課題に対するフィードバック	小テストはフィードバックを行い、返却します。
指定図書	なし
参考図書	『標準言語聴覚障害学　言語発達障害学』 玉井ふみ他　医学書院 『ことばの発達と障害１/ことばの発達入門』　秦野悦子　大修館書店 『言語聴覚士のための言語発達障害学』石田宏代、大石敬子　医歯薬出版株式会社 『よくわかる言語発達』　岩立志津夫、小椋たみ子　ミネルヴァ書房 『シリーズ臨床発達心理学④/言語発達とその支援』　岩立志津夫、小椋たみ子　ミネルヴァ書房
事前・事後学修	初回にレジュメを配布しますので、授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう。 小テストを実施しますので、しっかりと復習しておきましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害学概論
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　　１セメスター
DP番号と科目領域	DP3専門
科目の位置付	リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	コミュニケーションの意義、種類、過程を学修した上で、言語聴覚障害学の歴史、現状、展望および言語聴覚障害の概要を学ぶ。小グループによるグループワークやコミュニケーション演習を通じて、言語聴覚障害学の基礎を主体的に学ぶ。さらに職業倫理、他職種との協働活動や連携の重要性、職能団体の役割と活動参加の意義を学ぶ。また、言語聴覚障害や言語聴覚士の臨床像を理解した上で、言語聴覚障害基礎実習へと移行する。
到達目標	1. コミュニケーションの意義、種類、過程が説明できる。 2. 言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚療法の対象、言語聴覚療法の概要が説明できる。 3. 言語聴覚士の臨床が説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション(講義・グループワーク)　谷　哲夫 第 2回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程　谷　哲夫 第 3回：言語聴覚療法の歴史・倫理・職能団体　谷　哲夫 第 4回：グループワーク①　谷　哲夫 第 5回：グループワーク②　谷　哲夫 第 6回：グループワーク③　谷　哲夫 第 7回：グループワーク発表　谷　哲夫 第 8回：グループワーク発表　谷　哲夫 第 9回：コミュニケーション演習　谷　哲夫 第10回：コミュニケーション演習　谷　哲夫 第11回：小児言語障害の臨床　小林マヤ 第12回：発声発語障害の臨床　中村哲也 第13回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床　谷　哲夫 第14回：聴覚障害の臨床　大原重洋 第15回：摂食嚥下障害の臨床　佐藤豊展
アクティブラーニング	WebClassを用いて事前・事後学修を行う。 グループワークで主体的に学習する。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	定期試験40%　レポート20%　グループ活動・発表30%　小テスト10% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	毎回の講義のリアクションペーパーに対して、次回講義時又は講義前にフィードバックする。 レポート・グループ学習では、評価視点を公開し自身でもフィードバックできるようにする。
指定図書	藤田郁代編　「標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論」　医学書院 廣瀬肇監修　「言語聴覚士テキスト」医歯薬出版　第3版
参考図書	初回講義時に紹介する。
事前・事後学修	グループ学習では、指定された課題をグループで討議し、同時に自ら調べて答えを導き出す手法で行っていきます。言語聴覚障害については、講義前にあらかじめ指定図書を読み予習するように心がけてください。 WebClassを用いて、事前事後学修課題を提示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害診断学
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	１単位（30時間）　　言語必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる
科目概要	失語症への評価・鑑別及びその言語聴覚療法を学修する。失語症の方のご協力を頂き、適切な検査を選択し、実施する。その結果を集約・解釈し、掘り下げ検査を選択、実施する。さらに全体像を把握し失語症者へ説明する。
到達目標	1.言語聴覚障害者に対して、自由会話・情報収集からその障害像を予測し、必要で正しい評価が実施できる。 2.評価結果を適切に解釈し、それを基にした診断ができる。 3.訓練のための評価ができ、個々の障害に適した訓練計画の立案ができる。 4.症例報告書（評価、情報収集、訓練計画）を作成することができる。 5.言語聴覚士として、対象者の気持ちに寄り添った行動ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1回：演習の準備説明　企画書説明　谷哲夫 第 2回：企画書作成　谷哲夫 第 3回：企画書の見直し　谷哲夫 第 4回：挨拶　言葉遣い　谷哲夫 第 5回：演習の一連の流れ確認1　谷哲夫 第 6回：演習の一連の流れ確認2　谷哲夫 第7回：失語症評価演習1　ラポール形成　谷哲夫　佐藤順子　佐藤豊展 第8回：失語症評価演習2　検査開始　谷哲夫　佐藤順子　佐藤豊展 第9回：失語症評価演習3　検査継続　谷哲夫　佐藤順子　佐藤豊展 第10回：失語症評価演習4　検査継続　谷哲夫　佐藤順子　佐藤豊展 第11回：失語症評価演習5　SLTAまとめ　谷哲夫　佐藤順子　佐藤豊展 第12回：失語症評価演習6　検査結果説明　谷哲夫　佐藤順子　佐藤豊展 第 13回：SLTA　OSCE 谷哲夫　柴本勇　佐藤順子　大原重洋　小林マヤ　中村哲也　佐藤豊展 第14回：SLTA　OSCE 谷哲夫　柴本勇　佐藤順子　大原重洋　小林マヤ　中村哲也　佐藤豊展 第15回：振り返り　谷哲夫
アクティブラーニング	演習科目です。

授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験（50%）演習の準備・実技（40%）　提出物（10%） 演習の達成度はルーブリックを用いて評価をします。
課題に対するフィードバック	各自フィードバックし、授業内に解説します。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学修〕 WebClassを用いて毎回の予習項目を伝達します。 〔事後学修〕 授業での課題について随時まとめを作成すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜日　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語症学
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	失語症学では、失語症について全般的に理解する。古典的分類と失語症タイプ別の特徴，および言語情報処理モデルによる言語症状の分析、症候群などについて学ぶとともに、評価・鑑別について理解する。
到達目標	1.様々な言語障害の症状を理解し，症候群としての失語症を捉える事ができる。 2.言語障害の症状を言語情報処理モデルに当てはめることが出来る。 3.言語障害の症状を古典的分類や認知神経心理学的な階層性に基づいて理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜授業内容・テーマ等＞　谷　哲夫 第 1回：失語症の定義，歴史，原因疾患，病巣，言語症状 第 2回：言語の神経学的基盤 第 3回：失語症の古典的分類①　ウェルニッケーリヒトハイムの図 第 4回：失語症の古典的分類②　ボストン学派の分類 第 5回：失語症の言語症状 第 6回：失語症周辺の症状 第 7回：前半の復習①　言語の神経学的基盤，失語の古典的分類を中心に 第 8回：前半の復習②　失語症の症状，周辺症状を中心に 第 9回：認知神経心理学的情報モデルの構造と意味 第10回：認知神経心理学的解釈　ロゴジェンモデルを用いて　症状の当てはめ 第11回：認知神経心理額的解釈　ロゴジェンモデルを用いて　階層性の理解 第12回：認知神経心理学的解釈　ロゴジェンモデルを用いて　掘り下げ検査の選択法

	第13回：認知神経心理学的解釈　二重経路仮説を用いて　失読・失書の当てはめ 第14回：後半の復習①　ロゴジェンモデルを中心に 第15回：後半の復習②　掘り下げ検査を中心に
アクティブラーニング	反転授業の実施のためWebClassを活用します
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験　80% 毎回の小テスト（復習テスト）20%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）の解説は授業の中で行います.
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語・高次脳機能障害評価演習
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	１単位（30時間）　　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	失語・高次脳機能障害の 評価について、標準化されている検査法について、グループ演習により検査の手順、結果の集約と解釈、問題点の抽出などについて学ぶ。演習（グループ演習）は失語症の評価に関係する検査を実施する。その結果を集約・解釈し、掘り下げ検査を選択、実施する。
到達目標	1. 失語・高次脳機能障害の症状を捉え、分析、鑑別診断をすることができる。 2. グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。 3. リハビリテーションにおける各種訓練法と効果について理解する。 4. 問題点を抽出し掘り下げ検査を選択することができる。 5. 失語・高次脳機能障害の検査の結果をまとめてレポート作成することができる。 6. 臨床実習や臨床において適切に対応できる能力を習得する。 7. SLTAの評価を支障なく実施し，結果をまとめられる.
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1回：SLTAの概要　谷哲夫 第 2回：SLTAの実施方法①（動画による）　谷哲夫 第 3回：SLTAの実施方法②（動画による）　谷哲夫 第 4回：SLTAの実施方法③（動画による）　谷哲夫 第 5回：SLTAの実施方法④（動画による）　谷哲夫 第 6回：SLTAの実施方法⑤（動画による）　谷哲夫 第 7回：SLTAのまとめ方　谷哲夫 第 8回：SLTA分析と解釈　谷哲夫 第 9回：WAB失語症検査　谷哲夫 第10回：WAB失語症検査　谷哲夫 第11回：失語症語彙検査　谷哲夫 第12回：失語症構文検査　谷哲夫 第13回：トークンテスト　谷哲夫 第14回：SLTA-ST　谷哲夫 第15回：重度失語症検査　谷哲夫
アクティブラーニング	演習科目です（各グループで演習をし、授業中に検査を行い、報告書をまとめます）
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	定期試験（６０％）提出物:報告書（４０％） 上記による評価なのでルーブリックは用いません。
課題に対するフィードバック	演習中に各グループを巡回し解説をします。最後に質疑応答を行います。 各検査のまとめのフィードバックをします。
指定図書	『標準失語症検査マニアル』日本高次脳機能障害学会編集　新興医学出版 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト　成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著　建帛社
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる事前・事後学修の提示（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に検査マニアル、動画を確認し、各自でマニアル・評価用紙を準備すること。 〔事後学修〕 授業で実施した検査を実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 谷(3406研究室) 時間等：毎週月曜日　11：15～13：15 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語症治療学
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解している
科目概要	失語症治療学では，臨床における一連の流れについて学習する。病期別に具体的なアプローチ方法を提示し、実際の症例を通して症状の分析、採用すべき治療法、および予後予測の方法を学ぶ。
到達目標	1.病期別に失語症治療に対する言語聴覚士の心構えや姿勢を理解できる。 2.検査結果をまとめ訓練プログラムの立案ができる。 3.患者の生活場面を想定した準備の必要性が理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：失語症治療の概要　病期別治療目的　谷 第 2回：急性期の失語症治療　リスク管理　谷 第 3回：回復期の失語症治療　治療目的　検査　谷 第 4回：回復期の失語症治療　結果解釈　治療プラン・方法　谷 第 5回：維持期（生活期）の失語症治療　介護保険制度　社会資源の活用　谷 第 6回：維持期（生活期）の失語症治療　治療方法・効果　谷 第 7回：治療の理論と技法①　刺激法の6原則　機能再編成法　遮断除去法　ほか　谷 第 8回：治療の理論と技法②　評価サマリー　経過報告書の書き方　谷
アクティブラーニング	反転授業の実施のためWebClassを使用する
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	定期試験　80% 毎回の小テスト（復習テスト）20%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）を授業の中で実施します.
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	高次脳機能障害学（ST）
科目責任者	佐藤　順子（リハビリテーション学部）
単位数他	２単位（30時間）　　言語必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	高次脳機能障害学では脳および神経系の解剖生理をはじめ、脳損傷により多彩な障害を生じる高次脳機能障害について全般的に理解する。また代表的な高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムなどについて症例を通じて実践的に理解を深める。授業の進め方としては、小グループによるPBLチュートリアル(症例を提示し、グループでディスカションし報告書にまとめる)、講義、演習を通じ、高次脳機能障害の各症状の特徴を理解し、評価、具体的なリハビリテーションアプローチについて検討する。
到達目標	1. 高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムについて説明できる。 2. 高次脳機能障害の状態を的確に把握し、検査・評価し、報告書にまとめることができる。 3. 高次脳機能障害に対して、リハビリテーションを実践するための知識・技術を習得する。 4. グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1回： 高次脳機能障害とは、原因疾患　佐藤順子 第 2回：①視覚失認、相貌失認　(PBL)　佐藤豊展 第 3回：①視覚失認、相貌失認　発表　解説　佐藤豊展 第 4回：②視空間障害　(PBL)　佐藤豊展 第 5回：②視空間障害　発表　解説　佐藤豊展 第 6回：③失行　(PBL)　佐藤豊展 第 7回：③失行　発表　解説　佐藤豊展 第 8回：④記憶障害　(PBL)　佐藤順子 第 9回：④記憶障害　発表　解説　佐藤順子 第10回：⑤前頭葉機能障害　(PBL)　佐藤順子 第11回：⑤前頭葉機能障害　発表　解説　佐藤順子 第12回：⑥認知症　(PBL)　佐藤順子 第13回：⑥認知症　発表　解説　佐藤順子 第14回：聴覚失認、触覚失認、身体失認失算、脳梁離断症状　佐藤豊展 第15回：画像　佐藤順子
アクティブラーニング	演習科目（グループワーク）：第1,3,5回(PBL),9～14回(検査演習)
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。

評価方法	定期試験(60%)　報告書(40%)
課題に対するフィードバック	個別に報告書を提出後、各障害の発表後に解説を行います
指定図書	『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著　医学書院 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第3版』小寺富子監修　協同医書出版社 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト　成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著　建帛社
参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学修〕Webclassを使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 演習では、事前にマニアルを作成し、検査ができるようにしておく。 〔事後学修〕 各症例をまとめて報告書を作成し、発表できるように準備をする。 検査演習の報告書を作成する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	失語・高次脳機能障害治療演習
科目責任者	佐藤　順子（リハビリテーション学部）
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	【失語】失語症例への評価・鑑別及びその言語聴覚療法を演習を通して学ぶ。失語症の方を対象とした演習の反省を生かして演習形式で課題を修正する、ＳＬＴＡほか掘り下げ検査も対象である。さらに失語症の全体像を再度把握し、訓練プログラムを立案する. 【高次脳】 高次脳機能障害の各検査のグループ演習を行い、報告書の作成を行う。評価においては、各種検査手続き、結果の集約と解釈について具体的に学ぶ。
到達目標	【失語】 1. 失語症例に対するリハビリテーション理論、およびリハビリテーション技法を学修する。 2. 理論に基づいた訓練計画をグループで立案し、学生同士で実施できる。 3. 実際の患者様の評価、診断、治療プログラムの立案ができる。 【高次脳】 グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 【失語演習】 第 1回：失語症評価演習の問題点の抽出　谷 第 2回：失語症評価演習の問題の確認　谷 第 3回：失語症評価演習の見直し　谷 第 4回：次回以降の演習での課題確認　谷 第 5回：演習1日目1　課題の確認　谷　佐藤順　佐藤豊 第 6回：演習1日目2　課題の確認　谷　佐藤順　佐藤豊 第 7回：演習2日目1　修正の確認　谷　佐藤順　佐藤豊 第 8回：演習2日目2　修正の確認　谷　佐藤順　佐藤豊 【高次脳検査演習】 第9回：認知症検査(ADAS-J)　佐藤順子・中村哲也 第10回：前頭葉機能検査（WCST）　佐藤順子・中村哲也 第11回：標準高次動作性検査(SPTA)　佐藤順子・中村哲也 第12回：遂行機能検査(BADS)　佐藤順子・中村哲也 第13回：標準注意検査（CAT）　佐藤順子・中村哲也 第14回：行動性無視検査（BIT）　佐藤順子・中村哲也 第15回：実技試験　佐藤順子・中村哲也

アクティブラーニング	演習科目 【失語】グループ形式で演習を実施し，治療プログラムについて意見を出し合う。 【高次脳】各グループで演習をし、授業では検査者として他の学生に検査を実施します。
授業内のICT活用	なし
評価方法	【失語】 定期試験(60%) 課題のレポート（40%） 【高次脳】 定期試験(60%) 報告書(30%) 実技試験(10%)
課題に対するフィードバック	【失語】リアクションペアパーへのコメント 【高次脳】演習中に解説をし、質疑応答を行います。 報告書の添削し、合格するまで再提出してもらいます。
指定図書	【失語】藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 【高次脳】『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著医学書院 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト　成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社
参考図書	なし
事前・事後学修	【失語】 ［事前学習］：Webclassを利用 演習では事前に自分の課題を明確にしてレポート作成 ［事後学習］：症例報告書の再作成　ルーブリックによる到達度確認 【高次脳】 〔事前学修〕Webclassを使用します 指定図書の該当箇所を読んで理解する。 検査演習では、事前にマニアルを作成し、検査ができるようにしておく。 〔事後学修〕 検査演習の報告書を作成する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	【失語】 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します 【高次脳】 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害学基礎実習(保育園)
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（45時間）　言語必修　３セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	9月前半に保育園にて5日間実習を行う。指定されたクラスに入り、朝から夕方まで子どもたちと一緒に過ごす。乳幼児の全体的な発達や言語発達の実際に触れ、１年次と2年次春セメスターに学んだ知識を現場で再確認し、再統合することを目的とする。同時に、保育士の業務内容や幼児との接し方、保育園の社会的役割を学ぶ。
到達目標	1. 健常発達を理解し、実習を通して知識を再確認することができる。 2. 保育士の業務内容を説明できる。 3. 社会人としての基本的態度を養うことができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 中村哲也、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、小林マヤ、佐藤豊展 ＜授業内容・テーマ等＞ 社会人としての基本的態度を学ぶ 1）保育園職員に対する適切な態度、ことば遣い 2）園児や保護者に対する適切な態度、ことば遣い 3）実習生としての適切な身なり、服装、態度 言語聴覚学科の学生として学ぶ 1）食事、着替え、排泄など、日常生活上の行為の発達 2）コミュニケーションや言語の発達 3）遊びの内容の発達 4）運動能力の発達 5）幼児の個性、個人差について 6）保育士の業務全般 7）保育士の幼児との係わり方 8）保育園の社会的役割 ※実習前にオリエンテーションを実施する
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし

評価方法	事前学修レポート　30%、実習日誌　50%、実習後レポート　20%、計100%
課題に対するフィードバック	実習レポート、事前事後学修、実習日誌については実習担当者からフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	『標準言語聴覚障害学　言語発達障害学』 玉井ふみ他　医学書院
事前・事後学修	事前学修：発達に関する復習課題、社会人としてのマナー等を実施する 事後学修：実習の振り返りを行う。 ※事前・事後学修は各担当教員と行う
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害学
科目責任者	小林マヤ
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	小児の認知言語心理的な発達段階を理解した上で、各種障害の病態と障害像、原因と発現メカニズムを学び言語発達支援に必要な考え方を学ぶ。さらに、子どもの発達段階や障害特性に即した指導・支援法を学修する。
到達目標	１．小児の発達段階別の特徴を捉えることができる。 ２．言語発達を阻害する各種障害の病態と障害像を説明することができる。 ３．脳性麻痺、重複障害の基本的な知識、言語を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 小林マヤ、伊藤 信寿 第 1回：言語発達障害とはなにか、働きかけの原理　小林 第 2回：前言語期・語彙獲得期の言語発達と障害　小林 第 3回：幼児期の言語発達と障害　小林 第 4回：学童期の読み書きと学習と障害　小林 第 5回：自閉症スペクトラム障害の評価と指導・支援　小林 第 6回：認知・運動発達の評価・指導・訓練　伊藤 第 7回：認知・運動発達の評価・指導・訓練　伊藤 第 8回：知的障害の評価と指導・支援　小林 第 9回：特異的言語発達障害の評価と指導・支援①　小林 第 10回：特異的言語発達障害の評価と指導・支援②　小林 第 11回：学習障害の評価と指導・支援　小林 第 12回：注意欠陥/多動性障害の評価と指導・支援　小林 第13回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価　ゲストスピーカー 第14回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価　ゲストスピーカー 第15回：重複障害の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価　ゲストスピーカー
アクティブラーニング	事前に学習箇所のノートをまとめる。
授業内のICT活用	WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。

評価方法	定期試験70%、小テスト30%
課題に対するフィードバック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。 リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	玉井ふみ他　「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書の当該箇所を纏め、必要に応じて他資料を用い、資料を作成し、発表の準備を行う。
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402研究室　水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール（maya-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害評価演習
科目責任者	小林マヤ
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	言語発達障害学評価演習では、小児領域で良く用いられる検査の理論と手技を学ぶことを目的としている。授業は検査演習を多く取り入れる。
到達目標	１.各検査の概要・解説を説明できる ２.各検査を正しく実施できる ３.各検査の結果のまとめができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　小林マヤ 第　１回：ガイダンス・観察評価 第　２回：言語検査①「絵画語彙発達検査」 第　３回：言語検査②「質問-応答関係検査」 第　４回：言語検査③「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」 第　５回：言語検査③「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」 第　６回：言語検査③「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」 第　７回：言語検査③「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」 第　８回：発達・知能検査①「新版-K式発達検査2001」 第　９回：発達・知能検査①「新版-K式発達検査2001」 第１０回：発達・知能検査②「WISC-Ⅳ」 第１１回：発達・知能検査②「WISC-Ⅳ」 第１２回：発達・知能検査②「WISC-Ⅳ」 第１３回：発達・知能検査③「K-ABCⅡ心理・教育アセスメントバッテリー」 第１４回：発達・知能検査③「K-ABCⅡ心理・教育アセスメントバッテリー」

	第１５回：発達・知能検査③「K-ABCⅡ心理・教育アセスメントバッテリー」
アクティブラーニング	演習科目です
授業内のICT活用	WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート100％（6回）
課題に対するフィードバック	レポートについては解答例を示し、フィードバックを行います
指定図書	玉井ふみ他　「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	小寺富子・倉井成子・佐竹恒夫　「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査マニュアル」　エスコアール 新版K式発達検査研究会　「新版K式発達検査法2001年度版 標準化資料と実施法」　ナカニシヤ出版 上野一彦・松田修・小林玄・木下智子　「日本版WISC－Ⅳによる発達障害のアセスメント ―代表的な指標パターンの解釈と事例紹介―」　日本文化科学社 藤田和弘（監）　「KABC-Ⅱによる心理アセスメントの要点」　丸善出版
事前・事後学修	・事前学修：該当する検査のマニュアルを事前によく読みこんでおくこと ・事後学修：授業で行った検査はマニュアルを見なくても出来るように何度も繰り返し練習しておくこと
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402研究室　水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール（maya-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害治療学
科目責任者	小林　マヤ
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	言語発達障害学Ⅰ、Ⅱを踏まえて、言語発達障害児への具体的な指導方法について、グループで討議するなどして多様な方法を共有することができる。
到達目標	１．様々な発達障害に対する指導法を説明できる。 ２．様々な場面における支援方法について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：指導方法（１）S-S法　小林 第 2回：指導方法（２）S-S法　小林 第 3回：指導方法（３）S-S法　小林 第 4回：指導方法（４）語用論アプローチ　小林 第 5回：指導方法（５）インリアルアプローチ　小林 第 6回：指導方法（３）TEACCHプログラム　小林 第 7回：指導方法（４）TEACCHプログラム　小林 第 8回：指導方法（５）ソーシャルスキルトレーニング　小林 第 9回：指導方法（６）ソーシャルスキルトレーニング　小林 第10回：指導方法（７）応用行動分析　小林 第 11回：指導方法（８）AAC　拡大代替コミュニケーション　小林 第 12回：発達障害のコミュニケーション支援　小林 第 13回：乳幼児期における支援　小林 第14回：保育所・幼稚園との連携・支援　小林 第15回：特別支援教育における支援と活動　小林
アクティブラーニング	授業中はディスカッション、ロールプレイ、プレゼンテーション、グループ学修を中心に行う。
授業内のICT活用	WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験70%、レポート30%（3回程度計画している）
課題に対するフィードバック	毎回の授業、発表時のフィードバック、課題レポート返却時のコメント。

指定図書	玉井ふみ他　「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	大石敬子　「ことばの障害の評価と指導」大修館書店　2001
事前・事後学修	毎回の事前学習（40分）：教科書を読む。 毎回の事後学修（40分）：グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。
オープンエデュケーションの活用	特に無し。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402研究室　水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール（maya-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語発達障害治療演習
科目責任者	小林　マヤ
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	言語発達障害児の言語・コミュニケーションの評価・指導プログラムを立案する。さらに、協力者の協力を得て、立案したプログラムを実施し、結果をまとめる。
到達目標	1.様々なアプローチ技術を理解し、事例を通して応用することができる。 2.発達段階や障害を考慮しつつ指導・訓練計画をグループで立案し実施することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 小林　マヤ 第　1回：言語発達障害児の臨床における関連情報の収集　小林 第　2回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方①　小林 第　3回：言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方②　小林 第　4回：評価計画の立案と作成①　小林 第　5回：評価計画の立案と作成②　小林 第　6回：評価計画の実施（学生同士で確認）①　小林 第　7回：評価計画の実施（学生同士で確認）②　小林 第　8回：演習⑦（言語発達障害児）　小林 第　9回：演習⑧（言語発達障害児）　小林 第 10回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討　小林 第 11回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討　小林 第 12回：演習⑨（言語発達障害児）　小林 第 13回：演習⑩（言語発達障害児）　小林 第 14回：報告会①　小林 第 15回：報告会②　小林
アクティブラーニング	WebClass上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。
授業内のICT活用	WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。
評価方法	グループワーク40%、治療60% ※プレゼンテーション、ディスカッションについては、ルーブリックに基づいて評価する。

課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	玉井ふみ他　「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」医学書院 2015
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書の当該箇所を纏め、必要に応じて他資料を用い、グループ毎に資料を作成し、発表の準備を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3402研究室　水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール（maya-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発声発語障害学総論
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	発声発語障害は、発声発語器官の構造・機能の問題によって、発話が音響学的に変化した状態である。本科目では、発声発語障害を構造・機能の側面から学び、それぞれがどのような症状と関連するかについて概要を学ぶ。疾患と発声発語障害についても学ぶ
到達目標	1.発声発語障害の種類と特徴を説明することができる。 2.発声発語障害を構造・機能的側面から分析できる。 3.疾患と発声発語障害の関係を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞中村哲也 第１～２回：機能的要因による発声発語障害（機能性構音障害） 第３～４回：構造的要因による発声発語障害（口蓋裂に伴う構音障害） 第５～６回：運動的要因による発声発語障害（運動障害性構音障害） 第７～８回：音声障害に伴う発声発語障害（音声障害）
アクティブラーニング	グループ討議を実施します
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。

評価方法	レポート50%、グループ発表50%、計100% レポート評価についてはルーブリックは用いない
課題に対するフィードバック	グループ発表やレポートについてフィードバック・解説を行います。
指定図書	「標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第２版」（医学書院、2015）
参考図書	なし
事前・事後学修	指定図書の授業内容にあたる部分を事前に読んでおきましょう
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音声障害学
科目責任者	柴本　勇
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発声にかかわる喉頭の解剖と生理を理解し、音声障害を来す病理的メカニズムを学ぶ。異常な音声の評価方法(聴覚的評価・内視鏡検査・空気力学的検査・音響学的検査など)を知り、評価・診断に基づく治療方針の立て方を理解する。また、音声訓練の考え方と様々な手法を理解し、基礎的な技術を習得する。喉頭摘出後の代替音声についても理解する。
到達目標	1.　正常発声のメカニズム・病的発声のメカニズムを説明できる。 2.　音声障害の問題を適正に捉え、評価・分析できる。 3.　音声障害患者の問題を解決する適切な方法を具体的に提示できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション・発声のメカニズム（4/24　4限　3302）　柴本　勇 （教科書：P2～17） 【学習内容】喉頭の構造、喉頭の働き、喉頭の枠組み、喉頭筋、神経支配、声帯の構造、呼吸器の構造、呼吸の仕組み、発声と呼吸、発声のメカニズム 第 2回：音声障害と喉頭病変（5/1　4限　3302）　柴本　勇 （教科書：P18 ～32） 【学習内容】音声障害の障害メカニズム、原因疾患、器質的音声障害、機能的音声障害、 第 3回：音声障害の原因疾患と症状（5/8　4限 3302）　柴本　勇 （教科書：P32 ～40） 【学習内容】声の異常とは、自覚症状、他覚症状、随伴症状、疾患による症状の特徴、特殊な症状 第 4回：音声障害の評価法①　（5/15　4限 3302）　柴本　勇 （教科書：P41 ～52） 【学習内容】医師が行う検査（喉頭の観察法）、言語聴覚士の聴覚心理的評価 第 5回：音声障害の評価法②　（5/22　4限 3302）　柴本　勇 （教科書：P53 ～69） 【学習内容】言語聴覚士が行う評価（声の高さ・強さ・持続）、機器を用いた検査 第 6回：音声障害の診断と治療（薬物療法、外科的治療を含む）　柴本　勇 （別資料）（6/5　4限 3302） 【学習内容】音声障害の診断法、音声治療概論、音声治療の適応、治療目標の設定、治療期間の考え方、薬物療法、外科的治療 第 7回：音声障害の訓練法（6/12 4限 3302）　柴本　勇 （教科書：P70 ～88） 【学習内容】声の衛生指導、生活環境設定、訓練手技の選択、各訓練手技 第 8回：無喉頭音声・気管切開とコミュニケーション（7/3　4限 3302）柴本　勇 （教科書：P88 ～104） 【学習内容】無喉頭音声（人工喉頭・食道発声・シャント発声）、気管切開カニューレ
アクティブラーニング	WebClass の活用・反転授業

授業内のICT活用	WebClass、ZOOM等を活用します。
評価方法	定期試験：50%、事前課題：25%、事前テスト10%、事後テスト15%
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、事前課題・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、事前テストの解説を行います。
指定図書	標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第2版」(医学書院)
参考図書	「新編　声の検査法」（医歯薬出版） 「動画で見る音声障害」（インテルナ出版）
事前・事後学修	WebClass を用いて、事前課題・事前テスト・事後テストを行います。 WebClassの機能を活用して質問を受けます。
オープンエデュケーションの活用	なし　ただし、講義の中で適宜参考になるWebsiteを用いたり、紹介したりしながら展開していきます。
オフィスアワー	研究室：3号館　4階　3408研究室 オフィスアワー：火曜日AM ※随時メールでの質問を受けます。メール：isamu-s@seirei.ac.jp ※研究室に不在の時がありますので、来られる場合はまずメールでアポイントメントを頂くと確実です。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児構音障害学
科目責任者	中村　哲也
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	主に小児の構音障害について学ぶ。まず正常な構音の発達を理解し、構音障害をきたす器質的問題や運動障害がない機能性構音障害についての概要を学ぶ。また、異常構音の構音メカニズムについて理解し、その聴き取りができるように練習を行う。
到達目標	1. 小児の構音障害について鑑別診断ができる。 2. 小児における構音障害の概説を理解することが出来る。 3. 異常構音の構音メカニズムを理解し、聴き取ることが出来る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　中村哲也 第 1回：ガイダンス・小児構音障害の鑑別診断と臨床の流れ 第 2回：構音の発達 第3回　：小児構音障害にみられる音の誤り 置換・省略・音節の脱落・同化・音韻転換等 第4回　：小児の構音障害にみられる音の誤り 子音の弱音化・鼻音化・側音化構音・口蓋化構音 第 5回：小児の構音障害にみられる音の誤り 鼻咽腔構音・声門破裂音・咽頭破裂音・咽頭摩擦音 第6回：演習：異常構音の聞き取り 第 7回：器質性構音障害の定義と疫学 第 8回：口蓋裂言語の特徴
アクティブラーニング	異常構音の練習を実際に発音できるように練習します
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験90%、小テスト10%、計100%
課題に対するフィードバック	小テストは次の時間に返却し、フィードバックを行います
指定図書	「構音障害の臨床　−基礎知識と実践マニュアル−　改訂第2版」（金原出版、2003年）
参考図書	「標準言語聴覚障害学　発声発語障害学　第２版」（医学書院、2015）
事前・事後学修	・授業初回に全てのレジュメを配布します。レジュメを見て教科書の該当箇所を読んでおき、空白部分の穴埋めをしておくとよいでしょう。 ・異常構音は自分で発音できるように、声に出して練習しましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00〜14：20
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人構音障害学
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	運動障害性構音障害と口腔癌治療後など後天性の器質性構音障害について、発声メカニズムや症状を原因と関連づけて理解する。各種評価について、学生同士の演習を交えて習得する。タイプ分類と特徴を理解し、症例の評価分析からタイプ分類ができるようになる。そのうえで、問題点を抽出し、障害に応じた訓練プログラムの立案ができるようになることを目指す。
到達目標	1. 運動障害性構音障害の定義、および障害構造を説明することができる。 2. 運動障害性構音障害のタイプと病態生理、および症状を説明することができる。 3. 運動障害性構音障害の評価法を説明し、模擬的に実施することができる。 4. 評価から問題点の抽出方法、および訓練プログラムの立案方法を理解することができる。 5. 症例報告書の書き方を理解することができる。
授業計画	＜担当教員名＞佐藤豊展 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：　成人構音障害の種類と原因(運動障害・器質障害) 運動障害性構音障害の基礎理論　★小テスト 第２回：　運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状① 第３回：　運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状② 第４回：　運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状③ 第５回：　評価方法①：会話評価　★小テスト　★レポート 第６回：　評価方法②：発声発語器官の形態と機能の検査 第７回：　評価方法③：神経学的検査 第８回：　検査結果のまとめ方、問題点の抽出・訓練プログラム立案、症例報告書の書き方
アクティブラーニング	Webclassを活用して、レポート課題を行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います。

評価方法	定期試験　60%、レポート20%、小テスト20% レポートは、ルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床　第1巻　理論編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床　第2巻　臨床基礎編」インテルナ出版
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。 1）事前課題 ①第1回：P29-66、117-126、171-208　　※第1巻　理論編 ②第2回：P69-83　※第1巻　理論編 ③第3-4回：P84-116、P134-163　　※第1巻　理論編 ④第5-7回：P23-70、Webclass　※標準ディサースリア検査 ⑤第8回：P71-83　※標準ディサースリア検査 2）事後課題 講義の際に提示します。 3）小テスト ①第1回：発声発語器官の解剖と生理、神経学的基盤 ②第5回：第1-4回の内容 4）レポート 第5回：「会話評価」　　※第7回締切
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3511研究室、月曜15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発声発語障害評価演習
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学を踏まえて、実際に発声発語障害のある方にご協力頂き、評価から訓練プログラムの立案までをグループ演習で行う。 成人構音障害の演習では、演習協力者の情報から評価の計画を立案する。症例情報や会話評価から適切な鑑別検査を選択する。結果を分析し、掘り下げ検査を選択して実施する。検査後は、発生メカニズムや症状を原因と関連づけて分析し、タイプ分類や問題点の抽出、訓練プログラムの立案を行う。最終的に評価報告書を作成する。本科目は、グループ学習・グループ演習・Webを用いた学習を通じて主体的に
到達目標	1. 小児の構音障害の発話を聞き取りIPAで表記できる 2. 新版－構音検査、口蓋裂言語検査を実施し、結果をまとめることができる 3. 基本的臨床態度を学び、演習で実施することができる 4. 演習協力者の計画書を作成し、評価を実施し、結果を分析することができる 5. 問題点を抽出し、訓練プログラムを立案することができる 6. 症例報告書が作成できる
授業計画	＜担当教員名＞佐藤豊展、柴本勇、中村哲也 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：　機能性構音障害の評価　中村哲也 第２回：　新版－構音検査①　中村哲也 第３回：　新版－構音検査②　中村哲也 第４回：　演習：機能性構音障害児の聞き取り・IPA表記　中村哲也 第５回：　〃　中村哲也 第６回：　器質性構音障害の評価　中村哲也 第７回：　口蓋裂言語検査　中村哲也 第８回：　基本的臨床態度・行動演習・症例演習計画発表　★レポート　佐藤豊展 第９回：　演習：症例模擬演習（リハーサル）　佐藤豊展・柴本　勇 第10回：　演習：症例演習(会話評価)①A/B　佐藤豊展・柴本　勇 第11回：　演習：症例演習(会話評価)①C/D　★レポート　佐藤豊展・柴本　勇 第12回：　演習：症例模擬演習（リハーサル）　佐藤豊展・柴本　勇 第13回：　演習：症例演習(評価)③A/B　佐藤豊展・柴本　勇 第14回：　演習：症例演習(評価)③C/D　佐藤豊展・柴本　勇 第15回：　症例発表　★レポート　佐藤豊展・柴本　勇 ＊第1～7回は小児構音障害、第8～15回は成人構音障害

アクティブラーニング	演習はグループ形式で行います。 Webclassを活用して、レポート課題を行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	定期試験　40％、レポート40%、演習10％、症例発表10% 　＊小児構音障害：定期試験40％、レポート10％ 　＊成人構音障害：レポート30%、演習10％、症例発表10% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	症例計画書・報告書、レポートの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床　第2巻　臨床基礎編」インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル－　改定第２版」金原出版
参考図書	西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は各40分と考えています。 【成人構音障害】 1）事前学習 　成人構音障害学の講義資料 2）事後学習 　適宜、Webclassで提示する。 3）レポート ①第8回：「1回目の評価計画書（各G）」　第9回締切 ②第11回：「2回目の評価計画書（各G）」　第12回締切 ③第14回：「症例報告書（各G）」　第15回締切 ④第15回：「最終の症例報告書（各G）」　講義内で提示
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	①成人構音障害（佐藤豊展） リハビリテーション学部、3511研究室、月曜15：00～17：30 ②小児構音障害（中村哲也） リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発声発語障害治療演習
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学、発声発語障害評価演習を踏まえて、発声発語障害の治療を学んでいく。講義では模擬的に治療を実施することで具体的な治療手技を習得する。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。
到達目標	1. 小児の構音障害児の発話から、評価、治療プログラム立案、治療までの一連の臨床の流れを理解し、模擬的に実施することができる 2. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。 3. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や治療プログラムの立案ができる。 4. 症例報告書が作成できる。
授業計画	＜担当教員名＞佐藤豊展、柴本勇、中村哲也 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：　小児の構音障害の評価　中村哲也 第２回：　小児の構音障害の治療　中村哲也 第３～７回：症例演習（グループごとにPBL にて実施）　中村哲也 第７～８回：症例発表　中村哲也 第９回：　訓練理論　佐藤豊展 第10回：　機能改善訓練①（呼吸機能・発声機能）　佐藤豊展・柴本 勇 第11回：　機能改善訓練②（鼻咽腔機能・口腔構音機能）　佐藤豊展・柴本 勇 第12回：　代償的訓練①　佐藤豊展・柴本 勇 第13回：　代償的訓練②　佐藤豊展・柴本 勇 第14回：　AAC / 症例報告書の書き方　★小テスト（第9-13回）　佐藤豊展 第15回：　実技演習 / 総括　★ルーブリック、レポート　佐藤豊展・柴本 勇 ＊第1～8回は小児構音障害、第9～15回は成人構音障害
アクティブラーニング	演習はグループ形式で行います。 Webclassを活用して、レポート課題を行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	症例発表 30%、レポート35%、実技演習20%、小テスト15% ＊小児構音障害：症例発表　30%、レポート20% ＊成人構音障害：レポート（症例報告書）15%、実技演習20%、小テスト15% 実技演習の達成度は、ルーブリックに基づいて確認します。
課題に対するフィードバック	症例報告書、確認テストの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。

指定図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床　第3巻　臨床実用編」インテルナ出版 阿部雅子「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル－　改定第２版」金原出版
参考図書	西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床　第1巻　理論編」インテルナ出版 西尾正輝編「ディサースリアの基礎と臨床　第2巻　臨床基礎編」インテルナ出版 西尾正輝編「標準ディサースリア検査」インテルナ出版
事前・ 事後学修	1回の事前・事後学修時間は各40分と考えています。 【成人構音障害】 1）事前学習 ①第9回　＊第2巻　臨床基礎編 ・P126-129　治療アプローチの基盤となるモデル ・P130-133　運動療法的アプローチの基本 ・P162-170　運動学習理論 ・P180-182　タイプごとの言語治療ガイドラインのまとめ ・P183-184　治療アプローチの分類と治療目標 ②第10回：P3-7、P8-15、P16-20　※第3巻　臨床実用編 ③第11回：教科書P77-87、　P99-120　　※第3巻　臨床実用編 ④第12-14回：教科書P141-146、149-156、159－196　　※第3巻　臨床実用編 2）事後学習 適宜、Webclassで提示する。 3）レポート 第15回：「症例報告書（評価演習の症例について）」　締切は講義内で提示する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	①成人構音障害（佐藤豊展） リハビリテーション学部、3512研究室、月曜15：00～17：30 ②小児構音障害（中村哲也） リハビリテーション学部、3512研究室、水曜13：00～14：20 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	流暢性障害学
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　６セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解している
科目概要	吃音は様々な要因によって引き起こされる。吃音症状は個別的であり、訓練方法も個別的でなければならない。吃音の改善に取り組む言語聴覚士は、言語症状だけでなく対象者の生育環境や人間関係などにも目を向ける必要がある。
到達目標	1. 吃音の疫学研究，原因論，分類法を学ぶ。 2. 吃音臨床の基本を習得する。 3. 吃音児（者）の抱えている問題や悩みを理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1回：発話の流暢性の障害　原因論と進展　谷 第 2回：幼児期の言語発達と発話の非流暢性　発達障害との合併　谷 第 3回：吃音の評価方法①　概説　谷 第 4回：吃音の評価方法②　実際　谷 第 5回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法①　環境調整　谷 第 6回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法②　直接法　谷 第 7回：成人の吃音に対する訓練法　谷 第 8回：吃音児者を取り巻く環境　セルフヘルプグループ　谷
アクティブラーニング	反転授業の実施のためにWebClassを用いる
授業内のICT活用	ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。

評価方法	定期試験　80% 毎回の小テスト（復習テスト）20%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）を授業の中で行います
指定図書	小林宏明・川合紀宗編著「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」学苑社
参考図書	なし
事前・事後学修	WebClassによる予習・復習（毎回、各40分） 〔事前学修〕 毎回の授業前に予習範囲を提示します。 〔事後学修〕 毎回の小テストに備えて授業資料を確認し学修を定着させること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	摂食嚥下障害総合演習
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	摂食嚥下障害の評価、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、訓練手技について学ぶ。STが行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに行う精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。摂食嚥下障害への直接訓練や間接訓練にについて学んでいく。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。
到達目標	1. VF、VEの目的や意義、評価用紙への記録方法を説明できるとともに、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。 2. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。 3. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。 4. 症例報告書が作成できる。
授業計画	＜担当教員名＞佐藤豊展、柴本勇、有薗信一、ゲストスピーカー ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：　摂食嚥下障害評価学の振り返り　佐藤　豊展 第２回：　摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定　演習　佐藤　豊展・柴本　勇 第３回：　〃　②　〃　佐藤　豊展・柴本　勇 第４回：　〃　③　〃　佐藤　豊展・柴本　勇 第５回：　摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法　講義・演習　柴本　勇・佐藤　豊展 第６回：　〃　②嚥下手技　講義・演習　柴本　勇・佐藤　豊展 第７回：　〃　③食事介助　講義・演習　柴本　勇・佐藤　豊展 第８回：　嚥下訓練のリスク管理、カニューレ　佐藤　豊展 第9-10回：　摂食嚥下障害の訓練　実技演習　★ルーブリック ゲストスピーカー・佐藤　豊展・柴本　勇 第11回：　呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法　有薗　信一・佐藤豊展 第12回：　手術的治療、補綴的治療　佐藤　豊展 第13～15回：　事例検討（評価、問題点抽出、訓練プログラム立案）　★レポート（症例報告書） 佐藤　豊展・柴本　勇
アクティブラーニング	事例検討ではグループ学修形式で行います。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います。
評価方法	定期試験　50％、レポート20％、実技演習30% 実技演習は、ルーブリックに基づいて確認する レポートは、ルーブリックを用いない。

課題に対するフィードバック	レポートの解説を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学（医歯薬出版） 聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル　第4版（医歯薬出版）
参考図書	才藤栄一・植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション　第3版（医歯薬出版） 藤島一郎・谷口洋著：脳卒中の摂食嚥下障害　第3版（医歯薬出版） 若林秀隆・藤本篤士編著：サルコペニアの摂食・嚥下障害（医歯薬出版）
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は各40分と考えています。 1）事前・事後学習 ①第1回：春セメスターの資料 ②第2-4回：教科書P124-137、229-234 ③第5-7回：教科書P137-155 ※日本摂食嚥下リハビリテーション学会　訓練法のまとめ https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/18-1-p55-89.pdf ④第8回：教科書P220-228 ⑤第9-10回：第2-7回 ⑥第12回：教科書P156-160、201-208 ⑦第13-15回：春セメスターの資料、秋セメすったー第1-12回の資料 2）事後学習 適宜、Webclassで提示する。 3）レポート 第13-15回：「症例報告書」　　講義内で提示する
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3511研究室、月曜15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士、理学療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚障害学
科目責任者	大原　重洋
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　　３セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	1年次に学んだ聴覚メカニズムと聴覚疾患に関する知識をもとに、この科目では聴覚機能の診断に必要とされる基本的な聴覚検査の理解をめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査を中心に、その他の各種聴覚検査を学習します。加えて、難聴者の聴こえと聴覚補償の概要を学ぶとともに、聴覚特別支援学校を見学し、教育現場における指導の実際を理解します。
到達目標	1. 各種聴覚検査を体験し、検査意義や適応、検査方法を説明できる。 2. 各種聴覚検査の検査結果から分かることが説明できる。 3. 聴覚補償の方法とコミュニケーン手段について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大原重洋 第 1回：オリエンテーション　（概要と受講ﾙｰﾙ、耳の構造、伝導路） 聴覚障害による問題　（伝音難聴、感音難聴、ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別問題） 第 2回：聴覚検査の種類　（自覚的検査、他覚的検査） 第 3回：ｵｰｼﾞｵﾒｰﾀとｵｰｼﾞｵｸﾞﾗﾑ　（ｵｰｼﾞｵｸﾞﾗﾑの書き方、読み取り） 第 4回：標準純音聴力検査　気導聴力検査　（目的、準備、検査説明、受話器の装着、手続き） 第 5回：標準純音聴力検査　骨導聴力検査　（準備、検査説明、受話器の装着、手続き） 第 6回：陰影聴取とマスキング　（陰影聴取、両耳間移行減衰量、ｵｰﾊﾞｰﾏｽｷﾝｸﾞ） 第 7回：標準純音聴力検査　マスキング　（ﾏｽｷﾝｸﾞ手続き、ｵｰｼﾞｵｸﾞﾗﾑの記入） 第 8回：標準純音聴力検査　（解釈） 第 9回：語音聴力検査　（目的、準備、検査説明、手続き） 第10回：語音聴力検査　（ｽﾋﾟｰﾁｵｰｼﾞｵｸﾞﾗﾑへの記入、読み取り） 第11回：語音聴力検査　（解釈） 第12回：標準純音聴力検査、語音聴力検査まとめ 第13回：聴覚特別支援学校の指導・教育①　（聴覚補償機器、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ方法） 第14回：聴覚特別支援学校の指導・教育②　（教育方法、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ手段） 第15回：聴覚特別支援学校の指導・教育③　（環境面の工夫）
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等の視聴や検査練習を行う。
授業内のICT活用	なし

評価方法	期試験70%、平常点30%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学　聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に検査手技の練習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚機能評価演習
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　　４セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
科目概要	3セメスターで学んだ聴覚機能の評価に関する理論をもとに、実際に各種検査法の具体的技法を取得することをめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能・内耳機能検査、聴性脳幹反応検査など、各種聴覚検査の原理を再確認し、具体的技法を学習します。
到達目標	1. 各種聴覚検査の検査意義や適応を理解した上で、具体的検査方法を説明できる。 2. 標準純音聴力検査・語音聴力検査を実施でき、結果を正しく記録できる。 3. 各種聴覚検査の検査結果を読みとることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大原重洋 第　1回：ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、復習　（標準純音聴力検査、語音聴力検査） 第　2回：ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽｵｰｼﾞｵﾒﾄﾘ　（目的、仕組み、手続き） 第　3回：ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽｵｰｼﾞｵﾒﾄﾘ　（ﾃﾞｰﾀの読みとり、解釈） 第　4回：自記ｵｰｼﾞｵﾒﾄﾘ　（目的、仕組み、手続き） 第　5回：自記ｵｰｼﾞｵﾒﾄﾘ　（ﾃﾞｰﾀの読みとり、解釈） 第　6回：閾値上検査　（ﾊﾞﾗﾝｽﾃｽﾄ：目的、手続き、解釈） 第　7回：閾値上検査　（SISI・MCL・UCL：目的、手続き、解釈） 第　8回：耳音響放射検査　（目的、発生機序） 第　9回：耳音響放射検査　（手続き、解釈） 第 10回：聴性誘発反応　（目的、仕組み） 第 11回：聴性誘発反応　（手続き、解釈） 第 12回：聴覚検査演習1 第 13回：聴覚検査演習2 第 14回：実技チェック　（標準純音聴力検査） 第 15回：実技チェック　（語音聴力検査）
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし

評価方法	期試験70%、実技点30%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	日本聴覚医学会編:「聴覚検査の実際.」南山堂 中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学　聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 グループ毎に演習の準備、補聴器の測定練習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児聴覚障害学
科目責任者	大原　重洋
単位数他	２単位（30時間）　言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	乳幼児聴力検査の講義を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解し、実際の機器を用いて検査を実施する。
到達目標	1. 新生児聴覚スクリーニングに用いる検査の原理と手技について説明することができる。 2. 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。 3. 聴覚障害児に固有の心理言語社会的能力の発達を理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　大原重洋 第　1回：オリエンテーション、聴覚障害と発達への影響、小児聴覚臨床の基本姿勢、聞こえのメカニズムとその障害、小児期の聴覚障害とハビリテーション 第　2回：乳幼児の聴覚発達と、検査法の選定と鑑別 第　3回：聴力検査①乳幼児期（PEEP SHOW） 第　4回：小児の聴力検査②乳児期（COR、VRA） 第　5回：早期発見と早期療育、聴覚ハビリテーション 第　6回：新生児聴覚スクリーニングの理論と実際（AABR、OAE、ABR、ASSR） 第　7回：聴力検査③幼児期～学童期（Play Audiometry） 第　8回：Play Audiometry演習／PEEP SHOW、COR演習* 第　9回：聴力検査④乳児期（BOA） 第 10回：BOA演習／PEEP SHOW、COR演習* 第 11回：聴力検査⑤幼児期後期～学童期（語音聴力検査） 第 12回：語音聴力検査演習／PEEP SHOW、COR演習* 第 13回：言語のハビリテーション（概要と評価） 第 14回：言語のハビリテーション（原理とシステム） 第 15回：関連情報の収集 ※グループごとにPEEP SHOWとCORについて、ルーブリックに基づいて評価する。
アクティブラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験70%、乳幼児検査手技30% ※乳幼児検査（PEEP SHOW、COR）の達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学　聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小児聴覚障害演習
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　５セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	小児固有の聴性行動を理解した上で、先天性聴覚障害児の認知・言語・心理的側面の典型的症状と評価・指導法について学習する。さらに、協力者の協力を得て、立案した評価・指導プログラムを実施し、結果を報告書にまとめる。
到達目標	小児の聴覚評価と言語指導のプログラムを立案し、実際の聴覚障害児に実施し、報告書としてまとめ、報告することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　大原重洋 第　1回：言語のハビリテーション（幼児期） 第　2回：演習（聴覚障害児） 第　3回：演習（聴覚障害児）　※予定 第　4回：言語のハビリテーション（幼児期後期から学童期） 第　5回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討 第　6回：演習（聴覚障害児） 第　7回：演習（聴覚障害児）　※予定 第　8回：心理社会的発達と評価 第　9回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討 第 10回：書記言語の獲得と学習 第 11回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討 第 12回：演習（聴覚障害児） 第 13回：演習（聴覚障害児）　※予定 第 14回：報告会① 第 15回：報告会② ※演習協力者の状況や学習の進捗によって、日程の変更や授業内容を追加することがあります。
アクティブラーニング	演習科目である。
授業内のICT活用	なし

評価方法	評価訓練計画書40%、評価訓練の実施30%、報告書と発表30%
課題に対するフィードバック	評価訓練計画書の作成、学生同士の検査演習における手技については、その場でフィードバックする。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学　聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	グループ毎に演習の準備、評価・訓練プログラムの立案を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	成人聴覚障害学
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　６セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この科目では聴覚障害学、聴覚機能評価演習、聴覚補償演習で学んだ評価・支援に関する知識を整理・統合することが目標です。成人期の聴覚障害者の聴覚障害の特徴を理解し、評価･診断、指導・支援について考えていきます。また視覚聴覚二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深め、支援方法および代替コミュニケーション手段について学習します。
到達目標	1. 中途失聴者・難聴者の聴覚保障およびｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援について説明できる。 2. 視覚聴覚二重障害の方の特徴を挙げることができる。 3. 聴覚障害者のための各種支援機器、社会福祉制度、社会資源について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞大原重洋 第 1回：　成人期の聴覚障害の特徴 第 2回：　聴覚障害者の評価と指導①：補聴と聴力活用 第 3回：　聴覚障害者の評価と指導②：コミュニケーション手段 第 4回：　聴覚障害者の評価と指導③：コミュニケーション指導 第 5回：　聴覚障害者の評価と指導④：読話指導 第 6回：　視覚聴覚二重障害①　：概要、評価・支援方法 第 7回：　視覚聴覚二重障害②　：概要、評価・支援方法 第 8回：　福祉機器と社会資源　：各種福祉機器、社会福祉制度、社会資源
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等を視聴し、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験70%、小テスト・平常点30%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、メールによる質問には、随時、フィードバックを行う。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学　聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	聴覚補償演習
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	聴覚障害児・者の聴覚感覚を保証する補聴器や人工内耳の原理と特性を理解し、適合法を学習する。
到達目標	1. 補聴器の原理と機能を理解し、聴力レベルに応じて実際に調整することができる。 2. 人工内耳の原理・機能を理解し、プログラミング法を説明することができる。 3. 無線補聴システムの利用について説明することができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　大原重洋 第　1回：オリエンテーション、補聴器の基礎（A,B,D,E,F） 第　2回：特性測定（G） 第　3回：補聴器調整プログラム（演習①） 第　4回：補聴器調整プログラム（演習②） 第　5回：特性測定の実際（演習③） 第　6回：補聴器使用時の聴力（H） 第　7回：演習④ 第　8回：補聴器の選択、調整と処方（I） 第　9回：演習⑤ 第 10回：補聴効果の評価（K） 第 11回：演習⑥ 第 12回：演習⑦ 第 13回：演習⑧ 第 14回：人工中耳・聴性脳幹インプラント、その他の人工感覚器 第 15回：無線補聴システムの原理と機能と教育現場における活用
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験60%、補聴器適合手技40% ※補聴器適合手技の達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	演習における手技について、その場でフィードバックする。
指定図書	小寺一興「補聴器のフィッティングと適用の考え方」診断と治療社
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 グループ毎に演習の準備、補聴器の測定練習を行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床言語聴覚療法基礎実習
科目責任者	大原　重洋
単位数他	１単位（45時間）　言語必修　　１セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	本実習は、言語聴覚士の臨床活動の理解・言語聴覚障害者の理解を目的に、近隣の医療施設で言語聴覚療法の実際を見学する。臨床見学を通じて、言語聴覚士を志す動機を高め、医療職としての態度、社会でのマナーを身につける。
到達目標	1. 見学施設の特徴を説明できる。 2. 言語聴覚士の臨床活動を説明できる。 3. 言語聴覚障害者・摂食嚥下障害者の症状や様子を説明できる。 4. 医療施設で自身の立場をわきまえて見学できる。 5. 見学を通じて自身で考えたことを発表できる。
授業計画	＜担当教員名＞ 大原重洋、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、小林マヤ、中村哲也、佐藤豊展 すべてを全員で担当する ＜授業内容・テーマ等＞ 以下の日程及び内容を実施する。 7月：実習オリエンテーション・事前学習 8月5日～9日の期間中に5日間医療施設で見学をする 9月に見学報告会及びレポート提出 ①事前学習：実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー ②実習施設への電話連絡 ③実習施設での見学：言語聴覚士の活動、言語聴覚療法の実際、言語聴覚障害者の症状、守秘義務の理解、記録 ④臨床言語聴覚療法基礎実習報告会での発表 ⑤臨床言語聴覚療法基礎実習レポート
アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし

評価方法	事前学習20%、見学施設での活動40%、報告会20%、レポート20%
課題に対するフィードバック	オリエンテーション及び事前学習内容は、科目責任者が提示します。その後、各課題を実習施設担当教員に提出し、適時担当教員からフィードバックをします。見学施設での活動は、実習施設での担当言語聴覚士から担当教員を通じてフィードバックをします。
指定図書	『言語聴覚障害学概論』　編集　藤田郁代　医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	〔事前学習〕実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー、実習施設への連絡方法をで行います。 〔事後学修〕自身の基礎実習を振り返りながら、実習報告会の準備をし、自身の学びをレポートにまとめます。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405研究室　水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床言語聴覚療法評価実習
科目責任者	佐藤　順子（リハビリテーション学部）
単位数他	２単位（90時間）　言語必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚障害の評価・診断・目標設定などについて学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例を通して学ぶ。これまで学内で学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認し、再統合する機会とする。また、臨床におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. 教員および実習指導者に適切に報告・連絡・相談ができる。 2. 情報収集に始まり、適切な検査法を選択できる。 3. 検査・観察などを通して患児・者の全体像を把握し、文章化できる。 4. 社会人としての基本的態度を養う。
授業計画	＜担当教員＞ 柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、小林マヤ、中村哲也、佐藤豊展 ＜授業内容・テーマ等＞ 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について2週間の実習を行う。 ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし

評価方法	実習評価表70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・事後学修	※言語聴覚障害診断学や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、評価実習の事前学習を行う。 ※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。 ※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。 ※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。 ※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。 ※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習Ⅰ
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	６単位（270時間）　言語必修　７セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、他職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、これまで学んだ専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、実際の症例の言語聴覚障害を評価・診断し、目標設定を行う。さらに訓練プログラムの立案ならびにその実践を通し、専門技術について学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行、結果の解釈と鑑別診断、目標の設定などが行えるようになる。
授業計画	＜担当教員＞ 佐藤豊展、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、小林マヤ、中村哲也 ＜授業内容・テーマ等＞ 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について6週間の実習を行う。 ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし

評価方法	実習評価表70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・事後学修	※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ｉの事前学習を行う。 ※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。 ※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclassの当該コースに示します。 ※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。 ※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。 ※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	６単位（270時間）　言語必修　７セメスター
DP番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、他職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚療法の実際について学ぶ。総合実習では臨地施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例の言語聴覚障害の評価・診断から目標設定をし、訓練プログラムの立案ならびにその実践を通して専門技術を総合的に学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。
到達目標	1. 最後の臨床実習としてこれまでに学修してきた専門知識や技術を再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行を通して障害を正しく評価できる。 3. 訓練プログラムを設定し、訓練を行うことができる。 4. 報告書としてまとめ発表する。
授業計画	＜担当教員＞ 佐藤豊展、谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、小林マヤ、中村哲也 ＜授業内容・テーマ等＞ 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について、6週間の実習を行う。 ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし

評価方法	実習評価表70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・事後学修	※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ｉの事前学習を行う。 ※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。 ※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Webclassの当該コースに示します。 ※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。 ※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。 ※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域言語聴覚療法学
科目責任者	佐藤　豊展
単位数他	１単位（15時間）　言語必修　　８セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え，専門職として貢献することができる．
科目概要	地域言語聴覚療法の概念を理解し，生活期の言語聴覚療法について学修する．介護保険制度における言語聴覚療法の実施条件を理解する．地域言語聴覚療法の実践例を通して具体的イメージを促すとともに，地域言語聴覚療法の現実的な問題点を整理する．
到達目標	1.　医療保険下の言語療法と介護保険下の言語聴覚療法の制度や目的の違いを理解できる． 2.　地域言語聴覚療法の地域性，個別性を理解できる． 3.　地域言語聴覚療法に求められる専門性と社会性を理解できる．
授業計画	＜担当教員名＞佐藤　豊展，ゲストスピーカー ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：日本の医療・福祉の問題点　地域包括ケアシステム　佐藤　豊展 第 2回：地域言語聴覚療法の概要　★小テスト　佐藤　豊展 第 3回：地域言語聴覚療法に必要な知識①　疾患と評価　佐藤　豊展 第 4回：地域言語聴覚療法に必要な知識②　問題抽出と目標設定　佐藤　豊展 第 5回：地域言語聴覚療法に必要な知識③　介護保険制度と障害者福祉制度　佐藤　豊展 第 6-8回：地域言語聴覚療法の実践例　★小テスト，レポート　ゲストスピーカー
アクティブラーニング	Webclassを活用します．
授業内のICT活用	ICT機器を利用して映像で確認しながら行います．

評価方法	レポート60%，小テスト40% レポートは，ルーブリックを用いない.
課題に対するフィードバック	小テストの解説を行います. リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします.
指定図書	半田理恵子，藤田郁代編「地域言語聴覚療法学（標準言語聴覚障害学）」医学書院
参考図書	森田秋子，黒羽真美「在宅・施設リハビリテーションにおける言語聴覚士のための地域言語聴覚療法」三輪書店
事前・事後学修	1回の事前・事後学修時間は40分と考えています.
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部，3511研究室，月曜15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です.

科目名	拡大代替コミュニケーション演習
科目責任者	小林　マヤ
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　　８セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
科目概要	コミュニケーションを音声言語から拡大する方法、音声言語を代替する方法について演習を通じて学ぶ。本科目では、ローテクノロジー・ハイテクノロジー・スイッチの適応等のコミュニケーション方法の選択とその訓練法について模擬的に実施しながら理解を深めていく。
到達目標	1.　拡大代替コミュニケーションの種類と適応を説明できる。 2.　適切な拡大代替コミュニケーション方法選択ができる。 3.　拡大代替コミュニケーションの訓練を模擬的にできる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション・人のコミュニケーション　小林　マヤ 第 2回：拡大代替コミュニケーションとは　小林　マヤ 第 3回：拡大代替コミュニケーションの種類と適応　小林　マヤ 第 4回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法①　柴本　勇 第 5回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法②　柴本　勇 第 6回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法③　小林　マヤ 第 7回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法①　谷　哲夫 第 8回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法②　谷　哲夫 第9回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法③　小林　マヤ 第10回：スイッチの選択と適応①　小林　マヤ 第11回：スイッチの選択と適応②　小林　マヤ 第12回：拡大代替コミュニケーション訓練①　柴本　勇 第13回：拡大代替コミュニケーション訓練②　谷　哲夫 第14回：拡大代替コミュニケーション訓練③　小林　マヤ 第15回：まとめ　小林　マヤ
アクティブラーニング	演習科目です
授業内のICT活用	WebClassまたはGoogle FormなどのICTツールを利用し、授業内で理解度確認を行う双方向型授業を実施する。

評価方法	定期試験：40%、実技演習60%
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。 毎回講義終了時に、毎回ディスかションを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	演習科目ですので、殆ど実技を行っていきます。 実技に必要な知識(復習)が必要です。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回講義時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚学研究法
科目責任者	佐藤　順子（リハビリテーション学部）
単位数他	１単位（15時間）　　言語必修　　５セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	研究論文の理解と研究計画書作成のために必要となる研究の基礎知識を学ぶ。論文を読み、内容を正確に理解し要約することや、自ら疑問を持つこと、自分の意見を他者に伝えることができることを目指す。また興味のある研究テーマを決めて、研究計画の立案と実験・調査の修正の過程について演習を通じて学ぶ。
到達目標	1.論文の読み方（論文の構成、事実と根拠、批判的に読む）の基本を学ぶ。 2.キーワードでテキスト等の書籍から解説文を探し、内容を理解するためにさらに他の文献を探すことができる。 3.先行研究の論文を読み、教員や他の学生に概要を伝えることができる。 4.研究の種類を学び、適切な研究法を選択できる。 5.簡単なテーマでの研究計画書を立案できる。 6.論文の書き方の基本（論文の体裁と構成、事実と根拠、文章表現）を学ぶ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：研究の意義・研究の種類　佐藤順子 第 2回：文献検索（ラーニングコモンズ）　佐藤順子 第 3回：興味のある研究テーマの文献検索　佐藤順子 第 4回：文献の読解・要約　（レポート提出）　佐藤順子 第 5回：研究テーマを考える　佐藤順子 第 6回：研究テーマを考える　佐藤順子 第 7回：卒論の読解・要約　（レポート提出）　佐藤順子 第 8回：研究テーマ発表　佐藤順子
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	レポート
課題に対するフィードバック	授業内に解説をします。
指定図書	『よくわかる卒論の書き方』白井利明他　ミネルヴァ書房 『論文の教室-レポート作成から卒論まで-』戸田山和久　NHKブックス

参考図書	言語聴覚学科卒業論文
事前・ 事後学修	〔事前学修〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。 〔事後学修〕 授業で課題として出されたレポートを作成する。
オープン エデュケ ーション の活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験 に関する 記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚学研究法演習
科目責任者	谷　哲夫
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　　６セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて幅広い視野で議論し考察することができる
科目概要	言語聴覚障害学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を読み、教員や他のメンバーに概要を伝えることができる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 5. 研究目的、関連する先行研究（5編以上）、研究方法、今後のスケジュールを記載したレポートを作成する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ 谷哲夫、柴本勇、佐藤順子、大原重洋、小林マヤ，中村哲也、佐藤豊展 ＜授業内容・テーマ等＞ 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。 第 1回：卒業研究の概要説明 第 2回：研究法の多様性を知る 第 3回：テーマの仮設定 第 4回：関係資料の収集 第 5回：関係資料の整理 第 6回：抄読会 第 7回：先行研究の収集と整理 第 8回：ゼミ報告（先行研究と自分のテーマとの関連性について） 第 9回：ゼミ報告（先行研究に学ぶ研究法の選択） 第10回：研究計画の立案 第11回：ゼミ発表・報告

	第12回：研究計画の修正 第13回：テーマの再確認と年間計画立 第14回：レポートまとめ 第15回：レポートまとめ
アクティブラーニング	演習科目
授業内のICT活用	なし
評価方法	課題の提出物　70% ゼミ中の参加態度　30% 上記で評価するのでルーブリ区は用いない。
課題に対するフィードバック	添削・返却して授業時間にフィードバックする
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	研究家計画に関する課題の遂行と修正（毎回、各40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406研究室 時間等：毎週月曜　11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害学総合演習
科目責任者	佐藤　順子（リハビリテーション学部）
単位数他	１単位（30時間）　言語必修　６セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	1ｾﾒｽﾀｰから5ｾﾒｽﾀｰまでに学修した内容の総まとめとして、獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、総合実習に備える。実習生としての基本的な姿勢（身だしなみや態度、ことば遣い、症例や家族、他のスタッフに対する配慮など）を身につけるとともに、情報収集や観察記録の取り方、各種検査の実施と記録、評価のまとめと症状分析、日誌の作成とカルテ記入、Deep Testの作成、訓練プログラムの立案、訓練の実施、症例報告やレポート作成など、言語聴覚療法の臨床に関する一連の内容を総合的に再学習し整理する。
到達目標	1. リハビリテーション専門職を目指す実習生として的確な行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につけることができる。 2. 症例検討を通して、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、および訓練の実施ができる。 3. 症例報告書を作成することができる。 4. 実習を想定した演習で訓練を実施し、記録することができる。
授業計画	＜担当教員＞ 柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、小林マヤ、中村哲也、佐藤豊展 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1回：オリエンテーション　佐藤順子・中村哲也 第 2回：報告･連絡･相談、安全管理　佐藤順子・中村哲也 第 3回：情報収集　佐藤順子・中村哲也 第 4回：行動観察、記録　佐藤順子・中村哲也 第 5回：報告書の作成　佐藤順子・中村哲也 第 6回：症例検討 ①　佐藤順子・中村哲也 第 7回：症例検討 ②　＊レポート①　佐藤順子・中村哲也 第 8回：症例検討 ③　佐藤順子・中村哲也 第 9回：症例検討 ④　＊レポート②　佐藤順子・中村哲也 第10回：ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ、ﾊﾞｲﾀﾙﾁｪｯｸ　①　金原一宏 第11回：ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ、ﾊﾞｲﾀﾙﾁｪｯｸ　②　金原一宏 第12回：総合的臨床能力試験 ①　全教員 第13回：総合的臨床能力試験 ②　全教員 第14回：総合的臨床能力試験 ③　＊レポート③　全教員 第15回：まとめ　佐藤順子・中村哲也

アクティブラーニング	授業内では、適時、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験40%、総合的臨床能力試験30%、レポート 20%、提出物10% 総合的臨床能力試験は、ルーブリックに基づいて確認する レポートは、ルーブリックを用いない
課題に対するフィードバック	提出物・実技内容については、適時、フィードバックをします。
指定図書	深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、佐竹恒夫編: 図解 言語聴覚療法技術ガイド. 文光堂, 2014
参考図書	なし
事前・事後学修	※指定図書以外に、これまでの授業で使用した教科書に戻って学修を深めることを勧めます。 ※毎回の講義終了時に、次回までの予習・復習内容を示します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	卒業研究
科目責任者	佐藤順子（リハビリテーション学部）
単位数他	１単位（30時間）　　言語選択　　８セメスター
DP番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	言語聴覚療法学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身に付ける。
到達目標	1.言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2.先行研究の論文を検索し、概要をまとめる。 3.調査・実験計画を立案できる。 4.ゼミごとにディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 5.研究目的、関連する先行研究、研究方法を記載した研究計画書を作成する。 6.研究計画書をもとにデータを収集する。 7.データを解析し、理論的な考察ができる。 8.研究内容をまとめ、論文を作成し、報告会でプレゼンテーションを実施する。
授業計画	＜担当教員名＞ 柴本　勇、佐藤順子、谷　哲夫、大原重洋、小林マヤ、中村哲也、佐藤豊展 （すべての内容を全員で担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1回：卒業研究の概要の説明 第 2回：テーマの選定 第 3回：先行研究の収集と要約 第 4回：研究計画の立案 第 5回：研究計画の修正 第 6回：試験的データの収集・分析 第 7回：本実験の方法の再検討 第 8回：研究計画に基づいた実験・調査の遂行 第9回：データの収集・整理 第10回：統計処理・分析 第12回：論文の作成・草稿の提出 第13回：プレゼンテーションの作成 第14回：卒業論文報告会で発表 第15回：卒業論文の最終修正・提出

アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	卒業論文の完成度（７０％）ゼミの態度（１５％）発表（１５％）
課題に対するフィードバック	授業内に解説をします。
指定図書	各教員ごとに指示します。
参考図書	なし
事前・事後学修	ゼミの教員から出された課題を期日までに提出する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	言語聴覚障害学特別講義
科目責任者	佐藤豊展
単位数他	１単位（15時間）　　言語選択　　８セメスター
DP番号と科目領域	DP5専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	4年間学んだ言語聴覚士国家試験対象科目である専門基礎科目、専門科目の学習内容を振り返りながら、各科目の理解度と習得状況を確認する。また、知識が不十分な科目について学生自ら自覚し、必要な知識の再学習を行なう。
到達目標	1.国家試験、頻出用語を説明できる。 2.調べたこと・覚えたことを人に教えることが出来る。 3.毎日の学習スケジュールを記録できる。 4.模擬試験の結果をもとに、自己学習内容・時間を計画できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：オリエンテーション、専門基礎①：基礎医学、臨床医学　佐藤豊展 第 2 回：専門基礎②：臨床歯科医学、音声・言語・聴覚医学　佐藤順子 第 3 回：専門基礎③：心理学　中村哲也 第 4 回：専門基礎④：音声・言語学、社会福祉・関係法規　谷　哲夫 第 5 回：専門①：言語聴覚障害学総論、失語・高次脳機能障害学　谷　哲夫 第 6 回：専門②：言語発達障害学　小林マヤ 第 7 回：専門③：発声発語・嚥下障害学　佐藤豊展 第 8 回：専門④：聴覚障害学　大原重洋
アクティブラーニング	演習科目（事前学修をして授業で質問、解説をします）
授業内のICT活用	なし

評価方法	定期試験（60%）、小テスト（40%）
課題に対するフィードバック	各担当教員から各自にフィードバックします。
指定図書	『言語聴覚士テキスト第3版』廣瀬肇監、医歯薬出版、2018 『2020年版　言語聴覚士国家試験　過去問題』大揚社
参考図書	なし
事前・事後学修	［事前学修］ 各教科について事前にしっかり予習をすること。 ［事後学修］ 各科目で出された課題を提出すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、月曜15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際言語聴覚療法実習
科目責任者	柴本　勇
単位数他	２単位（90時間）　言語選択　　７セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は国際的視点に立った言語聴覚療法の提供を目指し、国内外の連携施設において言語聴覚療法に関する実習を行う。本科目は単に言語聴覚療法の実習にとどまらず、地域社会や国際社会のニーズを的確にとらえ専門職としての貢献を考えることも含む。
到達目標	1. 地域社会・国際社会において言語聴覚療法のニーズを分析し説明できる。 2. 言語聴覚療法の必要性に応じ、専門職として対応ができる。 3. 国際社会で活動できるスキルを身につけることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　柴本　勇 事前学習（１W）：地域援助、文化、語学、言語聴覚学 実習（２W）：連携施設において、言語聴覚療法に関する実習 事後学修（１W）：自身の活動と地域社会・国際社会との関係性についてレフレクション
アクティブラーニング	実習科目です。 本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前学習20%、実習60%、事後学修20% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	実習中は毎日振り返りを行い、フィードバックをする。
指定図書	なし
参考図書	初回講義時に提示する。

事前・ 事後学修	連携施設に行く前に、援助方法・文化・語学等の事前学習を実施する。事後学修として、自身の活動が地域社会とどのような関係かを検討する。同時に自身の専門性の向上についても検討する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室：3号館4階　3408研究室 初回講義時に提示します。 上記以外でも、メール(isamu-s@seirei.ac.jp)にて面談予約を受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発展的言語聴覚療法学
科目責任者	佐藤順子（リハビリテーション学部）
単位数他	１単位（15時間）　言語選択　　８セメスター
DP番号と科目領域	DP7専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	4年次まで学んできた言語聴覚学や言語聴覚療法に関する、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピック等更に発展的かつ最新情報を含めて学ぶ。学部から大学院への移行にふさわしい内容の学修を行う。高度専門職を目指す基盤を学ぶ。
到達目標	1.言語聴覚療法の、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピックを説明できる。 2.最新の知識等を用いて発展的な言語聴覚療法を提供できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション　発展的言語聴覚療法学　佐藤順子 第 2回：高次脳機能障害学の最新トピック　佐藤順子 第 3回：発話障害・摂食嚥下障害の最新トピック　柴本　勇 第 4回：言語発達障害の最新トピック　小林マヤ 第 5回：聴覚障害の最新トピック：教育領域も含めて　大原重洋 第 6回：地域言語聴覚療法の最新トピック　谷　哲夫 第 7回：言語聴覚療法と倫理　大原重洋 第 8回：言語聴覚学研究と臨床　柴本　勇
アクティブラーニング	ディスカッション・文献検討・症例検討等を行います。 小グループでの学修を行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験50%、レポート（事前事後学修課題）50%

課題に対するフィードバック	口頭にてフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	ディスカッションの内容、文献の内容、症例に関する内容を事前・事後学修します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407研究室 時間等：11:45～12：15（毎週月曜から木曜） 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.
実務経験に関する記述	本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。